

平成 30 年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金
社会福祉推進事業

介護技能実習評価試験における試験評価者の
資質向上のための総合的な支援ツールの開発に関する
調査研究事業 報告書

平成31年3月



一般社団法人 **シルバーサービス振興会**
シルバーサービスの安心と信頼の証、シルバーマーク

はじめに

2017年11月1日に「技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」が施行されるとともに、同法施行規則第6条において、実習制度の対象職種及び作業として「介護」が、試験として「介護技能実習評価試験」が追加されました。

この「介護技能実習評価試験」では、業界団体総意のもと、技能実習生が勤務する事業所・施設へ「試験評価者」が訪問し、実技試験や学科試験を実施する方式が採用されています。また、その試験を準備・監督し、実技試験の評価を行う「試験評価者」には、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」における「アセッサー資格」を有する者で、かつ「試験評価者養成講習」を修了した者とされています。

介護技能実習評価試験は、全国で随時実施されることから、試験の円滑な運営・実施のためには、試験評価者を全国に万遍なく配置する必要があります。試験評価者数を増やす一方で、試験という特性上、試験評価結果の公平性、均質性の確保も求められています。さらには、技能実習生の入国時期や場所は様々であり、試験評価者の活動の頻度も一定とはならないことから、試験評価者の資質を向上させるための継続的な支援を行うことも重要となります。

このため、本調査研究事業では、本年度から試験実施機関が実施している試験評価者養成講習及びこの受講修了者（試験評価者）を対象としたカリキュラムや研修内容の検証・分析を行うとともに、eラーニング等の活用など試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールの開発について検討を行いました。

検討にあたっては、検討委員会（委員長：原口恭彦 東京経済大学経営学部教授）を設置するとともに、映像音声を利用した自律学習システムの実績を持つClipLine株式会社にも協力いただきました。また、試験評価者養成講習を実際に受講した試験評価者の皆様には、集合講習時のアンケートに加え、その後自己学習を実施してもらう検証に協力いただきました。他職種の技能実習評価試験実施機関にも、試験評価者（試験監督者）の養成についてアンケートに協力いただいています。本調査研究事業の実施にあたっては、多くの方に協力いただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

試験評価者は、介護現場で実際に働く介護職員であると同時に、介護技能実習評価試験の仕組み、評価項目・評価基準の考え方等について正しく理解していることから、今後の外国人技能実習制度の普及啓発に大きく寄与することが期待されます。その資質の維持・向上は、我が国の介護職種における「技能移転」を推進していく上でも非常に重要な意味を持つことから、本調査研究事業の成果が、より効率的・効果的な支援ツールの開発を進めるとともに、継続的な支援体制の構築につながることを期待しています。

～ 目 次 ～

| | |
|-------------------------------------|----|
| 第 1 章 調査研究概要 | 1 |
| 1. 事業名 | 2 |
| 2. 事業実施目的 | 2 |
| 3. 実施体制 | 3 |
| (1) 検討委員会名簿 | 3 |
| (2) 検討委員会の開催 | 3 |
| 4. 各種調査の実施概要 | 4 |
| 第 2 章 「介護技能実習評価試験」の試験評価者養成の手法の分析結果 | 7 |
| 1. 介護技能実習評価試験 試験評価者養成についての分析 | 8 |
| (1) 介護技能実習評価試験の仕組み | 8 |
| (2) 試験評価者の資質と要件 | 9 |
| (3) 試験評価者の養成状況 | 10 |
| (4) 試験評価者養成講習の内容 | 12 |
| 2. 調査 1：試験評価者養成講習の受講者（試験評価者）へのアンケート | 14 |
| (1) 調査目的、調査対象、調査方法 | 14 |
| (2) アンケート結果 | 14 |
| (3) 再現動画による模擬評価の結果 | 17 |
| (4) アンケート結果等から得られた課題について | 20 |
| 3. 調査 2：他職種の技能実習評価試験実施機関へのアンケート | 22 |
| (1) 調査目的、調査対象、調査方法 | 22 |
| (2) アンケート結果 | 22 |
| (3) 介護職種と他職種の大きな違い | 26 |
| 第 3 章 試験評価者の資質向上のための支援ツールの検討 | 27 |
| 1. WEB 支援ツールの検討について | 28 |
| (1) 検討の経緯 | 28 |
| (2) 検証内容 | 28 |

| | |
|------------------------------------|----|
| (3) システムの仕組み | 29 |
| (4) 開発にあたっての留意点 | 30 |
| (5) 構成（案） | 31 |
| 2. 調査3：試験評価者の資質向上のための支援ツールの開発に伴う検証 | 36 |
| (1) 検証対象、検証方法 | 36 |
| (2) 第1弾検証 調査結果 | 36 |
| (3) 第2弾検証 調査結果 | 38 |
| (4) 再現動画による模擬評価の結果 | 45 |
| (5) 検証結果から得られた課題 | 47 |
| 第4章 試験評価者の資質向上のための支援ツールのあり方について | 49 |
| 1. 課題の整理 | 50 |
| 2. 今後の「試験評価者養成講習」等のあり方について | 52 |

参考資料

| | |
|--------------------------------------|----|
| ・調査1：試験評価者養成講習 アンケート用紙 | 56 |
| ・調査1：試験評価者養成講習 アンケート結果 | 58 |
| ・調査2：他職種の技能実習評価試験実施機関に対する依頼状、アンケート用紙 | 61 |
| ・調査3：第1弾検証調査の依頼状 | 66 |
| ・調査3：第2弾検証調査の依頼状 | 69 |
| ・調査3：第2弾検証調査の説明資料 | 71 |
| ・調査3：第1弾検証調査アンケート結果 | 74 |
| ・調査3：第2弾検証調査アンケート結果 | 75 |

第 1 章

調査研究概要

第1章 調査研究概要

1. 事業名

介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業

2. 事業実施目的

2017年11月1日に「技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」が施行されるとともに、同法施行規則第6条において、実習制度の対象職種及び作業として「介護」が、試験として「介護技能実習評価試験」が追加された。

この「介護技能実習評価試験」では、2016年度の「技能実習制度に介護分野を追加する際の技能評価システムのあり方に関する調査研究事業」での検討成果（「技能実習生が実際に介護行為を行っている場面を現認することが原則である」）を踏まえ、技能実習生が勤務する事業所・施設へ「試験評価者」が訪問し、実技試験や学科試験を実施する方式が採用されている。また、こうした試験評価者に求められる資質を満たす者としては、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」における「アセッサー資格」を有する者のスキルを活用することが適当であるとされたところである。これを受け、「アセッサー資格」を有する者を受講要件とする「試験評価者養成講習」が新たに創設され、この受講修了者が試験評価者として登録され、試験が実施されることとなっている。

一方、技能実習生を受入れる事業所・施設は、高齢者向けの事業所・施設、障害者の事業所・施設から、病院に至るまで多岐にわたっていることや、全国に存在することから、「介護技能実習評価試験」の構築に当たっては、関連する業界団体の意見を聴きつつ検討が進められ、それらの総意を得て承認されたものである。

また、厚生労働省人材開発統括官の下に設置され技能評価システムの審査を行う「専門家会議」においては、技能実習生の入国時期や在留資格の期限等に合わせて介護技能実習評価試験が随時実施されることから、試験評価結果の公平性、均質性を確保すること、試験評価者の資質を向上させることなど、継続的に試験評価者への支援を行うことが強く求められている。

このため、本調査研究事業は、学識者・有識者等からなる検討委員会を設置し、本年度から試験実施機関が実施した試験評価者養成講習及びこの受講修了者（試験評価者）を対象としたカリキュラムや研修内容の検証・分析を行うとともに、eラーニング等の活用など試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールを開発するため、対象者へのアンケート調査・ヒアリング調査等を実施し、これらの結果等を基に、より効率的・効果的かつ継続的に試験評価者の資質の維持・向上を図れるシステムの構築に向けた検討を行った。

3. 実施体制

本事業では、介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールを検討するにあたり、人材育成の観点や技能実習指導員への教育内容等を参考にするため、以下の委員で構成される「検討委員会」を設置した。

(1) 検討委員会名簿

【検討委員会】(◎：委員長、委員五十音順)

| | |
|--------|---------------------------------|
| ◎原口 恭彦 | 東京経済大学 経営学部 教授 |
| 川勝 貴子 | 公益財団法人国際研修協力機構 実習支援部 職種相談課 課長代理 |
| 白井 孝子 | 東京福祉専門学校 副学校長 |
| 藤井 祐介 | 社会福祉法人信愛報恩会 人材開発室 室長代行 |
| 松下 能万 | 公益社団法人日本介護福祉士会 事務局次長 |

【オブザーバー】

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 伊藤 優子 | 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官 |
| 田代 善行 | 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護技能実習支援係長 |

【調査研究協力】

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 金海 憲男 | ClipLine 株式会社 取締役 |
| 遠藤 倫生 | ClipLine 株式会社 取締役 |
| 大竹 将嗣 | ClipLine 株式会社 ClipLine Care 事業推進リーダー |

(2) 検討委員会の開催

【検討委員会】

| 日 時 | | 検討内容 |
|-------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2018年10月23日 | 第1回 | ・事業の概要説明入国後講習用教材について ・試験評価者の資質向上のための試験評価者養成講習とその後のフォローのあり方について ・他職種の技能実習評価試験実施機関へのアンケート項目(案)について |
| 2019年1月17日 | 第2回 | ・他職種の技能実習評価試験実施機関へのアンケート結果について ・WEB支援ツールの開発について ・WEB支援ツールの検証について |
| 2019年3月7日 | 第3回 | ・WEB支援ツールの検証結果のご報告 ・試験評価者の資質向上のための支援ツールのあり方について |

4. 各種調査の実施概要

試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールを開発することを目的として、WEB支援ツールの検討を行うために、介護技能実習評価試験実施機関が実施した2018年度の試験評価者養成講習を修了し、「試験評価者」として登録された者を対象とした調査を実施した。

【調査1】 試験評価者養成講習の受講者（試験評価者）へのアンケート

調査目的：試験評価者養成講習の受講者に対して、集合講習の内容の理解度・意見、今後の試験評価者養成講習の開催の参考とするために講習に求める内容や講習形式等の確認

調査対象：「介護技能実習評価試験 2018年度 試験評価者養成講習」受講者 計444名

札幌会場：34名

仙台会場：50名

東京会場：113名

大阪会場：123名

広島会場：62名

福岡会場：62名

調査方法：試験評価者養成講習終了後に実施した集合調査

調査内容：・集合講習のカリキュラム内容についての理解度について確認した。
・試験評価場面の再現動画を作成し、試験評価の際の実務を確認させるとともに、模擬評価を実施した。

【調査2】 他職種の技能実習評価試験実施機関へのアンケート

調査目的：技能実習評価試験の試験実施機関に対して、今後の養成やフォローのあり方の参考となる取り組みを検証するため、試験評価者の養成方法や質の維持・向上の方策等について確認。

調査対象：技能実習評価試験実施機関17機関（21職種）

調査方法：郵送調査及び電話による追加ヒアリング

調査内容：【基本情報】

・受検者数、試験実施方法、試験問題の作問頻度等

【試験監督者について】

・雇用形態、配置状況、採用頻度（任期）、試験監督者となるための要件、試験監督者に支払

う報酬等

【試験監督者が行う評価の質の維持について】

【その他】

【調査3】試験評価者へのWEB支援ツールの検証調査

調査目的：・集合講習と比較した際の講習手法としてのWEB支援ツールの有効性
・試験評価者へのフォローアップとしてのWEB支援ツールの検討

調査対象：第1弾一介護技能実習評価試験の試験評価者20名
第2弾一介護技能実習評価試験の試験評価者100名（第1弾の20名含む）

調査方法：試験評価者養成講習のカリキュラムに加え、試験評価者の1日の流れや実技試験方法等を繰り返し確認できるようWEB支援ツール（案）を開発。実際に使用してもらい、その理解度や使い勝手等について検証を行った。

調査内容：・集合講習と同様のカリキュラムに基づき、講習内容ごとに異なる動画等を作成し、その理解度について集合講習の場合と比較することにより、講習手法としてのWEB支援ツールの有効性を確認した。

・講義資料のナレーションのみによる解説、講師による講義方式の解説、実際の実務を動画化するなど、多様な開設手法を用いて、その理解度について調査し、有効と思われる解説手法を検証した。

【調査4】技能実習生の受け入れを予定し、試験評価者を受講させた施設へのヒアリング

調査目的：試験評価者養成講習の受講者が複数おり、また、技能実習生の受け入れも予定していた法人に対して（ヒアリング時点）、集合講習の内容等について確認。

調査対象：社会福祉法人ノテ福社会（札幌市）

調査方法：現地（法人本部）にて担当者へのヒアリング

調査内容：・外国人技能実習制度への取り組み状況及び今後の方針
・試験評価者養成講習の受講生の選出の考え方
・試験評価者養成講習の手法や内容等についてのヒアリング

第2章

「介護技能実習評価試験」の 試験評価者養成の手法の分析結果

第2章 「介護技能実習評価試験」の試験評価者養成の手法の分析結果

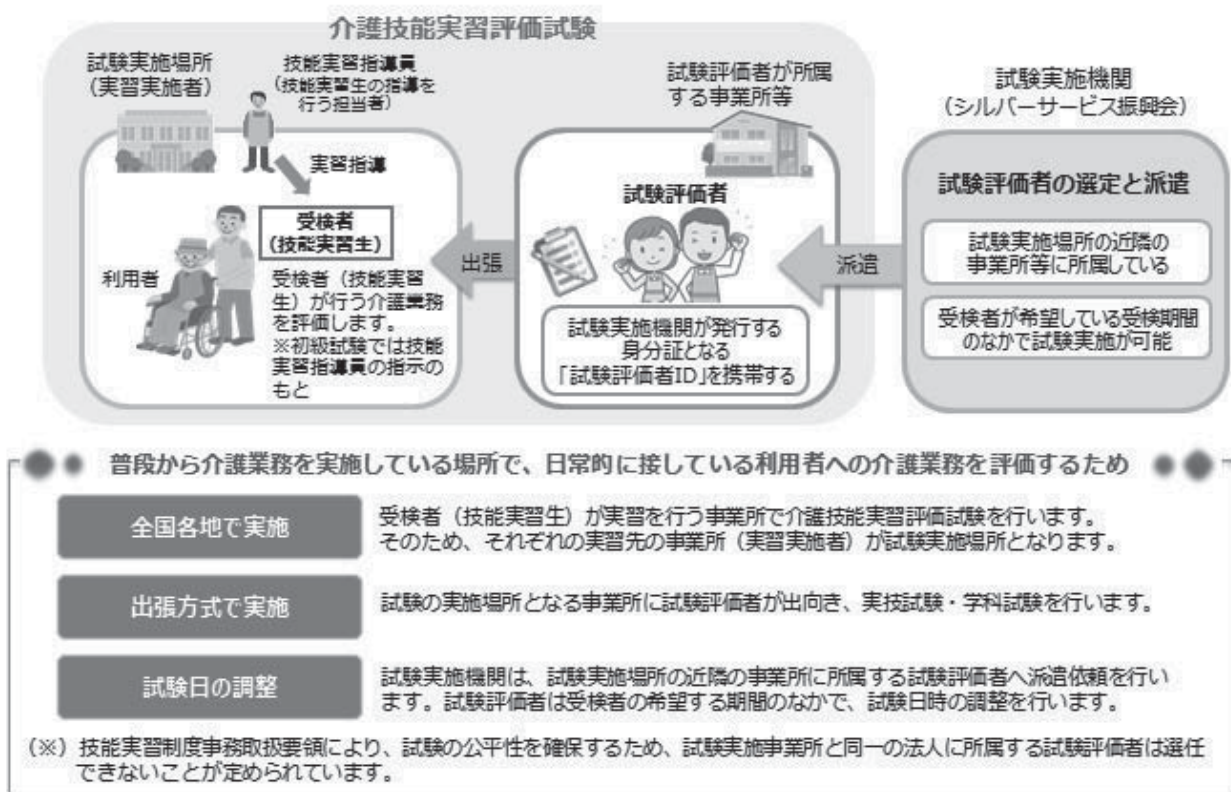
1. 介護技能実習評価試験 試験評価者養成についての分析

(1) 介護技能実習評価試験の仕組み

介護技能実習評価試験は、外国人技能実習制度の介護分野における公的評価システムとして位置づけられ、厚生労働省人材開発統括官より、一般社団法人シルバーサービス振興会が試験実施機関として認定されている。介護職種の追加にあたっては、海外からのニーズを受け、業界内で合意の上、試験基準、試験範囲等が組み立てられており、介護技能実習評価試験の仕組みと試験実施機関の選定については業界総意のもと決定されている。

介護技能実習評価試験は、実技試験と学科試験の2つで構成されている。介護分野において移転すべき技能とは、単なる作業の遂行ではなく、利用者の自立支援を実現するための思考過程に基づく介護行為であること、個々に異なる利用者の状態像に応じた介護行為であることから、実技試験では利用者の心身の状況に応じた介護の実践レベルを評価するため、利用者に対して行われる身体介護業務を評価することとしている。

また、介護技能実習評価試験は、技能実習生が勤務する事業所・施設へ「試験評価者」が出張し、実技試験や学科試験を実施する方式が採用されており、試験は全国で随時実施される。そのため、試験を円滑に行うためにも試験評価者は全国に万遍なく配置することとしている。



(2) 試験評価者の資質と要件

介護技能実習の試験評価者は、技能実習生に対し修得すべき技能が移転されているかどうかを適正かつ公正に評価するため、試験の準備や試験の監督、実技試験の評価等の業務を行う者であるが、介護技能実習評価試験では、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度の評価者（アセッサー）資格を有する者※を対象とした、介護技能実習評価試験の「試験評価者養成講習」を受講し、これを修了した者」を試験評価者としている。※2012年度～2015年度介護プロフェッショナルキャリア段位制度の外部評価審査員を含む。

試験評価者の資質については、2016年度厚生労働省社会福祉推進事業「技能実習制度に介護分野を追加する際の技能評価システムのあり方に関する調査研究事業」に設置された検討委員会にて、以下の考え方が示された。

【試験評価者の資質】

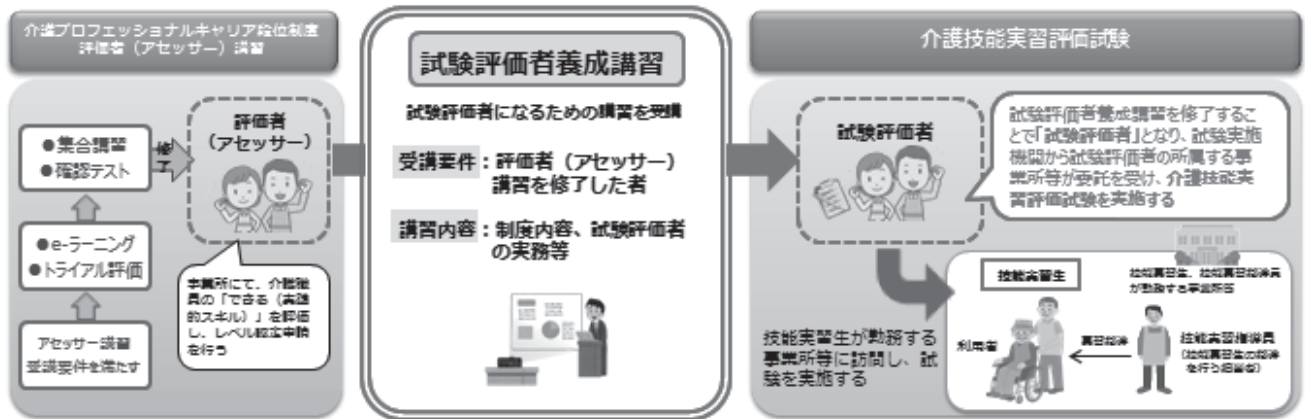
- ・「介護」及び「介護現場」に精通し、エビデンスに基づく高い専門知識を持っていること
- ・利用者（要介護者）の状態像に応じた、身体介護技術を有すること
- ・利用者（要介護者）の状態像に応じて、必要とされる介護内容の把握が適切に行えること
- ・技能実習生の介護行為について、その介護行為が利用者の状態に応じたものであるかを見極める判断力を有すること
- ・行われている介護行為に対する、観察力を有すること
- ・公平・中立な立場で、客観的に判断することができること
- ・技能実習制度において試験評価者に求められる要件をみとすこと等

これらの資質を有する者としては、介護福祉や保健師、助産師又は看護師等の資格を取得した後、一定の実務経験がある者が求められる。また、自らが実践できることと「評価」を行うことは異なるため、介護や看護等の現場で技能実習生の指導や職場におけるOJT等指導の経験を有する者が望ましい。

こうした試験評価者に求められる資質を満たすものとして、検討委員会においては、介護プロフェッショナルキャリア段位制度の評価者（アセッサー）の持つスキルを活用する方向で試験評価者を養成していくことが適当であるとされた。

(2016年度社会福祉推進事業「技能実習制度に介護分野を追加する際の技能評価システムのあり方に関する調査研究事業」報告書より)

これらの考え方をもとに、試験評価者は介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサーを活用することが、関係団体により構成された「技能実習制度への介護職種の追加に向けた準備会」においても総意を得て、さらに厚生労働省人材開発統括官が参集する「技能実習評価試験の整備等に関する専門家会議」で了承されたところである。



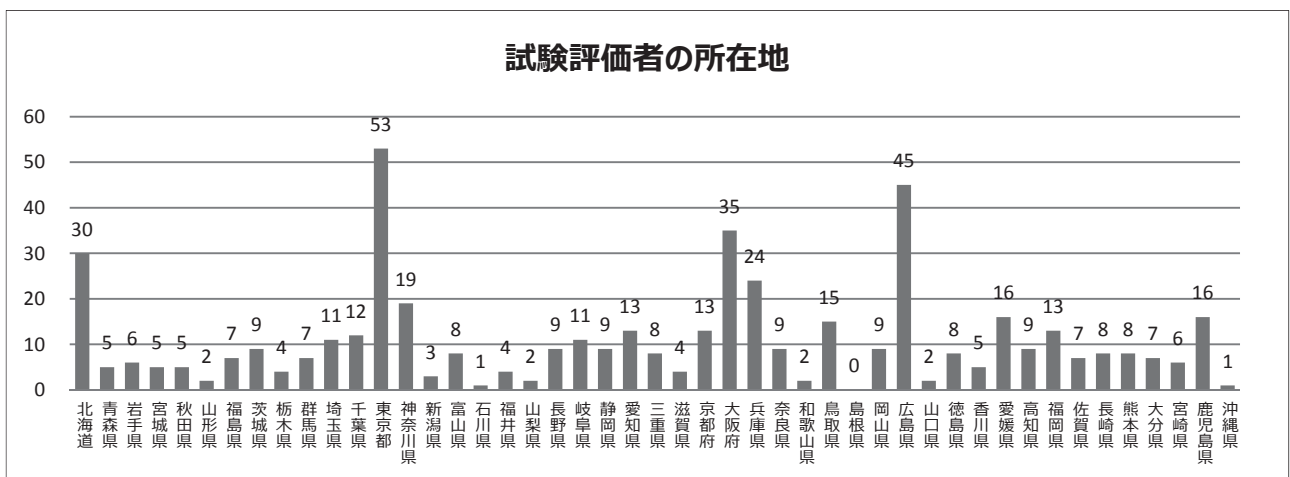
(3) 試験評価者の養成状況

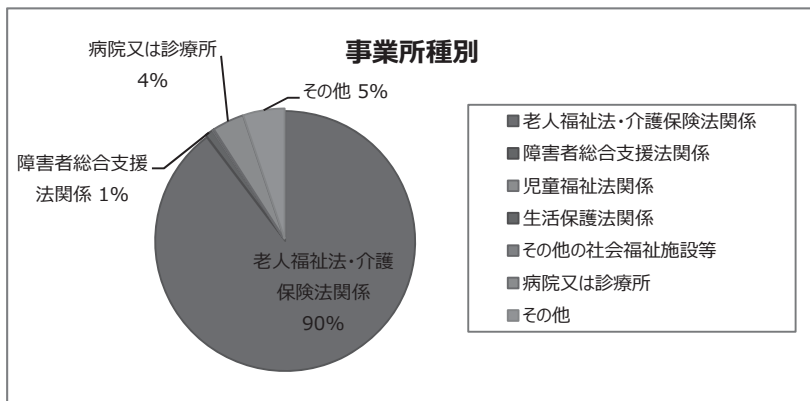
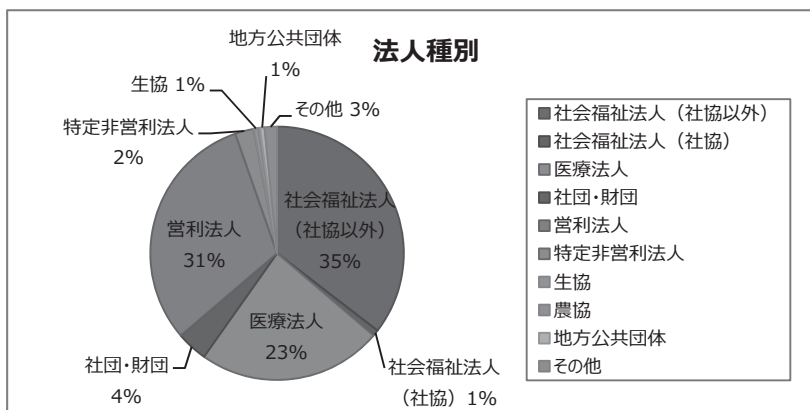
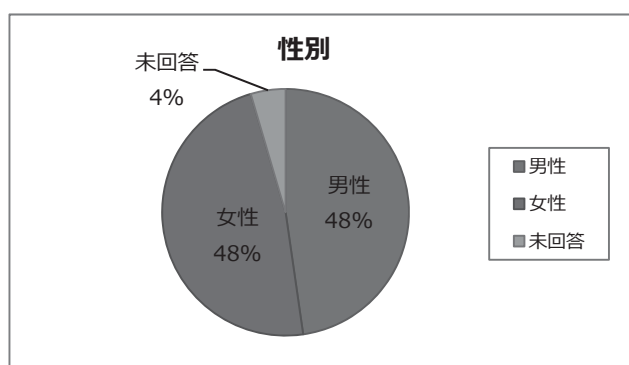
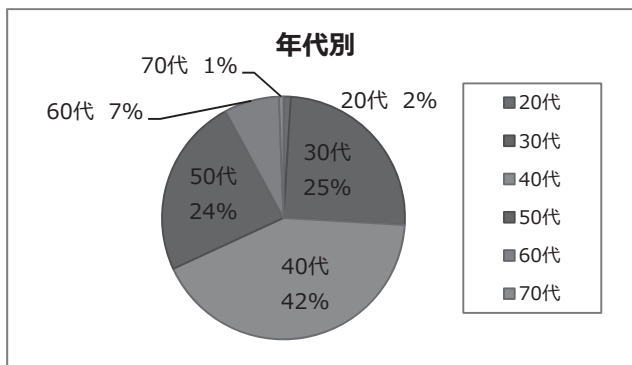
2018年度は、505名の試験評価者が誕生している。介護職種における初の技能実習生の入国が2018年7月であり、入国後講習が1か月の場合、最短で2019年2月に試験が実施されることが想定されたことから、試験評価者養成講習は2018年8月から9月にかけて開催することとなった。

また、試験は全国で随時実施されることから、全都道府県に万遍なく試験評価者を養成する必要があるため、開催地は、ブロック単位の主要都市を中心に、当初は6都市で開催（札幌、仙台、東京、大阪、広島、福岡）することとした。

しかし、全国6都市開催では、愛媛県と島根県の試験評価者を養成することができず、また、札幌会場は北海道胆振東部地震のため延期したこともあり、予定した時期に全都道府県に試験評価者を配置することはできなかった。愛媛県内にはすでに技能実習生が入国していることから、急遽翌年2月に松山会場を追加し、結果的に全国7都市での開催となった。

試験評価者が最も多いところは東京都（53名）で、次に広島県（45名）、大阪府（35名）と続く。島根県は養成できていないが、その他にも石川県、山形県、和歌山県、沖縄県等の試験評価者は1～2名である。なお、東京会場と大阪会場については、定員よりも応募者の人数が多かったことから、抽選とし、人数の調整を行っている。





| 開催日 | 会場（開催地） | 受講者数（養成者数） | 参考：応募者数 |
|----------------|---------|-------------|---------|
| 2018年8月28日（火） | 福岡 | 62名 | 61名 |
| 2018年8月30日（木） | 東京 | 113名 | 187名 |
| 2018年9月5日（水） | 仙台 | 50名 | 35名 |
| 2018年9月7日（金） | 大阪 | 123名 | 157名 |
| 2018年9月11日（火） | 広島 | 62名 | 45名 |
| 2018年11月29日（木） | 札幌 | 34名 | 35名 |
| 2019年2月21日（木） | 松山 | 61名 | 63名 |
| 合計 | | 505名 | 583名 |

本調査研究のアンケート及び検証調査の対象者は、2018年実施分を対象としたため、福岡会場から札幌会場までの444名とした。

(4) 試験評価者養成講習の内容

試験評価者養成講習は、介護技能実習評価試験における「試験評価者」を養成することを目的としていることから、外国人技能実習制度の理解、介護技能実習評価試験の仕組み、試験評価者の役割と業務等について学習することとなる。試験評価者養成講習は、既に介護の技術や標準化された基準での評価能力を有している介護プロフェッショナルキャリア段位制度のアセッサーに対して行うため、講習内容についての理解テストは設けず、講習にすべて出席することを修了要件とした。

また、実技試験では、実際の試験をイメージしやすいよう、「動画演習」を設けた。動画演習では、試験評価者の目線で撮影した評価の場면을再現し、試験課題の進め方、立ち位置等の確認も含め、模擬評価を行った。

質疑応答は設けず、「質問受付票」を提出し、後日回答することで対応している。

| | 大項目 | 中項目 | 時間配分 |
|---|-------------------------|--------------------------------------------------------|------|
| 1 | 外国人技能実習制度の理解 | (1)外国人技能実習制度について (2)外国人技能実習制度の介護職種について | 40分 |
| 2 | 介護技能実習評価試験の仕組み | (1)介護技能実習評価試験の内容 (2)各級試験内容 (3)介護技能実習評価試験 手続きの流れ | 40分 |
| 3 | 試験評価者の役割と業務 | (1)試験評価者の役割 (2)試験評価者の業務 | 60分 |
| 4 | 実技試験の評価方法 | (1)利用者の選定 (2)実技試験の評価方法について ※動画演習 (3)試験を中止する場合 | 90分 |
| 5 | 試験実施機関と試験評価者の関係 (今後の流れ) | (1)試験評価者の登録と任命について | 30分 |

<各カリキュラムで試験評価者に理解してもらいたいこと>

| | 中項目 | 理解してもらいたいこと |
|---|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | (1)外国人技能実習制度について | <ul style="list-style-type: none"> ・技能実習制度の趣旨 ・国際貢献に携わっていること ・技能実習評価試験は、技能や技術及び知識を評価するものであり、在留資格の更新には受検が必要であること |
| | (2)外国人技能実習制度の介護職種について | <ul style="list-style-type: none"> ・介護職種は、業界総意のうえで、また厚生労働省の専門家会議等も経たうえで追加されていること ・介護職種の固有要件の内容 |
| 2 | (1)介護技能実習評価試験の内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・試験は全国各地で随時、試験評価者が実習実施者に出張し実施すること ・日常的に接している利用者への介護業務を評価すること |
| | (2)各級試験内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・学科試験、実技試験の範囲や合格基準等について ・初級の実技試験では、技能実習指導員が立ち会い、指示のもとできたかどうかを評価すること |
| | (3)介護技能実習評価試験 手続きの流れ | <ul style="list-style-type: none"> ・試験に関わる関係者の役割と手続きの流れについて |
| 3 | (1)試験評価者の役割 | <ul style="list-style-type: none"> ・試験評価者に求められる要件とアセッサーが活用される理由 ・試験評価者のやりがいと大切さ、期待される役割について |
| | (2)試験評価者の業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・調整窓口担当者と試験評価者の役割の違い ・試験当日の1日の流れ |
| 4 | (1)利用者の選定 | <ul style="list-style-type: none"> ・試験では利用者に対して提供される介護を確認することから、適切に評価するため利用者の状態像を確認する必要があること |
| | (2)実技試験の評価方法について | <ul style="list-style-type: none"> ・評価する視点や等級の違い ・評価項目、評価基準の考え方、評価の方法について |
| | ※動画演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・試験評価者の目線で、立ち位置や試験がどのように実施されるか |
| | (3)試験を中止する場合 | <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面で試験を中止するのか |
| 5 | (1)試験評価者の登録と任命について | <ul style="list-style-type: none"> ・試験実施機関と試験評価者、試験評価者の所属する法人との関係について |

2. 調査1：試験評価者養成講習の受講者（試験評価者）へのアンケート

(1) 調査目的、調査対象、調査方法

試験評価者養成講習の受講者に対して、集合講習の内容の理解度や意見、今後の試験評価者養成講習の開催の参考とするために講習に求める内容や講習形式等の確認のため、アンケートを実施した。また、模擬評価を実施することで、試験評価者間の評価結果が均質かどうかの検証もあわせて行った。

調査対象：「介護技能実習評価試験 2018年度 試験評価者養成講習」受講者 計444名

札幌会場：34名

仙台会場：50名

東京会場：113名

大阪会場：123名

広島会場：62名

福岡会場：62名

※受講者の全員が、試験評価者としての登録を希望している。

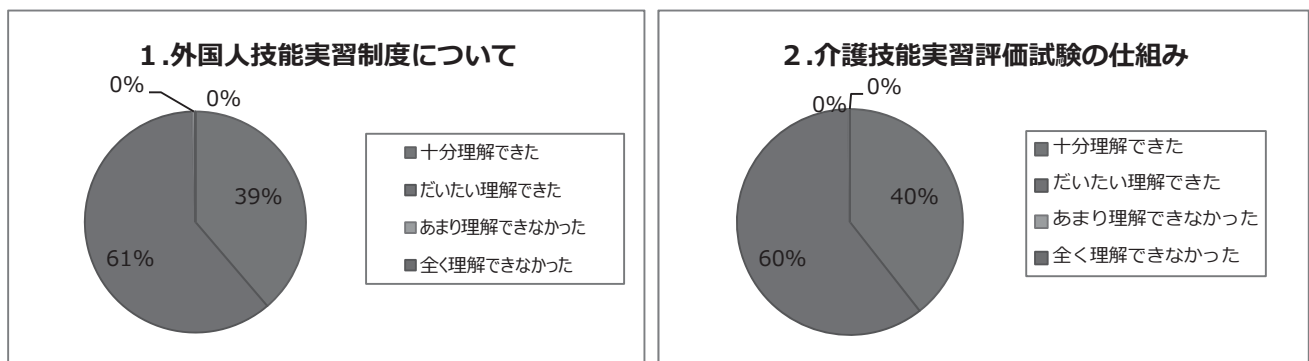
調査方法：試験評価者養成講習終了後に実施する集合調査 回収率100%

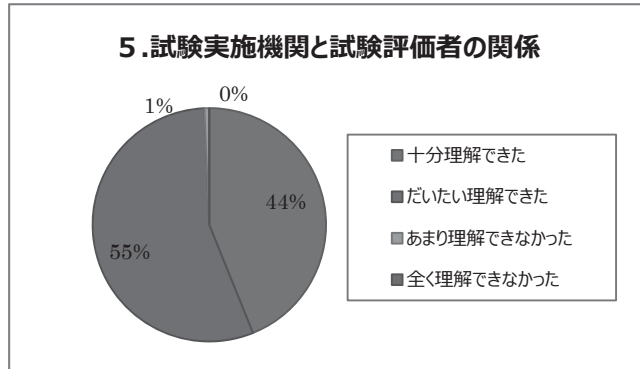
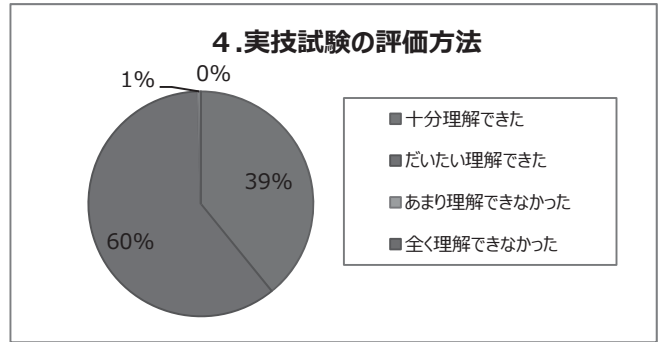
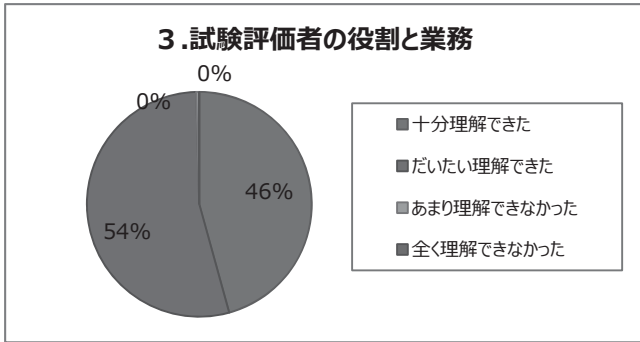
(2) アンケート結果

試験評価者養成講習の受講者に対して、集合講習の内容の理解度や意見、今後の試験評価者養成講習の開催についてアンケートを実施した。

①講習の理解度について

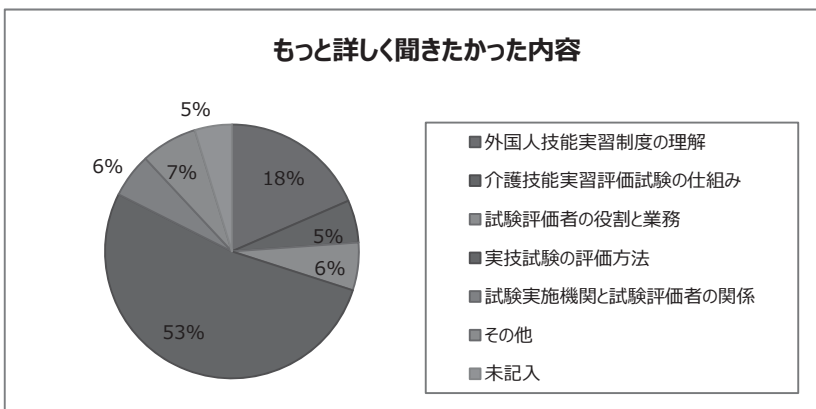
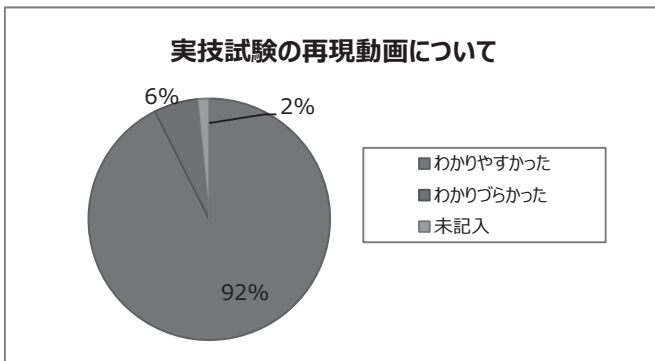
試験評価者養成講習の内容の理解については、試験評価者の大多数が「十分理解できた」または「だいたい理解できた」と回答。試験評価者に修得してもらいたい内容は伝えることができていると言える。





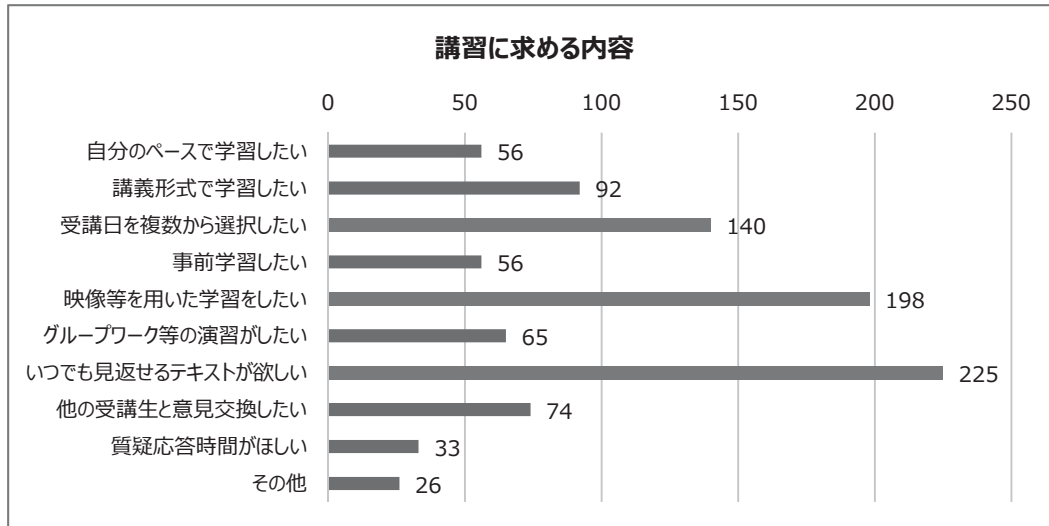
②実技試験の評価方法について

実技試験の評価方法では、講義に加え、再現動画を使用し、模擬で評価をしてもらった。再現動画は試験評価者の目線で撮影され、実際に試験を実施しているかのような緊張感を持つことができる。実技試験の再現動画は、92.6%の受講者が「わかりやすかった」と回答しており、半数以上が実技試験の評価方法についてもっと詳しく聞きたかったと回答。



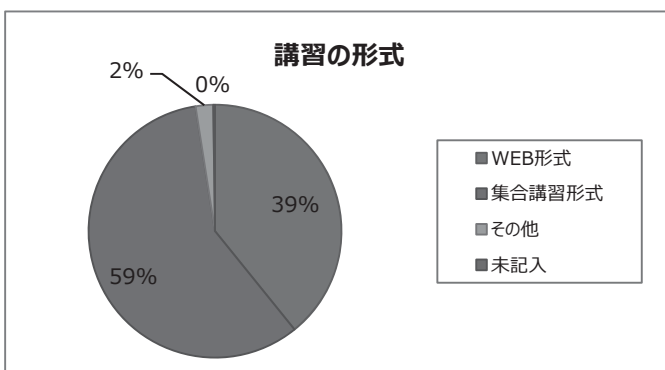
③講習に求める内容について

2018年度の試験評価者養成講習は「集合方式」で実施したが、講習に求める内容について、複数選択してもらった。約半数が「いつでも見返せるテキストが欲しい」と回答し、次に「映像等を用いた学習がしたい」「受講日を複数から選択したい」が続く。



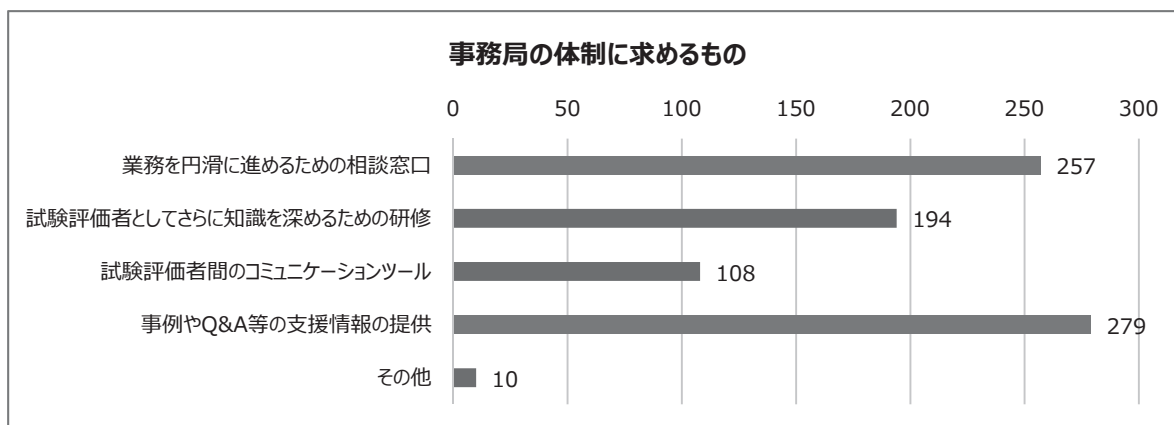
④講習の形式について

講習の形式については、約半数以上が「集合講習形式」を望んでいる。この時点では、どのようなWEB方式かは示していないため、試験評価者の多くはアセッサー講習時のeラーニングをイメージしていると思われる。「その他」には、事前にWEB学習を行い、当日は集合講習という二段階を望む意見もあった。



⑤事務局に求める支援体制について

事務局に求める体制は複数選択してもらったが、もっとも多かったのは「事例やQ&A等の支援情報の提供」で、次に「業務を円滑に進めるための相談窓口」があがった。どちらも受講者の半数以上が求めていることとなる。



(3) 再現動画による模擬評価の結果

「実技試験の評価方法」では、評価の方法について講義を受けた後、試験評価者の目線で撮影した2つの試験課題について模擬評価を行い、試験評価者間の評価結果が均質かどうかの検証を行った。

①試験課題1「座位での上衣の着脱の介助」

| | 評価項目 | 評価基準 |
|---|----------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 1 | 体調の確認 | 利用者に体調の確認を行い、技能実習指導員に報告している（利用者の特性に合わせてコミュニケーションを取り、反応や表情等も見ている） |
| 2 | 介助の説明と同意 | これから行う介助について説明をして、同意を得て、その結果を技能実習指導員に報告している |
| 3 | 衣類の選択 | 利用者に衣類を選んでもらっている |
| 4 | プライバシーへの配慮 | スクリーンを使用する、扉やカーテンを閉める等、第三者から見えないようプライバシーに配慮している |
| 5 | 安定し安楽な姿勢の保持 | 足底が床に着く、椅子に深く腰掛けている等利用者の座位が安定している |
| 6 | 衣服の着脱 (脱がせてから着せる) | 健側から脱ぎ、患側から着るといふ順番で介助を行っている 介助の中で行われる動作について、都度利用者に伝えている |
| 7 | 衣服のしわやたるみの確認 | 衣服のしわやたるみを整えている |
| 8 | 利用者への確認 | 利用者に着心地を確認している 介助中、利用者に体調の変化と痛みの有無を確認し、変化や痛みがあった場合には技能実習指導員に報告している |
| 9 | 報告 | 行った介助について技能実習指導員に報告している |

試験評価者は、上記評価基準に従い、できたかできないか○×をつけることとなるが、「5 安定し安楽な姿勢の保持」と「6 衣服の着脱」の「介助の中で行われる動作について、都度利用者に伝えている」の結果に差異が出た。

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | 7 | 8 | | 9 |
|-----|-----------|----------|-----------|----------------|---------------------|------------|------------|----------------------|--------------|--------------|-------|
| | 体調の 確認 | 介助の説明と同意 | 衣類の 選択 | プライバシーへの 配慮 | 安定し安 楽な姿勢 の保持 | 衣服の 着脱① | 衣服の 着脱② | 衣服のし わやたる みの確認 | 利用者へ の確認① | 利用者へ の確認② | 報告 |
| ○ | 442 | 444 | 441 | 439 | 430 | 443 | 359 | 444 | 444 | 443 | 441 |
| × | 2 | 0 | 3 | 5 | 14 | 1 | 85 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 未記入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 割合 | | | | | | | | | | |
| ○ | 99.5% | 100.0% | 99.3% | 98.9% | 96.8% | 99.8% | 80.9% | 100.0% | 100.0% | 99.8% | 99.3% |
| × | 0.5% | 0.0% | 0.7% | 1.1% | 3.2% | 0.2% | 19.1% | 0.0% | 0.0% | 0.2% | 0.5% |
| 未記入 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.2% |

<差異が出た理由>

5. 安定し安楽な姿勢の保持

「足底が床に着く、椅子に深く腰掛けている等利用者の座位が安定している」

- ・最初から、足底が床に着いていたり、利用者が深く座っていた場合、受検者は目視で判断したようだったが、できたと判断して良いか。
- ・声かけをして確認する等の確認行為がないと判断しづらい。

6. 衣服の着脱

「介助の中で行われる動作について、都度利用者に伝えている」

- ・声かけはしているが、動作に関する声かけではなかった。
- ・声かけはしているが、どれくらい声をかけていけば良いのか判断に迷う。



<改善> ※試験評価者のみに開示

- 5 ・受検者や技能実習指導員が目視で確認している場合の評価の基準を明確化。
- 6 ・声かけの基準を明確化。

②試験課題4「車いすでの移動の介助」

| | 評価項目 | 評価基準 |
|---|------------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 | 体調の確認 | 利用者に体調の確認を行い、技能実習指導員に報告している（利用者の特性に合わせコミュニケーションを取り、反応や表情等も見ている） |
| 2 | 介助の説明と同意 | これから行う介助について説明をして、同意を得て、その結果を技能実習指導員に報告している |
| 3 | 安全の確認 | 利用者の足がフットレスト（フットサポート）の上に乗っている |
| | | 利用者の手や腕がアームレスト（アームサポート）や大腿部に置かれている（大車輪に巻き込まれないようにしている） |
| | | 利用者が安定した姿勢を保っている |
| 4 | 車いすでの移動の介助 | 車いすを動かす前や方向転換をするとき等、その都度利用者に状況を伝えている |
| | | 利用者の身体や車いすが、壁や障害物等に接触せず安全に移動できている |
| | | 車いすの停止後、車いすのブレーキをかけている（利用者に促してかけてもらうことも可） |
| 5 | 利用者への確認 | 介助中、利用者に体調の変化と痛みの有無を確認し、変化や痛みがあった場合には技能実習指導員に報告している |
| 6 | 報告 | 行った介助について技能実習指導員に報告している |

試験評価者は、上記評価基準に従い、できたかできないか○×をつけることとなるが、「5 安定し安楽な姿勢の保持」と「6 衣服の着脱」の「介助の中で行われる動作について、都度利用者に伝えている」の結果に差異が出た。

| | 1 | 2 | 3 | | | 4 | | | 5 | 6 |
|-----|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|
| | 体調の確認 | 介助の説明と同意 | 安全の確認① | 安全の確認② | 安全の確認③ | 移動の介助① | 移動の介助② | 移動の介助③ | 利用者への確認 | 報告 |
| ○ | 430 | 443 | 444 | 443 | 407 | 399 | 443 | 443 | 443 | 441 |
| × | 14 | 1 | 0 | 1 | 37 | 45 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 未記入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 割合 | | | | | | | | | |
| ○ | 96.8% | 99.8% | 100.0% | 99.8% | 91.7% | 89.9% | 99.8% | 99.8% | 99.8% | 99.3% |
| × | 3.2% | 0.2% | 0.0% | 0.2% | 8.3% | 10.1% | 0.2% | 0.2% | 0.0% | 0.5% |
| 未記入 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.2% | 0.2% |

<差異が出た理由>

3. 安全の確認

「利用者が安定した姿勢を保っている」

- ・最初から、利用者が深く座っていたり、姿勢が曲がっていない場合、受検者が目視で判断してきたとなるのか。
- ・声かけをして確認する等の確認行為がないと判断しづらい。

4. 車いすでの移動の介助

「車いすを動かす前や方向転換をするとき等、その都度利用者に状況を伝えている」

- ・受検者は声かけしていたが、動かす前や方向転換のとき等、都度の声かけが足りない。



<改善> ※試験評価者のみに開示

- 3 ・受検者や技能実習指導員が目視で確認している場合の評価の基準を明確化。
- 4 ・声かけの基準を明確化。

「差異が出た理由」欄に記載した通り、試験評価者個人の資質による差異というよりは、評価基準の判断材料が不明瞭なために起きた差異と考えられる。

(4) アンケート結果等から得られた課題について

<講習内容について>

- ・「実技試験の評価方法」において、評価のブレがないよう方策を講じる
- ・判断基準の「判断するうえでの留意事項」の精査とその伝え方
→試験実施機関の精査がまず必要ではあるが、考え方を理解してもらう。
- ・映像等を用いた動画コンテンツの充実化による学習効果の向上
- ・評価中に起こる様々な出来事（中止の判断、利用者の変更、技能実習指導員または受検者が項目を抜かしてしまった場合等）の事例とその対処方法の伝え方
- ・評価手法や評価項目等についての理解度を確認する仕組み

<支援（フォロー）体制について>

- ・テキストや Q&A 等、試験評価者自身の自己学習ツールの提供
→試験実施機関にて、講習終了後に「業務実施マニュアル」と Q&A を提供
- ・試験評価者の不安や質問等に対しフォローできる仕組み（双方向のコミュニケーション）

<運営面について>

- ・介護現場の勤務の状況に応じ、複数から選択できる受講日の設定
- ・全国において試験評価者を養成するための開催地の検討
- ・災害等の関係で延期・中止となる場合の対応

特に、運営面の課題としては、公共交通等が十分に整っていない県にとっては、移動が不便となることから、近隣県からの試験評価者の派遣が難しくなるといった課題が生じることが指摘された。今回の試験評価者養成講習では、全国7会場（調査研究の対象は内6会場）に絞っての開催となったが、技能実習生の受け入れ状況について各都道府県に温度差があることや、試験実施機関側の問題としても開催場所の確保、開催頻度、講師の派遣等について時間的、予算的な制約もあることなどから、47都道府県の全てで開催することは難しい。

しかしながら、介護現場の現状に鑑み、「介護技能実習評価試験」の実施に当たっては、技能実習生の勤務する実習実施者と同一都道府県内で行われることが望ましいことから、今後とも試験評価者数は各都道府県に数多く配置していかなければならない、このため、委員会での議論においても、全国を対象として、多数の受講者がいつでも受講でき、かつ均質性を確保できる講習方法を最優先に検討すべきとの意見が多かった。

3. 調査2：他職種の技能実習評価試験実施機関へのアンケート

(1) 調査目的、調査対象、調査方法

技能実習評価試験の試験実施機関に対して、今後、試験を公平・公正に実施していくにあたり、全国に配置する試験評価者の質の維持・向上のために試験実施機関として行うべき対応について、技能実習評価試験実施機関に、試験監督者養成に関するアンケート調査を行った。

調査対象：技能実習評価試験実施機関 17 機関（21 職種）

※技能実習の対象職種は 2019 年 2 月 8 日時点で 80 職種 144 作業あるが、そのうち「技能実習評価試験の整備に関する専門家会議」による確認の上、職業能力開発局長（現・人材開発統括官）が認定した職種のみ対象とした。

調査方法：郵送調査及び電話による追加ヒアリング

調査期間：2018 年 11 月 21 日～2018 年 12 月 4 日

回答方法：FAX、郵送、E-mail

回答率：85.7%（18 職種 14 機関）

(2) アンケート結果

介護職種は技能実習制度初の対人サービスということで、他の職種と比較し試験の仕組みは大きく違うものの、製造業の中でも、受検者数、試験の実施場所、試験監督者数（介護では監督という言葉が馴染まないため「試験評価者」と呼称）は大きく異なる。受検者を会場に集めて一同に試験を実施する「集合方式」では 1 名の試験監督者が複数の受検者を評価することもあれば、試験監督者と補佐官の 2 名で必ず試験を実施する職種もあり、また、エリアごとに担当マネージャーがおり事務局機能が分散している職種もあった。設問が馴染まない職種も多くあったようだが、介護職種と他職種の違いや同一の部分をアンケート結果から考える。

<アンケート結果について>

➤ 2-⑥ 試験監督者になるための要件として、「試験実施機関が指定する資格を有すること」を定めているのは 11 職種、「講習・研修を修了すること」が 4 職種、その他 OJT 等を実施しているところが 6 職種であった。「試験に合格すること」を定めているところはゼロであった。

⇒介護：「試験実施機関が指定する資格を有すること」及び「講習・研修を修了すること」

➤ 2-⑧ 「試験監督者になるための講習・研修を修了すること」と回答した 4 職種の実施方法は、集合講習が 3 職種、OJT を研修しているところが 1 職種、「e ラーニング等の WEB 方式」で実施しているところはゼロであった。

⇒介護：「試験監督者になるための講習・研修を修了すること」

- 2-⑨ 試験監督業務に一定期間従事していない試験監督者に対して、研修等の要件を定めているところは2職種であった。ほとんどの職種が、研修等の要件は定めていなかった。
⇒介護：研修等の要件は定めていない。
- 3-① 試験監督者が行う評価の質を維持するための取組みは16職種が行っている。そのうち半数は「事務局が実際に試験に立ち会い指導」をしており、その他「定期的な会議や研修等を実施」しているところもあった。「eラーニング等の自己学習ツールを用意」しているところはゼロであった。
⇒介護：試験の特性から、試験評価者は全国に満遍なく配置することから、「事務局が実際に試験に立ち会い指導」することは現実的ではなく、その他の仕組みを検討中。
- 3-③④ 実技試験の採点基準のほかに、評価のブレを生じさせないため、さらに詳細な基準等を作成しているところは、半数の9職種あり、作成にあたっては9職種すべて試験監督者の意見を反映させている。
⇒介護：評価基準の中には「判断するうえでの留意事項」を設け、評価を均質化するため基準を設けている。また、アンケート等で評価結果に差異が生じた部分については、さらに明確な基準を設け随時更新を行う。
- 4-① 「試験監督者の専用HP」を用意している職種はなかった。
⇒介護：現在のところ用意していない。
- 4-③ 試験監督者同士の交流の機会を設けているところは10職種であり、その内容は研修会や会議での顔合わせ、その後の懇親会等であった。
⇒介護：試験評価者養成講習時に顔合わせは行うが、現在のところそれ以外での交流の場はなし。

他職種 技能実習評価試験実施機関 アンケート 集計結果

| 1. 基本情報 | | |
|------------------------------------|--------------------------|-----------------------------------------|
| ①取扱職種 | | 18 職種 (内 2 職種は試験監督者共通) |
| ②職種追加年 | | — |
| ③受検者数(1号)※2017 年度実績 | | 平均 1,702 名 (最小値 41 名 最大値 8,500 名) |
| ④試験実施方法 | 集合方式 | 6 |
| | 訪問方式(出張方式) | 8 |
| | 集合方式と訪問方式の併用 | 3 |
| | その他 | 1 |
| ⑤試験問題の作問頻度 | 【学科試験】 | |
| | 認定時に作問し、その中から毎年選んで出題している | 0 |
| | 定期的に作問し、入替を行っている | 7 |
| | 不定期に見直し・作問し、入替を行っている | 11 |
| | 【実技試験】 | |
| | 認定時に作問し、その中から毎年選んで出題している | 6 |
| | 定期的に作問し、入替を行っている | 3 |
| | 不定期に見直し・作問し、入替を行っている | 8 |
| 固定のため、変更なし | 1 | |
| ⑥試験実施方法に関する説明等の講習を行っていますか。 | はい | 3 |
| | いいえ | 15 |
| ⑦⑥で「はい」を選択された場合、その講習の対象者を教えてください。 | 監理団体 | 0 |
| | 実習実施者 | 0 |
| | 受検者 | 0 |
| | その他 | 3 |
| ⑧⑥で「はい」を選択された場合、その講習の参加費用を教えてください。 | 有料 | 1 |
| | 無料 | 2 |

| 2. 試験監督者について | | |
|-------------------------|----------------------|---------------------------------|
| ①試験監督者数 ※2018 年 10 月末時点 | | 平均 64.6 名(最小値 5 名 最大値 596 名) |
| ②試験監督者の雇用形態 | 直接雇用(定年以外の雇用期間の定めなし) | 1 |
| | 直接雇用(雇用期間の定めなし) | 1 |
| | 派遣社員 | 0 |
| | 業務委託 | 9 |
| | その他 | 7 |
| ③試験監督者の配置状況 | 全都道府県に配置 | 1 |
| | 地方単位で全ての地方に配置 | 5 |
| | 地方単位で一部の地方に配置 | 5 |
| | 試験実施機関に配置 | 2 |
| | その他 | 5 |
| ④試験監督者の採用(募集)頻度 | 定期的に採用(募集) | 0 |
| | 不定期に採用(募集) | 12 |
| | その他 | 6 |
| ⑤試験監督者の任期 | 任期は設けていない | 5 |

| | | |
|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------------------------------------|
| | 任期を設けている | 12 |
| | (任期を設けている場合)更新 有 | 12(「1年更新」:6、「2年更新」:3、「3年更新」:3) |
| | (任期を設けている場合)更新 無 | 0 |
| | 定年を設けている | 1 |
| ⑥試験監督者になるための要件 (複数回答あり) | 試験実施機関が指定する資格を有すること | 11 |
| | 試験監督者になるための講習・研修を修了すること | 4 |
| | 試験監督者になるための試験に合格すること | 0 |
| | その他 | 6 |
| ⑦⑥で「試験監督者になるための講習・研修を修了すること」「試験監督者になるための試験に合格すること」を選択された場合、講習(研修)や試験の開催頻度はどれくらいですか | 定期的開催 | 0 |
| | 不定期開催 | 4 |
| | その他 | 0 |
| ⑧⑥で「試験監督者になるための講習・研修を修了すること」「試験監督者になるための試験に合格すること」を選択された場合、どのような方式で実施していますか。 | 集合方式 | 3 |
| | eラーニング等のWEB方式 | 0 |
| | その他 | 1 |
| ⑨試験監督業務に一定期間従事していない試験監督者に対して、研修等の要件は定めていますか。 | はい | 2 |
| | いいえ | 16 |
| ⑩⑨で「はい」を選択された場合、具体的にどのような要件を定めていますか。 | | 「講習会、及び実際の試験で補佐員として数回経験が必要」:1 (回答なし):1 |
| ⑪試験監督者に支払う報酬 | 1回の試験につき | 平均17,666円(最小値:8,000円、最大値:30,000円) |
| | 1日あたり | 平均12,700円 (最小値:8,000円、最大値:20,000円) |
| | その他 | 0 |

| | | |
|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| 3. 試験監督者の評価の質の維持について | | |
| ①試験監督者が行う評価の質を維持するために、何か取り組みを行っていますか。 | はい | 16 |
| | いいえ | 2 |
| ②①で「はい」を選択された場合、どのような取り組みを行っていますか。 (複数回答あり) | 定期的な会議や研修等の実施 | 5 |
| | eラーニング等の自己学習ツールを用意 | 0 |
| | 定期的に事務局スタッフが試験時に立ち会い、指導を実施 | 8 (「不定期に実施」:1、「必要に応じ」:2) |
| | その他 | 2 |
| ③実技試験では採点基準のほかに、試験監督者ごとの評価のプレを生じさせないために、評価するうえでの留意点やさらに詳細な基準等を作成していますか。 | はい | 9 |
| | いいえ | 9 |
| ④③で「はい」を選択された場合、その詳細な基準等は、試験監督者の意見を反映させ、定期的に更新していますか。 | はい | 9 |
| | いいえ | 0 |

| | | |
|-----------------------------------------|-----|----------------------------|
| 4. その他 | | |
| ①試験監督者の専用HPはありますか。 | はい | 0 |
| | いいえ | 18 |
| ②①で「はい」を選択された場合、その専用HPにはどのような内容が含まれますか。 | | — |
| ③試験監督者同士の交流の機会を設けていますか。 | はい | 10 |
| | いいえ | 8 |
| ④③で「はい」を選択された場合、具体的にどのような内容ですか。 | | 「研修会」、「会議」、「懇親会」、「食事会」等の開催 |

(3) 介護職種と他職種の大きな違い

介護職種は、受検者が勤務する実習実施者にて、全国で随時試験を実施することから、円滑に試験を実施できるよう試験評価者を全国に配置している。試験実施機関は試験評価者が所属する法人等と業務委託契約を締結し、試験評価者は法人等の業務の一環として試験を実施する形となる。試験評価者数は現在 505 名であるが、今後も増えていくため、将来的には技能実習評価試験実施機関の中では最も試験評価者数が多い職種となる。

また、介護では、法人との業務委託契約であることから、試験評価者は現役の介護職員である。介護現場の勤務形態、人員配置等を鑑み、試験日についても事務局にて定めた日程にあわせるのではなく、監理団体及び実習実施者側と試験評価者側にて調整のうえ、試験日を設定する。他職種では、集合方式であっても訪問方式（出張方式）であっても、事務局にて試験日を確定のうえ、試験監督者が評価を行う場合が多い。さらに、1度に複数の受検者を評価する職種が多く、試験監督者は定期的に評価業務を行っているが、介護の場合、実技試験においては試験評価者と受検者の1対1で実施することから、試験評価者が1日に評価できる受検者数は3人を原則としている。また、全国で随時実施することから、評価を行う試験評価者の選定にあたっては、できるだけ実習実施者と同一地域を目安としており、介護職種の試験評価者は定期的に評価業務に就くとは限らない。

介護職種は他職種に比べ、試験評価者数が多く、試験評価者によって実施する試験の実施数や時期は異なることから、試験評価者の評価の均質性や質の維持・向上に関しては方策を検討する必要があり、どこからでもアクセスが可能なWEBによる学習は検討の余地がある。

第3章

試験評価者の資質向上のための 支援ツールの検討

第3章 試験評価者の資質向上のための支援ツールの検討

1. WEB 支援ツールの検討について

(1) 検討の経緯

介護技能実習評価試験は、全国どこに技能実習生が入国しても、随時、円滑に試験が実施できるよう、全国に万遍なく試験評価者を配置する必要がある。このため、2018年度の試験評価者養成講習開催にあたっては、講習日や開催地は考慮して開催したものの、参加が出来なかった者もあり、都道府県によって参加者にばらつきが生じたことから、より身近なところで受講環境を整える必要がある。試験評価者養成講習のアンケート結果でも「受講日を複数から選択したい」という声が31.5%あがっており、介護現場の勤務形態を考えると「WEBを用いたeラーニング方式」の活用も検討する必要がある。

また、試験評価者の質の維持・向上と、試験結果の均質性を確保するために、映像等を多く取り入れた自己学習を繰り返し行うことは有効である。試験評価者によっては試験時期や回数に差があることから、活動の機会が少ない試験評価者には試験実施前の確認、また活動の機会が多い試験評価者も自己流にならないよう評価の視点を確認する機会は設けたほうがよい。そのための方策として「WEBを用いたeラーニング方式」の活用が検討される。

また、アンケートの結果から、試験評価者養成講習の内容の理解について、試験評価者の大多数が「十分理解できた」または「だいたい理解できた」と回答しているが、「もっと詳しく聞きたかった内容」として「実技試験の評価方法」を挙げた者が55%いた。さらに、試験評価者の視点で再現した動画による模擬評価においても、一部の評価結果に差がでていることから、実技試験の評価方法に関しても対応が必要である。

試験評価者の質の維持・向上については、試験評価者養成講習で修得した内容の復習と、試験実施までの間にさらに理解を深めるために評価の視点等を確認できるフォローアップが必要であり、そのどちらにも「WEBを用いたeラーニング方式」の検討の余地があることから、本調査研究では、どちらも兼ねた支援ツールを開発するため検証を行うこととした。

(2) 検証内容

WEB 支援ツール開発のための検証にあたっては、以下の2点について検証することを目的とした。

1. 集合講習と比較した際のWEB 支援ツールの有効性
2. 試験評価者へのフォローアップとしてのWEB 支援ツールの検討

1. 「集合講習と比較した際のWEB 支援ツールの有効性」

今年度は、試験評価者を集合講習方式で養成したが、仮にWEB方式にて養成しようとした場合、集合

講習と同等の理解度が得られるかが重要となる。このため、多岐にわたるカリキュラムについて、それぞれが同等の理解度を得られているか、また、集合講習よりも効率的かつ効果的に修得することができるものがあるかどうか等について検証することとした。

このため WEB 支援ツールの作成に当たっては、その構成は、基本的に集合講習のカリキュラムの内容に沿ったものとしたが、集合講習の受講者のアンケート結果において、「もっと詳しく聞きたかった内容」とされたカリキュラムが「実技試験の評価方法 (52.3%)」であったことを踏まえ、実技試験部分のコンテンツの部分について集合講習での内容をさらに充実させることとした。

2. 試験評価者へのフォローアップとしての WEB 支援ツールの検討

試験評価者は集合講習で学習した後、当日配布されたテキスト及び講習修了後に郵送される「試験評価者 業務実施マニュアル」を確認することで講習内容の復習や、試験前の再確認を行うこととなるが、介護技能実習評価試験は前例がないことから、試験評価者の多くが試験実施にあたっては不安を感じていた。特に、実技試験の評価方法については、講習時の再現動画によりはじめて具体的イメージを持った試験評価者もあり、その点についてはテキストでは不十分である。制度や仕組み等はテキストを読み返すことで知識を再確認、再修得することは可能であるが、試験評価者としての業務の実際や実技試験の評価方法については演者が試験評価者の動き等を再現する動画が有効であり、その復習機能を果たせるか検証することとした。

(3) システムの仕組み

WEB における学習の最大の特徴は、いつでもどこでもアクセスが可能ということであるが、多くの eラーニングはアクセスする時間や場所は問わないものの、1つの単元を学習するにあたってはある程度の時間を要する。しかし、介護現場では休憩中や夜勤等、業務の合間で学習することが多く、短い時間の中でも学習が完結できるかどうかは重要となる。今回は、介護現場の勤務状況を勘案し、試験評価者が日常業務に従事しながら学習時間の自由度が確保できること、また全国に展開する試験評価者の均質性の確保のため双方向での指導等が行えるシステムを検討するため、ClipLine 株式会社の ClipLine というシステムにて検証を行うこととした。

ClipLine は、SECI モデル（暗黙知と形式知のスパイラルを創りだす、知識移転のプロセス）を原案に、「映像音声クリップを利用した自律的学習システム」として特許を取得しており、学習者は当人だけで学習を完結するのではなく、指導者と呼ばれる担当者のレビューにより内容のチェックを受け学習達成度を図ることが可能であり、それ自体が他の学習者の教材コンテンツとして再利用あるいは拡散できる仕組みとなっている。また、ClipLine の特徴は、短尺動画であり、言葉や OJT だけでは伝えきれないノウハウや技術をわかりやすく、正しく伝えることができる。

前述のとおり、試験評価者は公正性、公平性、中立性を保ち、すべての試験評価者が均質に評価を行わなければならない。そのためには、一方的な教育ではなく、試験実施機関としても試験評価者の学習度合いを把握し、また試験評価者の評価にブレが出ないよう学習を試験評価者同士で共有することも重要となることから、ClipLine のシステムを通して検証を行うこととした。

(4) 開発にあたっての留意点

試験評価者養成講習では、再現動画を用いた模擬評価を行っているが、この手法に対する評価として「わかりやすかった」と回答した者が 92.6%と高い評価が得られた。これに対しては、試験評価者の目線での動画を撮影するとしたことで、実際の試験評価場面についてイメージが得やすく、具体的な業務等に対する理解度の向上にも大きく貢献するとの検証結果が得られた。特に、評価中に起こる様々な出来事（中止の判断、利用者の変更、技能実習指導員または受検者が項目を抜かしてしまった場合等）の事例とその対処方法に関しては、集合講習時においても具体的な事例を想定した質問が多く寄せられていたことから、映像化することでイメージの共有化の効果が大きく、より個々の受講者の理解も深まるとの検証結果が得られた。

ただし、製造業における製品の出来栄え評価と異なり、介護技能実習評価試験においては、利用者の状態像にあわせた介護行為を確認することとなるため、利用者の状態像のシチュエーションは様々である。利用者の状態像及びこの介護行為そのものを映像化することについては、その再現性が極めて難しくなる。このため実技試験の動画コンテンツの映像化については、試験評価者の評価等に当たってのいわゆるお手本動画映像という誤解を招かないよう、特定の介護行為を単に模した動画を流しての評価演習ではなく、試験評価者の「評価に当たっての立ち位置や視線の向け方、確認すべき着眼点といったものを確認するための動画とすること」や、「評価中にイレギュラー事項が発生した時の対応方法について理解すること」等を主眼として、試験評価者としてのスキルを修得できるようにすることに留意した。

この他にも、検討委員会では、WEB化するにあたっての課題について以下の留意点が示された。

<WEB 支援ツール開発にあたっての留意点>

- ・ WEB で受講する際は、ただ動画を流すだけでは本当に学習しているかが判断できないことから早送りができない仕組み、確認テストを設ける、事務局側で受講者の学習状況を確認する等検討が必要。
- ・ 試験評価者養成講習のアンケート結果では集合講習を望む声も多く、WEB に対する抵抗感も懸念される。集合講習のように最初に概略が把握できるような工夫や、試験評価者の質問・疑問に対応して試験評価者全体にフィードバックできるような双方向のコミュニケーションが図れる仕組みの検討が必要。
- ・ 介護現場の電子機器の状況や勤務形態から、時間の都合に学習できるよう、WEB 支援ツールは PC だけでなくスマートフォンでも学習できたほうがよい。

(5) 構成 (案)

検証にあたっては、既の実施した試験評価者養成講習（集合講習）で用いられたカリキュラムをベースとして、受講者アンケート結果や質問受付票における質問内容などを踏まえつつ、WEB支援ツールにおけるカリキュラムを新たに構成した。具体的な変更点等は以下のとおりである。

① 大項目について

これまでは実技試験の評価を中心としていたが、試験業務を正しく理解してもらうためにも、学科試験の項目を新規に作成し、行う業務を明確化した。また、模擬評価をはじめ何かあったときの対応等映像を増やしたことから、項目ごとのボリュームを均質にするため、模擬評価については新たに項目を立てることとした。

1. 外国人技能実習制度の理解
2. 介護技能実習評価試験の仕組み
3. 試験評価者の役割と業務
4. 実技試験の評価方法
5. 試験実施機関と試験評価者の関係



1. 外国人技能実習制度の理解
2. 介護技能実習評価試験の仕組み
3. 試験評価者の役割と業務
4. 学科試験の実施方法
5. 実技試験の評価方法
6. 初級 実技試験 模擬評価
7. 試験実施機関と試験評価者の関係

② 中項目・小項目について

大項目の構成変更も踏まえ、またアンケート結果や質問受付票の内容を確認し、中項目・小項目も精査した。実際に講師が説明している中で、すでに前出のことを繰り返し説明していたり、詳細は後で説明するという場面がいくつかあったことから、内容の重複がないように整理している。

また、質問受付票で質問の多かった項目をさらに解説し、映像化したことにより、項目は以前より増えている。

<新規追加した部分>

- ・ B-1 「我が国と世界の高齢化の状況」

制度をより正しく理解してもらうため、背景と介護職として入国する外国人の制度の違いを説明

- ・ F-3 「例外事項への対処方法」

試験評価者養成講習の質問受付票にて質問が多かったため

- ・ G-1 「STEP 1」

模擬評価の課題を追加

- ・ G-2 「STEP 2」

結果に差異がでた評価基準の考え方を映像化して追加

<順番を入れ替えた部分>

- ・ B-1-③ EPA、在留資格介護、技能実習の制度の違いを最初の導入に移動
- ・ C-1-③ 利用者の状態像を確認するという内容を、評価するための「利用者票」にて説明するのではなく、介護技能実習評価試験の仕組みに移動。
- ・ D-2-①② 申込の手続きの流れと関係者の役割が、重複して登場していたため、業務に関するものとしてまとめた。
- ・ E-1-③、F-1-④ 試験を中止する場合を学科、実技それぞれの部分で説明。

③映像の種類について

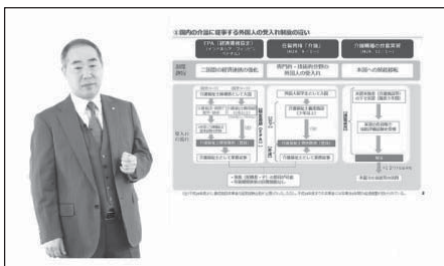
小項目はひとつひとつが短尺の動画となっているが、その映像に関しては、内容により学習者が飽きないよう変化をつけることとした。テロップやナレーションの「資料映像」が基本ではあるが、特に、試験評価者が実際の試験時にどのような動きをするのか、イレギュラーへの対応等は、具体的イメージがしやすいよう試験評価の「実務再現映像」とした。また、我が国と世界の高齢化の状況や介護技能実習評価試験の仕組み等、その考え方や理念を理解してもらいたいものについては、講師が実際に講義するような形の「講師映像」とした。

<映像の種類>

- ・ 講師映像 … 講師が登場し、資料を解説する動画 (★)
- ・ 試験評価の実務再現映像 … 試験評価者の動き等を再現した動画 (●)
- ・ 資料映像 … 資料をテロップやナレーションで解説する動画 (◆)

(参考)

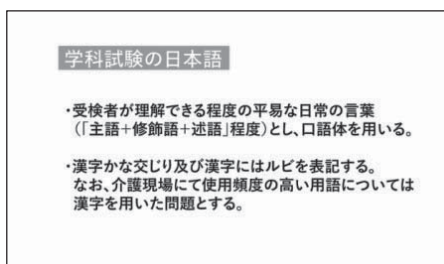
・ 講師映像



・ 試験評価の実務実務再現映像



・ 資料映像



④試験評価者養成講習（集合講習）とWEB支援ツールの構成比較表

WEB支援ツールに新規追加した部分
 順番を入れ替えた部分

| 試験評価者養成講習（集合講習）の構成 | | | |
|--------------------|---------------|---------------------------------------|-----|
| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 時間 |
| 最初のアナウンス | 【1】挨拶 | ①講習の目的 | 10分 |
| | 【2】注意事項 | ①会場の注意事項 ②修了要件 | |
| 1. 外国人技能実習制度の理解 | 外国人技能実習制度の理解 | ①技能実習制度の目的 | 40分 |
| | | ②技能実習制度全体の概要(技能実習の流れ、受け入れ機関別の違い、在留資格) | |
| | | ③技能実習評価試験の位置づけ | |
| 外国人技能実習制度の理解 | 外国人技能実習制度の理解 | ①国内の介護に従事する外国人の受入れ制度の違い | 40分 |
| | | ②介護職種が追加となった背景 | |
| | | ③介護技能実習における固有要件の概要 | |
| 2. 介護技能実習評価試験の仕組み | 介護技能実習評価試験の内容 | ①試験の構成について | 40分 |
| | | ②試験の受検資格と目標レベル | |
| | | ③試験の実施方法 | |
| 3. 介護技能実習評価試験の流れ | 各級試験内容 | ①学科試験について | 40分 |
| | | ②実技試験について | |
| | | ①関係者の役割 | |
| | | ②手続きの流れ | |
| 試験結果の通知 | 試験結果の通知 | ③試験の申込方法 | 40分 |
| | | ④試験結果の通知 | |
| | | 参考：受検申請に必要な書類 | |
| | | | |

| WEB支援ツールの構成 | | | |
|-------------------|----------------------------|------------------------|----------|
| 大項目 (カテゴリ) | 中項目 (サブカテゴリ) | 小項目 (クリップ) | 映像 時間 |
| 【A】はじめに | 【1】はじめに | 資料：はじめに | ◎ |
| | | 資料：WEB支援ツールの構成 | |
| 【B】外国人技能実習制度の理解 | 【1】我が国と世界の高齢化の状況 | ①我が国の高齢化の状況 | ★ |
| | | ②世界の高齢化の状況 | ★ |
| | | ③我が国の外国人労働者と外国人介護職員の状況 | ★ |
| 【B】外国人技能実習制度の理解 | 【2】外国人技能実習制度の目的と概要 | ①外国人技能実習制度の目的 | ◆ |
| | | ②技能実習生受け入れの仕組み | ◆ |
| | | ③技能実習生の入国から帰国までの概要 | ◆ |
| 【B】外国人技能実習制度の理解 | 【3】外国人技能実習制度に介護職種が追加になった背景 | 参考：技能実習制度 移行対象職種・作業一覧 | ◎ |
| | | ①技能実習制度の見直しについて | ◆ |
| | | ②介護職種の追加について | ◎ |
| 【B】外国人技能実習制度の理解 | 【4】介護職種における固有要件 | 参考：介護固有要件の概要 | ★ |
| | | ①技能実習生について | ◆ |
| | | ②技能実習を行わせる体制について | ◆ |
| 【C】介護技能実習評価試験の仕組み | 【1】介護技能実習評価試験の仕組み | ③介護職種における入国後講習について | ◆ |
| | | ①試験の構成と各級の目標レベル | ◆ |
| | | ②試験の実施方法 | ★ |
| 【C】介護技能実習評価試験の仕組み | 【2】学科試験 | ③利用者の状態像の確認 | ★ |
| | | ①学科試験の範囲と内容 | ◆ |
| | | ②出題形式と合格基準 | ◆ |
| 【C】介護技能実習評価試験の仕組み | 【3】実技試験 | 参考：学科試験練習問題（イメージ） | ◎ |
| | | ①実技試験の範囲と内容 | ◆ |
| | | ②試験課題の構成 | ◆ |
| 【C】介護技能実習評価試験の仕組み | 【3】実技試験 | ③合格基準、実施方法 | ◆ |
| | | ④初級実技試験時の特徴 | ★ |
| | | | |

| | | | |
|----------------|-------------------|----------------------------------------------------|-----|
| 3. 試験評価者の役割と業務 | 【1】 試験評価者の役割 | ①試験評価者の資質と要件 ②試験評価者に求められる要件 ③受検者に接する際に心がけること | 15分 |
| | 【2】 試験評価者の業務 | ①試験前（日程調整） | 45分 |
| | | ②試験当日（試験の進め方） | |
| 4. 実技試験の評価方法 | 【1】 利用者の選定 | ①実技試験の「利用者票」の位置づけと役割 | 15分 |
| | | ②利用者票の役割 ③利用者票の見方 | |
| | 【2】 実技試験の評価方法について | ①評価の方法 ②各級の違い ③評価票の使い方 | 45分 |
| 【模擬評価】 | ①座位での上衣の着脱の介助 | 20分 | |
| | ②車いすでの移動の介助 | | |

| | | | | | |
|--------------------------|-------------------------|--------------------------|---------|------|------|
| 【D】 試験評価者の役割と業務 | 【1】 試験評価者に求められる役割と倫理観 | ①試験評価者に求められる資質 | ★ | 2:05 | |
| | | ②試験評価者として順守すること | ◆ | 2:24 | |
| | | ③受検者への接し方 | ◆ | 2:10 | |
| | 【2】 試験前の業務について（調整窓口担当者） | ①試験の関係者の役割 | ◆ | 3:02 | |
| | | ②試験の申込の流れ | ◆ | 3:42 | |
| | | ③事前の日程調整について | ◆ | 3:32 | |
| | | ①試験評価者の1日の流れ | ● | 3:09 | |
| | | ②窓口担当者との挨拶 | ● | 1:10 | |
| | | ③試験キットの確認 | ◆ | 1:14 | |
| | 【3】 試験当日の業務について（試験評価者） | ④技能実習履歴証明書の確認 | ● | 1:45 | |
| ⑤利用者票の確認 | | ◆ | 0:28 | | |
| ⑥学科試験場所等の確認 | | ◆ | 1:31 | | |
| ⑦受検者（技能実習指導員）との挨拶、受検者の確認 | | ● | 1:30 | | |
| 【E】 学科試験の実施方法 | 【1】 学科試験の実施方法 | ⑧試験実施報告書の作成 | ● | 2:06 | |
| | | ⑨挨拶・退出 | ● | 0:46 | |
| | | ①学科試験の流れ | ◆ | 2:13 | |
| | 【1】 実技試験の実施方法 | ②遅刻者、途中退出者への対応 | ◆ | 1:46 | |
| | | ③中止事項 | ◆ | 2:06 | |
| | | ①実技試験の流れ | ◆ | 2:08 | |
| | | ②実技試験時に必要なもの | ◆ | 2:40 | |
| | 【F】 実技試験の実施方法 | 【2】 評価の方法 | ③利用者の選定 | ◆ | 2:39 |
| | | | ④中止事項 | ◆ | 2:42 |
| | | | ①評価の方法 | ◆ | 2:10 |
| ②時間の考え方 | | | ◆ | 1:39 | |
| 【3】 例外事項への対処方法 | | ③評価票の使い方（B票） | ◆ | 2:44 | |
| | | ④評価票の使い方（A票） | ◆ | 1:43 | |
| | | ①利用者の体調変化により、試験の継続が困難な場合 | ● | 0:44 | |
| | | ②利用者から別の介助の申し出があった場合 | ● | 2:02 | |
| 【G】 初級実技試験 模擬評価 | 【1】 STEP 1 | ③評価項目が順番通りに行われない場合 | ● | 0:54 | |
| | | ④試験課題開始前に、危険を予測した場合 | ● | 0:40 | |
| | | ⑤試験課題実施中に、危険を予測した場合 | ● | 0:42 | |
| | | ①STEP1をはじめの前に | ◆ | 3:37 | |
| | | ②座位での上衣の着脱の介助 | ● | 4:32 | |
| | | ③車いすでの移動の介助 | ● | 3:04 | |
| ④事故時の対応※判断等試験 | ● | 1:38 | | | |
| ⑤車いすの点検 | ● | 2:08 | | | |
| ⑥適切な手洗い | ● | 1:28 | | | |

| | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|-----|
| 【3】試験を中止する 場合 | ①学科試験の試験中止等について | 10分 |
| | ②実技試験の試験中止等について ③試験実施報告書への記載方法 | |
| 5. 試験実施機 関と試験評価 者の関係 最後に | 【1】試験評価者の登 録と任命 | 30分 |
| | 【1】提出書類の説明 | 20分 |
| | ①提出書類の説明と記入時間 | |

| | | | |
|----------------------------|---------------|---|------|
| 【G】初級 実 技試験 模擬評 価 | ①STEP2をはじめの前に | ◆ | 3:47 |
| | ②評価基準 1-1 | ● | 2:30 |
| | ③評価基準 1-2 | ● | 1:21 |
| | ④評価基準 1-3 | ● | 1:48 |
| | ⑤評価基準 2-1 | ● | 0:53 |
| | ⑥評価基準 2-2 | ● | 0:56 |
| | ⑦判断に迷った時の対応方法 | ● | 1:30 |
| 【H】試験実施 機関と試験評価 者の関係 | ①試験評価者の登録 | ◆ | 1:44 |
| | ②試験評価者の任命 | ◆ | 4:37 |
| | 参考：業務委託料と旅費 | ◎ | |

集合講習：合計時間 290分（約 4 時間 50 分） ※休憩を入れた場合の全体の時間数は、約 380 分
WEB 支援ツール：合計時間 133 分 25 秒（2 時間 13 分 25 秒）

2. 調査3：試験評価者の資質向上のための支援ツールの開発に伴う検証

すでに前述のように、本検証の目的は、「①集合講習と比較した際のWEB支援ツールの有効性」と「②試験評価者へのフォローアップとしてのWEB支援ツールの検討」であるが、検証にあたっては、今年度の試験評価者に実際に使用・学習してもらうことで、集合講習と比較した際のWEBの有効性、反復・復習としての有効であるかについて検証を行った。

(1) 検証対象、検証方法

検証は、第1弾と第2弾の2回実施した。

<第1弾検証>

検証対象：介護技能実習評価試験の試験評価者 20名

※とりわけ技能実習生の入国時期が早い都道府県を対象として依頼

検証期間：2019年1月15日～2019年1月25日

検証方法：WEB支援ツールの利用

回答方法：アンケートフォームより回答

回答率：90.0%（20名中18名が最後まで実施）

<第2弾検証>

検証対象：介護技能実習評価試験の試験評価者 100名

※松山会場を除く2018年度の試験評価者444名に依頼

検証期間：2019年2月4日～2019年2月22日

検証方法：WEB支援ツールの利用

回答方法：アンケートフォームより回答

回答率：70.0%（100名中70名）

※模擬評価については64.0%（100名中64名）

(2) 第1弾検証 調査結果

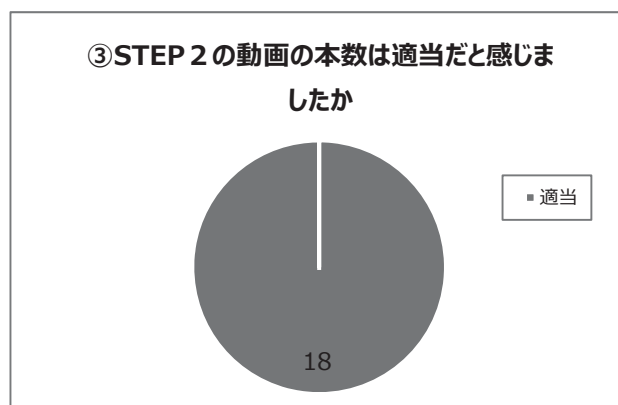
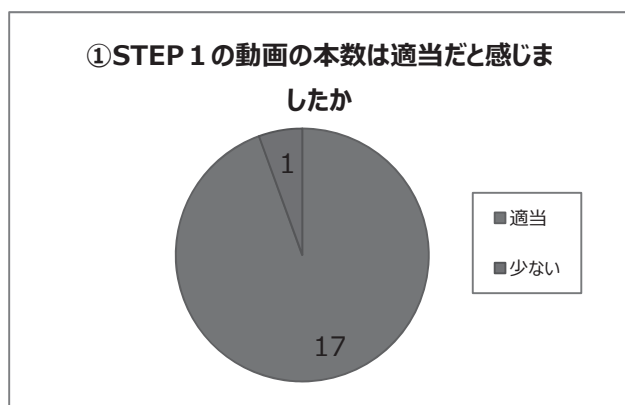
第1弾検証では、WEB支援ツールのうち、特に今回内容の充実化を図った「実技試験の評価方法」の部分を一部の試験評価者に学習してもらい、アンケートを実施した。その内容を踏まえ、第2弾検証にあたることとした。

< 第 1 弾検証の学習部分 >

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 映像種類 | 時間 |
|-----------------|-----------|----------------|------|------|
| 【G】初級 実技試験 模擬評価 | 【1】STEP 1 | ①STEP1 をはじめる前に | ◆ | 3:37 |
| | | ②座位での上位の着脱の介助 | ● | 4:32 |
| | | ③車いすでの移動の介助 | ● | 3:04 |
| | | ④事故時の対応※判断等試験 | ● | 1:38 |
| | | ⑤車いすの点検 | ● | 2:08 |
| | | ⑥適切な手洗い | ● | 1:28 |
| | 【2】STEP 2 | ①STEP2 をはじめる前に | ◆ | 3:47 |
| | | ②評価基準 1-1 | ● | 2:30 |
| | | ③評価基準 1-2 | ● | 1:21 |
| | | ④評価基準 1-3 | ● | 1:48 |
| | | ⑤評価基準 2-1 | ● | 0:53 |
| | | ⑥評価基準 2-2 | ● | 0:56 |
| | | ⑦判断に迷った時の対応方法 | ● | 1:30 |

①動画の本数について

質問受付票等の意見を踏まえ、WEB 支援ツールでは、実技試験の模擬評価の本数（STEP 1）と評価基準の考え方に関する動画の本数（STEP 2）を増やしている。STEP 1 の動画の本数に関しては 1 名が「少ない」と回答しているが、多くの試験評価者は「適当」と回答した。



②内容について

動画の内容については自由記述で回答をしてもらった。STEP 1、STEP 2 ともに動画の内容というよりは、評価方法の使用法や最初の説明が分かりづらいという回答があった。

また、集合講習と比較して試験実施への不安は解消されたかについては、「一度視聴だけでは解消されたとは言えないが、繰り返し見ることで軽減される」「何度か見直ししたい」「多くの事例を確認したい」という声が挙がっている。

なお、第 1 弾にて評価基準の考え方を映像に示したことがわかりやすいという回答を得られていることから、評価の均質性に効果的であると考え、集合講習と同様に模擬評価を行う第 2 弾に向けて、STEP 1 と STEP 2 の入れ替えを行った。他にも、第 1 弾でのナレーションは簡易的に入れたこともあり少し早い口調で説明していたが、第 2 弾ではスピードを落としている。

(3) 第2弾検証 調査結果

第1弾の検証結果も参考にしながら、第2弾ではWEB支援ツールの全範囲を試験評価者に受講してもらい検証を実施した。なお、集合講習と同様に、模擬評価による動画演習とアンケートも実施した。

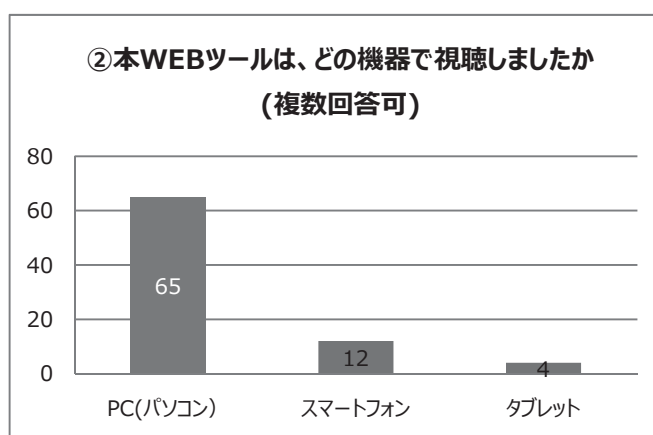
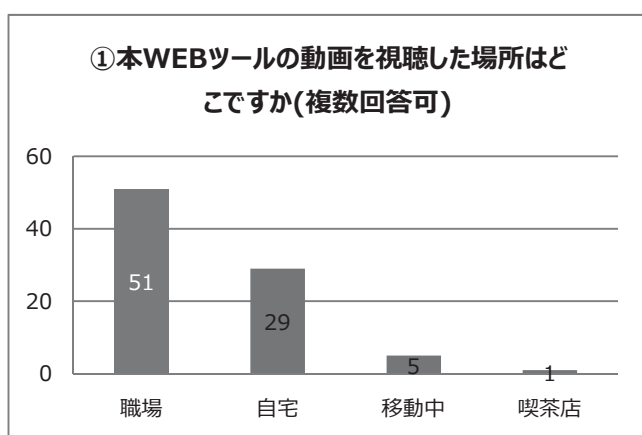
<第2弾検証の学習部分>

| WEB支援ツールの構成 | | | | |
|-----------------|----------------------------|----------------------------|-------------------|-------|
| カテゴリ | サブカテゴリ | クリップ | 映像種類 | |
| 【A】はじめに | 【1】はじめに | 資料：はじめに | | |
| | | 資料：WEB支援ツールの構成 | | |
| 【B】外国人技能実習制度の理解 | 【1】我が国と世界の高齢化の状況 | 【1】我が国の高齢化の状況 | ★講師映像 | |
| | | 【2】世界の高齢化の状況 | ★講師映像 | |
| | | 【3】我が国の外国人労働者と外国人介護職員 | ★講師映像 | |
| | 【2】外国人技能実習制度の目的と概要 | 【1】外国人技能実習制度の目的 | ◆資料映像 | |
| | | 【2】技能実習生受け入れの仕組み | ◆資料映像 | |
| | | 【3】技能実習生の入国から帰国まで | ◆資料映像 | |
| | | 【4】技能実習制度 移行対象職種・作業一覧 | ◎PDF | |
| | 【3】外国人技能実習制度に介護職種が追加になった背景 | 【1】技能実習制度の見直しについて | ◆資料映像 | |
| | | 【2】技能実習法の概要 | ◎PDF | |
| | | 【3】介護職種の追加について | ★講師映像 | |
| | | 【4】職種追加の流れについて | ◆資料映像 | |
| | 【4】介護職種における固有要件 | 【1】介護固有要件の概要 | ◎PDF | |
| | | 【2】技能実習生について | ◆資料映像 | |
| | | 【3】技能実習を行わせる体制について | ◆資料映像 | |
| | | 【4】介護職種における入国後講習について | ◆資料映像 | |
| | 【C】介護技能実習評価試験の仕組み | 【1】介護技能実習評価試験の仕組み | 【1】試験の構成と各級の目標レベル | ◆資料映像 |
| 【2】試験の実施方法 | | | ★講師映像 | |
| 【3】利用者の状態像の確認 | | | ★講師映像 | |
| 【2】学科試験 | | 【1】学科試験の範囲と内容 | ◆資料映像 | |
| | | 【2】出題形式と合格基準 | ◆資料映像 | |
| | | 【3】学科試験練習問題（イメージ） | ◎PDF | |
| 【3】実技試験 | | 【1】実技試験の範囲と内容 | ◆資料映像 | |
| | | 【2】試験課題の構成 | ◆資料映像 | |
| | | 【3】合格基準、実施方法 | ◆資料映像 | |
| | 【4】初級実技試験時の特徴 | ★講師映像 | | |
| 【D】試験評価者の役割と業務 | 【1】試験評価者に求められる役割と倫理観 | 【1】試験評価者に求められる資質 | ★講師映像 | |
| | | 【2】試験評価者として順守すること | ◆資料映像 | |
| | | 【3】受検者への接し方 | ◆資料映像 | |
| | 【2】試験前の業務について（調整窓口担当者） | 【1】試験の関係者の役割 | ◆資料映像 | |
| | | 【2】試験の申込の流れ | ◆資料映像 | |
| | | 【3】事前の日程調整について | ◆資料映像 | |
| | 【3】試験当日の業務について（試験評価者） | 【1】試験評価者の1日の流れ | ●再現映像 | |
| | | 【2】窓口担当者との挨拶 | ●再現映像 | |
| | | 【3】試験キットの確認 | ●再現映像 ◆資料映像 | |
| | | 【4】技能実習履歴証明書の確認 | ◆資料映像 | |
| | | 【5】利用者票の確認 | ●再現映像 | |
| | | 【6】学科試験場所等の確認 | ●再現映像 | |
| | | 【7】受検者（技能実習指導員）との挨拶、受検者の確認 | ●再現映像 | |
| | | 【8】試験実施報告書の作成 | ●再現映像 ◆資料映像 | |
| | | 【9】挨拶・退出 | ●再現映像 | |
| | 【E】学科試験の実施方法 | 【1】学科試験の実施方法 | 【1】学科試験の流れ | ◆資料映像 |
| | | | 【2】遅刻者、途中退出者への対応 | ◆資料映像 |
| | | | 【3】中止事項 | ◆資料映像 |
| | 【F】実技試験の実施方法 | 【1】実技試験の実施方法 | 【1】実技試験の流れ | ◆資料映像 |
| | | | 【2】実技試験時に必要なもの | ◆資料映像 |
| | | | 【3】利用者の選定 | ◆資料映像 |
| | | | 【4】中止事項 | ◆資料映像 |

| | | | |
|---------------------------|-----------------------|-----------------------------|-------|
| | 【2】 評価の方法 | 【1】 評価の方法 | ◆資料映像 |
| | | 【2】 時間の考え方 | ◆資料映像 |
| | | 【3】 評価票の使い方 (B票) | ◆資料映像 |
| | | 【4】 評価票の使い方 (A票) | ◆資料映像 |
| | 【3】 例外事項への対処方法 | 【1】 利用者の体調変化により、試験の継続が困難な場合 | ●再現映像 |
| | | 【2】 利用者から別の介助の申し出があった場合 | ●再現映像 |
| | | 【3】 評価項目が順番通りに行われない場合 | ●再現映像 |
| | | 【4】 試験課題開始前に、危険を予測した場合 | ●再現映像 |
| 【5】 試験課題実施中に、危険を予測した場合 | | ●再現映像 | |
| 【G】 初級 実技試験 模擬評価 | 【1】 STEP 1 (評価基準の考え方) | 【1】 STEP 1 をはじめる前に | ◆資料映像 |
| | | 【2】 評価基準 1-1 | ●再現映像 |
| | | 【3】 評価基準 1-2 | ●再現映像 |
| | | 【4】 評価基準 1-3 | ●再現映像 |
| | | 【5】 評価基準 2-1 | ●再現映像 |
| | | 【6】 評価基準 2-2 | ●再現映像 |
| | | 【7】 判断に迷った時の対応方法 | ●再現映像 |
| | 【2】 STEP 2 (模擬評価) | 【1】 STEP 2 をはじめる前に | ◆資料映像 |
| | | 【2】 座位での上位の着脱の介助 | ●再現映像 |
| | | 【3】 車いすでの移動の介助 | ●再現映像 |
| | | 【4】 事故時の対応※判断等試験 | ●再現映像 |
| | | 【5】 車いすの点検 | ●再現映像 |
| | | 【6】 適切な手洗い | ●再現映像 |
| | | アンケート (座位での上衣の着脱の介助の評価結果提出) | |
| アンケート (車いすでの移動の介助の評価結果提出) | | | |
| 【H】 試験実施機関と試験 評価者の関係 | 【1】 試験評価者の登録と任命 | 【1】 試験評価者の登録 | ◆資料映像 |
| | | 【2】 試験評価者の任命 | ◆資料映像 |
| | | 【3】 業務委託料と旅費 | ◎PDF |
| アンケート | アンケート | アンケート | |

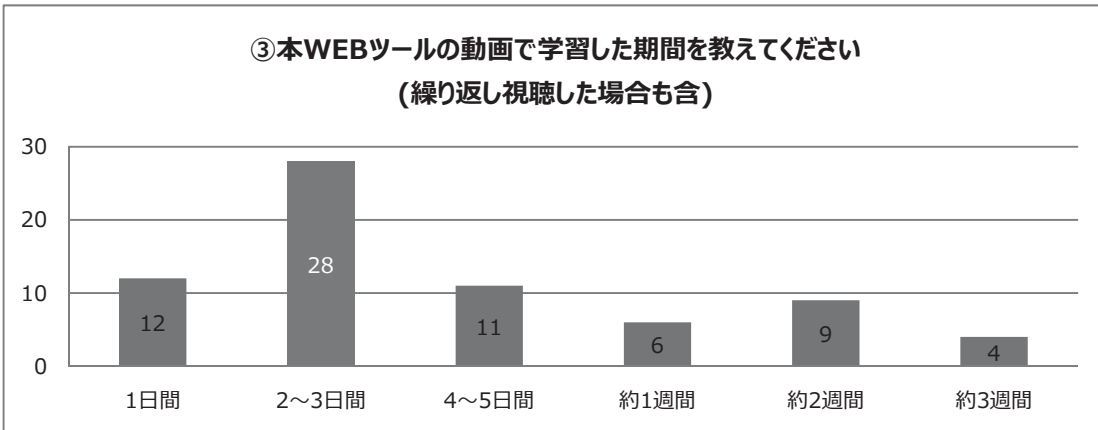
①利用環境

WEB 支援ツールを使って学習した場所については、70 名中 51 名 (72.6%) が「職場」と回答しており、それと比例してか、使用した機器についても 70 名中 65 名 (92.9%) がパソコンと回答している。



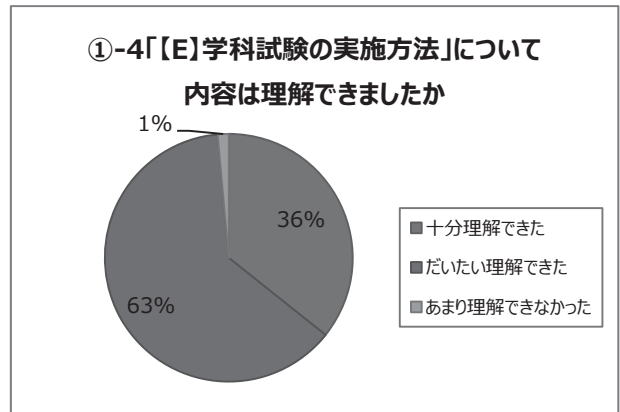
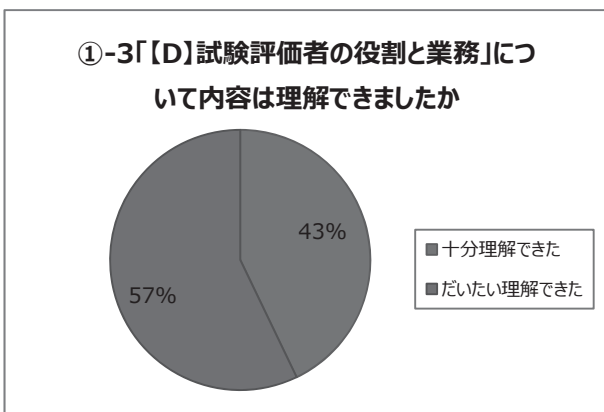
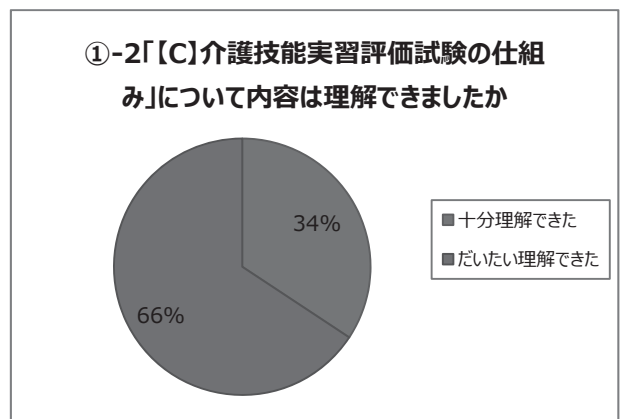
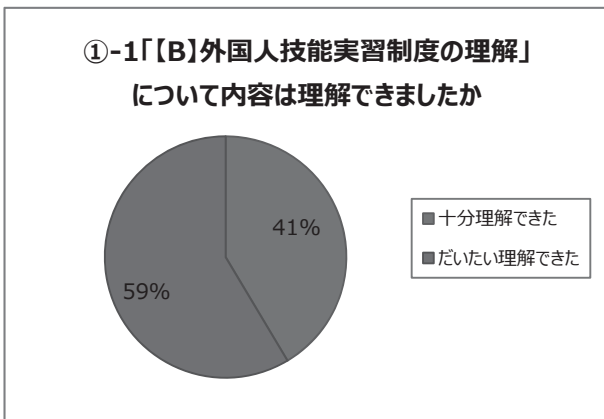
また、WEB 支援ツールは、最初から最後まで続けて見た場合、約 2 時間半の時間を要するが、実際の学習期間としては、「2～3 日」と回答する者が 70 名中 28 名 (40.0%) であり、ほとんどが 2 日以上の時間をかけていることになる。(70 名中 58 名 (82.9%)) 集合講習は 1 日の拘束に対し、WEB では学習期間は長くなるものの、学習したいときに学習したいコンテンツのみを確認することにより、働き方に

あわせた学習が可能となる。この件については、委員から、あえて分けて学習したというよりも、勤務の都合上、分けなければ学習が困難という意見も挙がった。

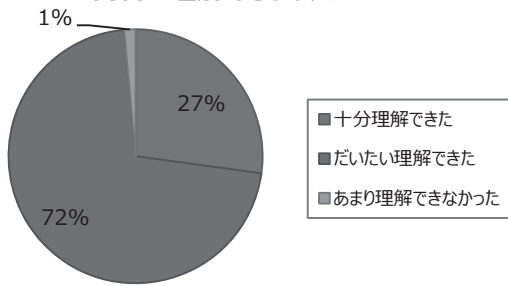


②講習の理解度について

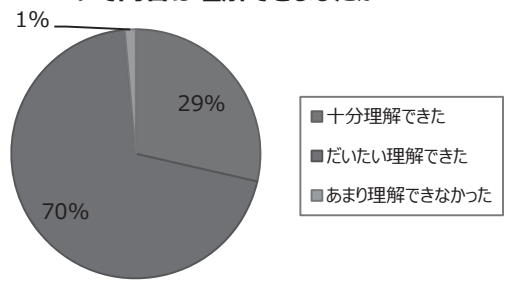
WEB 支援ツールの内容の理解については、試験評価者の大多数が「十分理解できた」または「だいたい理解できた」と回答。集合講習と変わらず、試験評価者に修得してもらいたい内容は伝えることができていると言える。



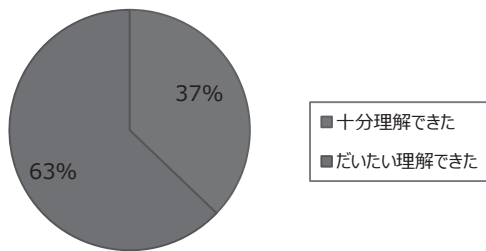
①-5「**F**」実技試験の実施方法について
内容は理解できましたか



①-6「**G**」初級 実技試験 模擬評価に
ついて内容は理解できましたか



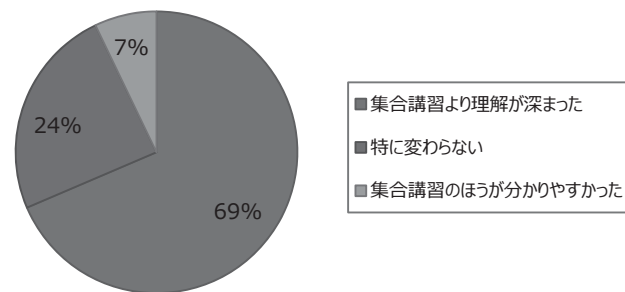
①-7「**H**」試験実施機関と試験評価者の
関係について内容は理解できましたか



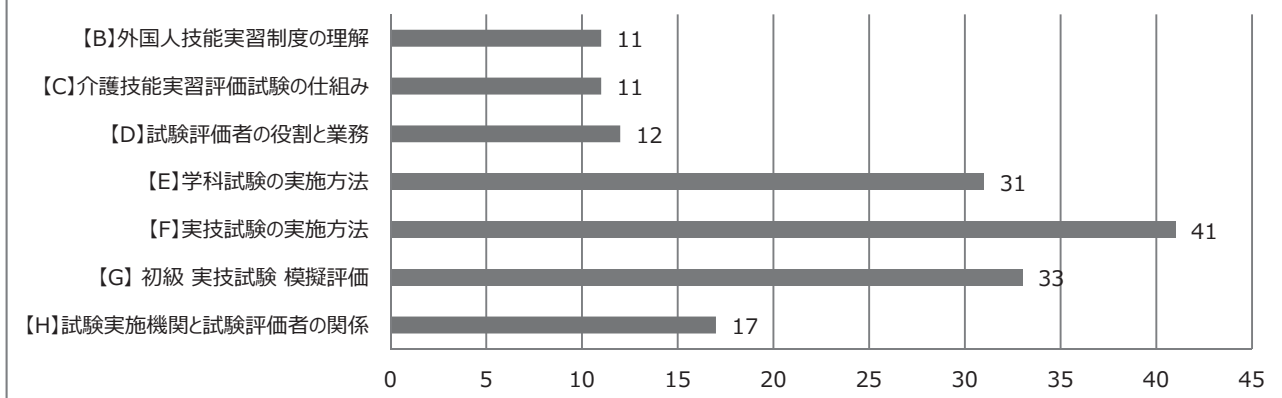
集合講習と比較して、内容の理解が深まったと回答した人は 70 名中 48 名（68.6％）であり、特に理解が深まったカテゴリは、「実技試験の実施方法」「初級 実技試験 模擬評価」「学科試験の実施方法」であった。理解が深まった理由としては、「具体的イメージがついた」「復習が可能である」という意見が寄せられた。

また、「集合講習のほうが分かりやすかった」と回答した 5 名の意見としては、「外国人技能実習制度の理解」が集合講習のほうが分かりやすかったとしており、特にテキストに掲載される資料は国が示している説明資料の場合が多いことため、WEB 上では見づらかったという声がある。

集合講習と比較して、内容の理解は深まりましたか



③ ②で「集合講習より理解が深まった」と回答した方は、具体的にどのカテゴリーが分かりやすかったですか

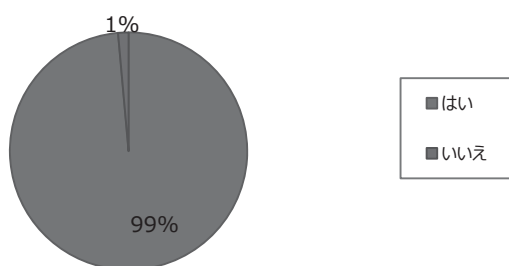


③自己学習について

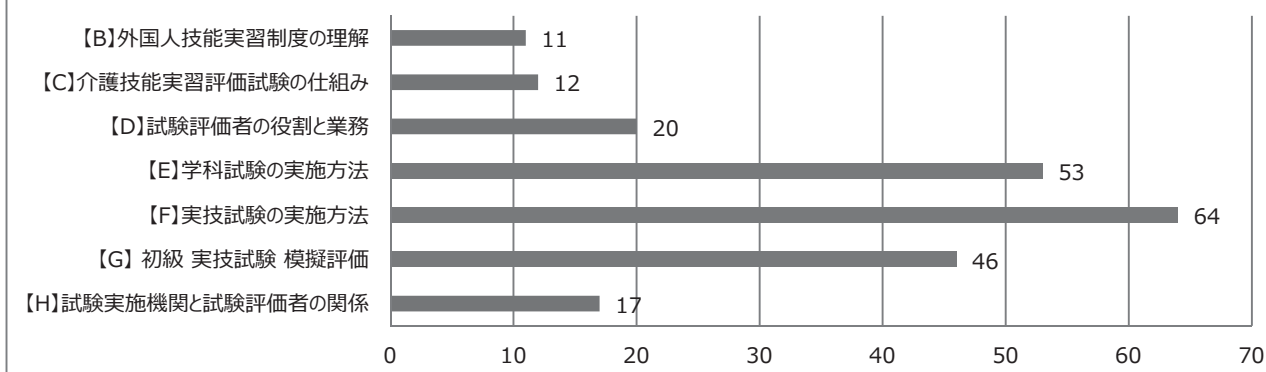
WEB 支援ツールは何度も視聴することが可能であることから、70 名中 69 名（98.6%）が自己学習の手助けになると回答している。また、「いいえ」と回答した受講者の理由も「資料で確認可能なため、WEB 支援ツールでは確認したいところのみできると便利」という回答であったことから、WEB での学習自体は自己学習にとって有効であることが明らかである。

また、自己学習として繰り返し確認したいカテゴリーは「実技試験の実施方法」「学科試験の実施方法」「初級実技試験模擬評価」であり、自己学習を行うタイミングとして、70 名中 65 名（92.9%）は「実際に試験評価に行く前に確認として利用」したいと回答している。

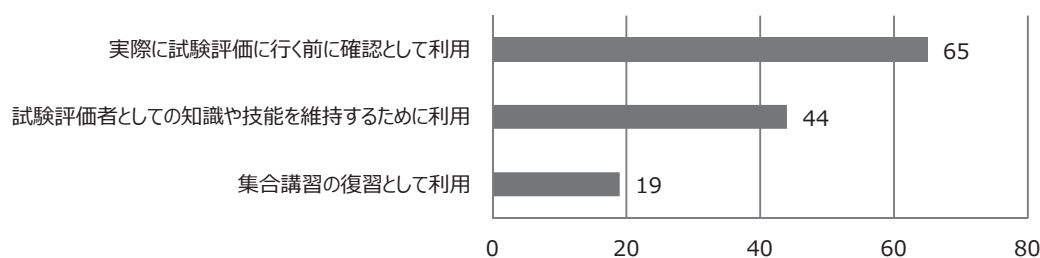
⑤本WEBツールでは何度も繰り返し動画を視聴することができますが、自己学習の手助けになるといいますか



どのカテゴリーが特に自己学習として繰り返し確認したいですか



本WEBツールを自己学習として利用する際、どのような目的で利用しますか

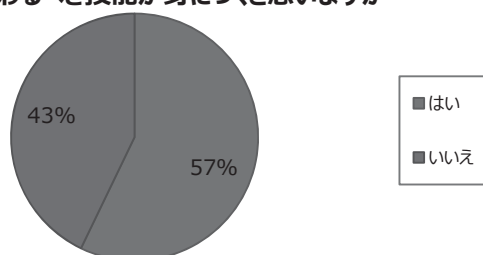


集合講習とWEB支援ツールでは内容に差はないものの、集合講習では「集中して受講できる」「スタッフがそばにいるため質問ができる」等の意見が多く、WEB支援ツールのほうがよいと回答したのは、「復習に活用できる」「いつでもどこでも実施可能である」が挙げられた。

④その他内容について

集合講習とWEB支援ツールの両方を経験した試験評価者に「本WEB支援ツールのみの学習でも試験評価者として備わるべき技能が身につくと思うか」と尋ねたところ、「はい」と回答したのは70名中40名(57.1%)で、30名(42.9%)は「いいえ」と回答している。「いいえ」の理由として多いのは、集合講習のほうが意識が高まる、WEBはフォローアップとして活用したいという意見であった。

⑪本WEBツールのみの学習でも試験評価者として備わるべき技能が身につくと思いますか



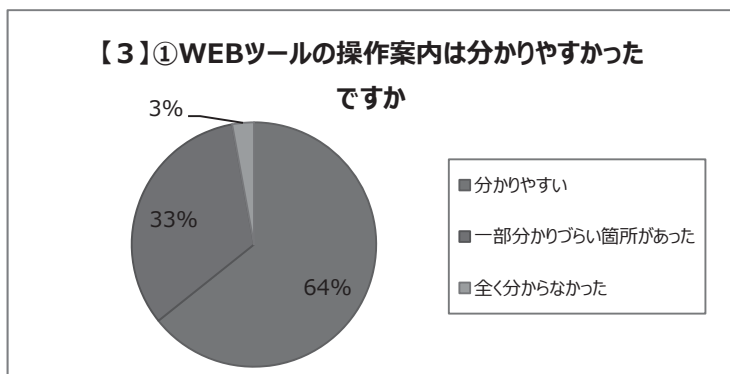
その他、映像に関して、WEB支援ツールの使用感についても確認したが、「映像をキレイにしてほしい」「音量を一定にしてほしい」という意見が多く、この部分についてはシステム上の課題として今後検討が必要なところである。

視聴いただいた映像について「〇〇は再現映像で確認したい」等、ご意見があれば教えてください。(回答者数 26 名)

| 内容 | 人数 |
|--------------------|----|
| 映像を綺麗に、音量を一定にしてほしい | 12 |
| 事例が更にほしい | 5 |
| 講師映像は不要 | 2 |
| マニュアルが別でほしい | 2 |
| 分かりやすかった | 4 |
| その他 | 1 |

【3】③実際に WEB ツールを使ってみて困ったことはありましたか。

| 内容 | 人数 |
|-----------------|----|
| システム自体が分かりにくい | 12 |
| システム操作に迷った | 5 |
| 映像が見にくい、音が一定でない | 2 |
| ログインに迷った | 2 |
| その他 | 1 |



⑤閲覧数の多かった動画について

アンケート回答者がすべての動画を閲覧しているわけではないものの、閲覧数の多かった動画は以下のとおりである。「はじめに」は WEB 支援ツールの説明資料であるため閲覧数は多くなるが、ほとんどは【G】「初級 実技試験 模擬評価」の部分であった。評価結果の提出を求めている「座位での上衣の着脱の介助」と「車いすでの移動の介助」は何度も見ていることがわかる。【B】「外国人技能実習制度の理解」の「我が国の高齢化の状況」は、集合講習にはなく、今回 WEB 支援ツールで新たに追加した部分である。

<閲覧数が多かった動画>

| | 大カテゴリ名 | 中カテゴリ名 | クリップ名 | 閲覧数 |
|----|-----------------|------------------|-----------------------|-----|
| 1 | 【G】初級 実技試験 模擬評価 | 【2】STEP2 | 07_初級 実技試験 模擬評価 結果提出 | 197 |
| 2 | 【G】初級 実技試験 模擬評価 | 【2】STEP2 | 01_STEP2 を始める前に | 169 |
| 3 | 【A】はじめに | 【1】はじめに | 01_資料：はじめに | 143 |
| 4 | 【G】初級 実技試験 模擬評価 | 【2】STEP2 | 02_座位での上衣の着脱の介助 | 134 |
| 5 | 【G】初級 実技試験 模擬評価 | 【1】STEP1 | 01_STEP1 を始める前に | 132 |
| 6 | 【B】外国人技能実習制度の理解 | 【1】我が国と世界の高齢化の状況 | 01_我が国の高齢化の状況 | 130 |
| 7 | 【A】はじめに | 【1】はじめに | 02_資料：WEB 支援ツールの構成 | 128 |
| 8 | 【G】初級 実技試験 模擬評価 | 【2】STEP2 | 03_車いすでの移動の介助 | 126 |
| 9 | アンケート | アンケート | アンケートへの回答をお願いします<第2弾> | 119 |
| 10 | 【G】初級 実技試験 模擬評価 | 【2】STEP2 | 04_事故時の対応 ※判断等試験 | 114 |

逆に、閲覧数の少なかった部分については、【D】試験評価者の役割と業務に集中した。この【D】の部分はすべてを映像化したことから、1度見ればイメージがついたと思われる。

<閲覧数が少なかった動画>

| | 大カテゴリ名 | 中カテゴリ名 | クリップ名 | 閲覧数 |
|----|--------------------|----------------------|-------------------------------|-----|
| 1 | 【H】試験実施機関と試験評価者の関係 | 01_試験評価者の登録と任命 | 03_業務委託料と旅費 | 8 |
| 2 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【3】試験当日の業務について | 09_挨拶・退出 | 81 |
| 3 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【1】試験評価者に求められる役割と倫理観 | 03_受検者への接し方 | 84 |
| 3 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【3】試験当日の業務について | 04_技能実習履歴証明書の確認 | 84 |
| 3 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【3】試験当日の業務について | 07_受検者と挨拶（技能実習指導員）との挨拶、受検者の確認 | 84 |
| 6 | 【C】介護技能実習評価試験の仕組み | 【3】実技試験 | 03_合格基準、実施方法 | 85 |
| 6 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【1】試験評価者に求められる役割と倫理観 | 02_試験評価者として順守すること | 85 |
| 6 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【2】試験前の業務について | 03_事前の日程調整について | 85 |
| 6 | 【E】学科試験の実施方法 | 【1】学科試験 | 03_中止事項 | 85 |
| 10 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【3】試験当日の業務について | 06_学科試験場所等の確認 | 86 |
| 10 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【3】試験当日の業務について | 02_窓口担当者との挨拶 | 86 |
| 10 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【3】試験当日の業務について | 03_試験キットの確認 | 86 |
| 10 | 【D】試験評価者の役割と業務 | 【3】試験当日の業務について | 08_試験実施報告書の作成 | 86 |

（４）再現動画による模擬評価の結果

「実技試験の評価方法」では、集合講習と同様、評価の方法に関する動画を視聴した後、試験評価者の目線で撮影した2つの試験課題について模擬評価を行い、試験評価者間の評価結果が均質に得られているかどうかの検証を行った。

試験課題は集合講習時と同一であるが、集合講習の際の検証結果に基づき、映像の内容や試験評価者の目線、シナリオ等について修正を行ったため、集合講習の際の映像とは異なるものを用いることとなった。

① 座位での上衣の着脱の介助

前回の試験評価者による評価結果のブレ（差異）を抑制するため、模擬評価の前に「Part 1 評価基準の考え方」として、姿勢の確認方法やどこまで声かけをしていたら「できた」と評価するかについて解説する動画を作成することとした。

しかしながら、前回評価結果にブレ（差異）が生じた「5 安定し安楽な姿勢の保持」と「6 衣服の着脱②」の項目については、今回もブレ（差異）が生じたことから、その要因について検討を行った。

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | 7 | 8 | | 9 |
|---|-------|----------|--------|------------|-------------|--------|--------|--------------|----------|----------|--------|
| | 体調の確認 | 介助の説明と同意 | 衣類の選択 | プライバシーへの配慮 | 安定し安楽な姿勢の保持 | 衣服の着脱① | 衣服の着脱② | 衣服のしわやたるみの確認 | 利用者への確認① | 利用者への確認② | 報告 |
| ○ | 63 | 64 | 64 | 64 | 59 | 63 | 60 | 64 | 64 | 61 | 64 |
| × | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 | 1 | 4 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| | 割合 | | | | | | | | | | |
| ○ | 98.4% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 92.2% | 98.4% | 93.8% | 100.0% | 100.0% | 95.3% | 100.0% |
| × | 1.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 7.8% | 1.6% | 6.3% | 0.0% | 0.0% | 4.7% | 0.0% |

②試験課題4「車いすでの移動の介助」

前回の差異をおさえるため、模擬評価の前に「Part 1 評価基準の考え方」ということで、姿勢の確認方法やどこまで声かけをしていたら「できた」と評価するかについて解説する動画を作成した。前回差異があったところは「3安全の確認③」と「4移動の介助①」の項目であったが、今回どちらも差異がでて、さらに「3安全の確認②」も差異が生じた。

参考) 3. 安全の確認②

利用者の手や腕がアームレスト（アームサポート）や大腿部に置かれている（大車輪に巻き込まれないようにしている）

| | 1 | 2 | 3 | | | 4 | | | 5 | 6 |
|---|-------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|
| | 体調の確認 | 介助の説明と同意 | 安全の確認① | 安全の確認② | 安全の確認③ | 移動の介助① | 移動の介助② | 移動の介助③ | 利用者への確認 | 報告 |
| ○ | 61 | 64 | 62 | 58 | 59 | 59 | 63 | 63 | 62 | 63 |
| × | 3 | 0 | 2 | 6 | 5 | 5 | 1 | 1 | 2 | 1 |
| | 割合 | | | | | | | | | |
| ○ | 95.3% | 100.0% | 96.9% | 90.6% | 92.2% | 92.2% | 98.4% | 98.4% | 96.9% | 98.4% |
| × | 4.7% | 0.0% | 3.1% | 9.4% | 7.8% | 7.8% | 1.6% | 1.6% | 3.1% | 1.6% |

前回と同様、差異の出る箇所と理由は同様であり、試験評価者個人の資質による差異というよりは、評価基準の判断材料が不明瞭なために起きた差異と言える。試験実施機関は判断基準をさらに精査し、試験評価者への伝え方も含め、検討していかなければならない。

(5) 検証結果から得られた課題

本検証の目的は、「①集合講習と比較した際の WEB 支援ツールの有効性」と「②試験評価者へのフォローアップとしての WEB 支援ツールの検討」であったが、②のフォローアップとしての WEB 支援ツールについては、アンケート結果からも有効性が高いことは明らかである。特に、「自己学習の手助けになると思いませんか」という問いに対してはほぼ 100%が「はい」と回答しており、試験評価に行く前に確認することで、試験評価者の不安を軽減し、評価手法の再確認を行うことが可能であろう。

一方で、①の集合講習と比較した際の WEB 支援ツールの有効性については、43%が「本 WEB ツールのみでの学習では試験評価者として備わるべき技能が身につかない」と回答していることから、WEB 支援ツールの構成や内容はさらに精査が必要である。特に、実技試験の評価については、試験評価者が自らの価値観や経験則によって評価するのではなく、評価基準及び判断するうえでの留意事項を正しく理解し評価できるよう、伝え方は工夫が必要である。また、一方的に伝えるのではなく、伝えた内容が正しく理解されたかどうかあわせて確認が必要である。今回は、評価結果を提出してもらったが、その回答あわせは行っておらず、フィードバックする仕組みも検討される。

第4章

試験評価者の資質向上のための 支援ツールのあり方について

第4章 試験評価者の資質向上のための支援ツールのあり方について

1. 課題の整理

本調査研究では、介護技能実習評価試験の試験評価者の資質向上のための方策として、養成のあり方、質の維持について、どのような支援が行えるのか検討を行うことを目的としている。

このため、今年度は、試験評価者の養成方法として、既に集合講習として実施された「試験評価者養成講習」での取り組みを検証するとともに、今後、全国規模で試験評価者をeラーニング等のWEB方式による養成や復習等の仕組み構築の可能性に関して検討することとしている。

①「試験評価者養成講習」における、集合講習と比較した場合のWEB方式の有効性について

試験評価者の養成方法について、2018年度の試験評価者養成講習を修了し「試験評価者」として登録された者を対象として、WEB支援ツールを活用してもらい、その結果を踏まえて、養成側（試験実施機関）と受講者側のそれぞれにおいてのメリット・デメリット等について整理した。

<集合講習> 注) ●試験実施機関にとっての内容 ○受講者にとっての内容

| 項目 | 方法 | | 試験評価者養成講習（集合講習） |
|--------------|--------------------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講習内容 | | + | ●試験実施機関や講師が意図した順序、タイミングで伝えることができる ●臨場感があり、講師の熱意が伝わる ●受講者の受講態度や理解の度合いを確認できる ○緊張感があり、集中して受講できる |
| | | - | ●開催日や講師によって、内容や表現に差が生じる ●同じ話を繰り返し行うことがある |
| 受講者同士の交流 | 演習は設けていないが、交流は可能 | + | ○同じ志を持った者同士で意見交換等が可能 |
| | | - | |
| 質疑応答 | 設けていないが、スタッフに確認できる | + | ○その場で疑問を解消できる ○受講者同士で相談ができる |
| | | - | ●質疑への対応の体制や時間を用意する必要がある |
| 受講しやすさ（開催日時） | 各会場1日のみ1日拘束 | + | ○日程調整が一度済んでしまえば、予定がたてやすい |
| | | - | ●たとえ理解していない受講者がいても時間が決められているため、先に進まなければならない ○受講者が受講日を選択できない（勤務と調整が必要） |
| 受講しやすさ（会場） | 全国7都市 | + | |
| | | - | ●試験評価者を全都道府県に均一に養成することが困難 ●地域によって会場に差がでる ●定員があることから、受講者の調整や会場の変更を行うことがある ○場所によっては遠方から参加しなければならない |
| その他 | | + | ●受講者のキャンセルが少ない |
| | | - | ●災害等により延期、中止のリスクがある |

<WEB 方式>

注) ●試験実施機関にとっての内容 ○受講者にとっての内容

| 項目 | 方法 | | WEB 支援ツール |
|------------------|---------------------------|---|--------------------------------------------------------------------------------|
| 講習内容 | 試験評価者の業務や実技試験の実施方法等、映像を追加 | + | ●教育の品質を統一できる ●どこが大事なのか明確に伝えることができる ○わからないところをその場で何度も確認することができる ○復習が可能 |
| | | - | ●受講者のタイミングで学習が進むことから、試験実施機関と受講者の理解度が異なる可能性がある ●受講者の受講態度や理解の度合いの確認ができない |
| 受講者同士の交流 | | + | ○他者に影響されない |
| | | - | ○相談できる相手がおらず、孤立感がある |
| 質疑応答 | | + | ●質問内容が履歴として残るため、質問内容を確実に把握することができる |
| | | - | ●時間帯によっては事務局の対応が不可能 |
| 受講しやすさ (開催日時) | 2:13:25 (約2時間半) | + | ●日程調整(同日に大きなイベントがないか等の確認)が不要 ○自分のペースで空いた時間でも学習が可能 |
| | | - | ○受講者自分で学習時間やペースを管理しなければならない |
| 受講しやすさ (会場) | IDとパスワードの付与でどこにいてもログイン可能 | + | ●会場の手配等が不要 ●定員等を気にせず、受講希望者全員を受講させることができる ○移動せずに受講することができるため旅費等の負担がかからない |
| | | - | ●大人数の養成が可能 |
| その他 | | + | ●受講開始時から修了までに途中棄権がでる可能性がある |
| | | - | |

このように、試験評価者の養成という観点から、「試験評価者養成講習」について、集合講習とWEB方式を比較したが、それぞれについてメリット・デメリットがあることが表のように整理された。

一方、今後の技能実習制度の拡大に伴って発生する試験評価者の需要増に対しては、委員会での指摘のとおり、全国を対象として、多数の受講者がいつでも受講でき、かつ均質性を確保できる講習方法を最優先に検討すべきとの意見があることを踏まえ、WEB方式での支援ツールを念頭に検討したところである。そして、こうした検証結果について委員会に報告し、検討を進めた結果、WEB方式であっても講習としての代替性は十分に確保でき、修得度合いの有効性についても十分な成果が得られたのではないかと確認がなされた。

ただし、WEB方式での支援ツールを実装していくに当たっても、さらに深刻さを増す介護現場での介護人材の確保の困難性を踏まえつつ、今回の検証結果を基にさらなる検討を進め、WEB方式の利便性の向上、各種映像コンテンツ等の質の向上、試験評価者の均質性の確保(とりわけ模擬評価においてプレの生じた項目の改善)等に努めるべきであるとされた。こうした指摘については、試験実施機関において、今後、実装段階までに十分な対応が図られるよう期待される場所である。

②試験評価者へのフォローアップとしてのWEB支援ツールの検討

また、フォローアップのための支援ツールとしては、試験評価者養成講習の復習としての意味合いから、講習内容の振り返りと、何度も反復することにより知識・技術を高めることの目的があるが、試験評価者の要請としては、いつ試験の依頼が発生するかわからない状況にあつて、実際の試験実施の前に、試験の実施方法や実技試験の評価手法等について再度確認したいというニーズが強いことがわかった。

特に、実技試験の評価手法については、一部の評価基準に差異が生じていることから試験評価者の判断に曖昧さが残存していることが伺え、試験当日に確認することになる「判断するうえでの留意事項の読み解き方」「評価基準の考え方」等について事前に確認し、さらに模擬評価によって演習しておけることに対する支援についての要望が大きいことがわかった。

このため、調査研究実施期間内にあつては、こうしたフォローアップのための支援ツールとしての活用について柔軟に対応するとともに、期間中に寄せられたさまざまな質問等について、できる限り詳細かつカテゴリごとに検索しやすい「Q&A」を作成し受講者に情報提供するようにした。こうした今回の対応は、今後のフォローアップとして活用できるものと考えられる。

2. 今後の「試験評価者養成講習」等のあり方について

介護技能実習評価試験は、今後、本格的に全国で実施されることとなり、技能実習生の増加とともに試験実施回数は急増することが予想される。そのために試験実施機関は、試験評価者を全国に必要な数、必要な地域に適正に配置していかなければならない。今年度実施された「試験評価者養成講習」で養成された試験評価者は500名程度であることから、こうした適正配置の目的が十分に果たせているとはいえない状況にある。したがって、次年度以降も継続して試験評価者の養成を全国規模で行っていく必要があることから、本調査研究事業においては、「①集合講習と比較した際のWEB支援ツールの有効性の検証」と「②試験評価者へのフォローアップとしてのWEB支援ツールの検討」を行った。

これらの結果については前述したとおりであるが、集合講習方式もWEB方式も、それぞれに課題はあるものの、どちらの手法を用いても試験評価者の養成そのものは可能となる。しかしながら、前述の目的に照らして、今後の「試験評価者養成講習」等のあり方を検討するに当たっては、本年度実施された集合講習方式のままでは、全国に万遍なく試験評価者を養成すること、全ての試験評価者に平等に学習の機会を与えることが困難となることが懸念される。このため、これとは別の方式としてWEB方式での支援ツールの開発を検討し、映像等を多様に用いるなどの工夫を行いつつモデル的に構築した上で、集合講習の受講者の協力を得て検証したところである。

また、試験実施機関には、全国で均質な介護技能実習評価試験を円滑に実施できるような運営体制を整えることが強く求められることを考慮し、どの受講者に対しても均質な内容で講習を行うことができ、何度も繰り返し反復することで資質の向上が図れるようフォローアップの仕組みを構築するといった観点からも検証を行った。

その結果、今後の「試験評価者養成講習」等のあり方としては、今回の成果を踏まえて、引き続き WEB 方式での支援ツールの開発を進めることが適当であると考えられる。その一方で、検討委員会において、今回の「試験評価者養成講習」の受講者アンケートの結果や、今後試験評価者となることが見込まれる介護職員は、過去に集合講習方式での受講経験が多かったこと等を勘案して、集合講習方式のメリットも活かすような取り組みも考えるべきではないかといった意見もあったことから、具体的に「試験評価者養成講習」を構築する際には、こうした点も十分に踏まえつつ進めるべきである。

さらには、試験評価者は、介護技能実習評価試験の仕組み、評価項目・評価基準の考え方等について正しく理解している者であることから、今後の外国人技能実習制度の普及啓発に大きく寄与することが期待される。また、その資質を維持・向上していくことは、我が国の介護職種における「技能移転」を推進していく上でも非常に重要な意味を持つことから、今後とも引き続き、より効率的・効果的な支援ツールの開発を進めるとともに、継続的な支援体制を構築していくことが重要である。

參考資料

調査 1 : 試験評価者養成講習 アンケート用紙

介護技能実習評価試験 平成 30 年度 試験評価者養成講習 アンケート

今後の講習実施に当たっての参考とさせていただくため、以下のアンケートにご回答いただきますよう、お願い申し上げます。アンケートに回答がない場合は、講習を修了したものとみなしませんのでご注意ください。

◆ I. 試験評価者養成講習の内容についてお聞きします。

(1) 「1. 外国人技能実習制度について」の、内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 十分理解できた | <input type="checkbox"/> だいたい理解できた |
| <input type="checkbox"/> あまり理解できなかった | <input type="checkbox"/> 全く理解できなかった |

(2) 「2. 介護技能実習評価試験の仕組み」の、内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 十分理解できた | <input type="checkbox"/> だいたい理解できた |
| <input type="checkbox"/> あまり理解できなかった | <input type="checkbox"/> 全く理解できなかった |

(3) 「3. 試験評価者の役割と業務」の、内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 十分理解できた | <input type="checkbox"/> だいたい理解できた |
| <input type="checkbox"/> あまり理解できなかった | <input type="checkbox"/> 全く理解できなかった |

(4) 「4. 実技試験の評価方法」の、内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 十分理解できた | <input type="checkbox"/> だいたい理解できた |
| <input type="checkbox"/> あまり理解できなかった | <input type="checkbox"/> 全く理解できなかった |

(5) 「4. 実技試験の評価方法」にて、2つの実技試験課題について、試験評価者の視点で再現動画を使用しましたが、いかがでしたか。(どちらかひとつ)

- | | |
|-----------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> わかりやすかった |) |
| <input type="checkbox"/> わかりづらかった (理由 : | |

(6) 「5. 試験実施機関と試験評価者の関係」の、内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 十分理解できた | <input type="checkbox"/> だいたい理解できた |
| <input type="checkbox"/> あまり理解できなかった | <input type="checkbox"/> 全く理解できなかった |

(7) 講習の時間は適当でしたか (どれかひとつ)

- | | | |
|-------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 長かった | <input type="checkbox"/> 適当 | <input type="checkbox"/> 短かった |
|-------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|

(8) 講習内容で、もっと詳しく聞きたかった内容はどれですか。(どれかひとつ)

- | | |
|---------------------------------------------|--------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 外国人技能実習制度の理解 | <input type="checkbox"/> 2. 介護技能実習評価試験の仕組み |
| <input type="checkbox"/> 3. 試験評価者の役割と業務 | <input type="checkbox"/> 4. 実技試験の評価方法 |
| <input type="checkbox"/> 5. 試験実施機関と試験評価者の関係 |) |
| <input type="checkbox"/> 6. その他 (| |

◆Ⅱ. 今後の試験評価者養成講習の開催の参考とさせていただくため、お聞きします。

(1) 講習に求める内容を選択してください。(複数選択)

| | |
|-------------------------------------------|------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 自分のペースで学習したい | <input type="checkbox"/> 講義形式で学習したい |
| <input type="checkbox"/> 受講日を複数から選択したい | <input type="checkbox"/> 事前学習(予習)したい |
| <input type="checkbox"/> 映像等を用いた学習がしたい | <input type="checkbox"/> グループワーク等の演習がしたい |
| <input type="checkbox"/> いつでも見返せるテキストが欲しい | <input type="checkbox"/> 他の受講生と意見交換したい |
| <input type="checkbox"/> 質疑応答の時間がほしい | <input type="checkbox"/> その他 |
| ※その他の場合 | |

(2) 講習はどのような形式で開催されることを望みますか。(どれかひとつ)

| | |
|-----------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> WEB形式(eラーニング等) | <input type="checkbox"/> 集合講習形式 |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

(3) WEB形式で受講する場合、どのような機器で受講すると思いますか。(複数回答)

| | | | |
|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> PC | <input type="checkbox"/> タブレット | <input type="checkbox"/> スマートフォン | <input type="checkbox"/> その他() |
|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|

(4) 実際に試験評価を行うにあたって、事務局の体制として求めるものはありますか。(複数選択)

| | |
|----------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 業務を円滑に進めるための相談窓口 | <input type="checkbox"/> 試験評価者としてさらに知識を深めるための研修 |
| <input type="checkbox"/> 試験評価者間のコミュニケーションツール | <input type="checkbox"/> 事例やQ&A等の支援情報の提供 |
| <input type="checkbox"/> その他 | |
| ※その他の場合 | |

◆Ⅲ. 所属する事業所・施設等での技能実習生の受入状況についてお聞きします。

(1) 現在、所属する事業所・施設等で、技能実習生を受入れていますか。(どちらかひとつ)

| | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 受入れている | <input type="checkbox"/> 受入れていない |
|---------------------------------|----------------------------------|

(2) (1)で「受入れている」と回答した場合、人数と国籍をお聞かせください。 ※任意

| |
|------------|
| 人 (国籍 :) |
|------------|

【 会場】

| | | | |
|-------------------------|--|----------|-----------------------|
| アセッサー／ 外部評価審査 員ID | | 受講者 名 | |
| 都道府県 | | 年代 | 20代、30代、40代、50代、60代以上 |

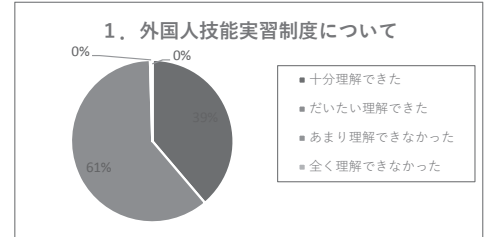
ご記入いただきまして、ありがとうございます。

調査 1：試験評価者養成講習 アンケート結果

I. 試験評価者養成講習の内容についてお聞きします。

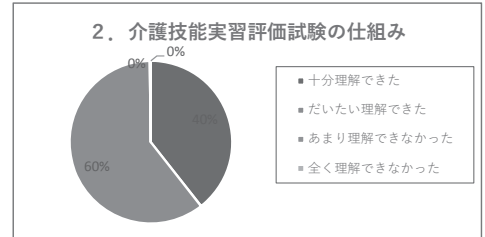
(1) 「1. 外国人技能実習制度について」の、内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

| 項目 | 人数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| 十分理解できた | 172 | 38.7% |
| だいたい理解できた | 270 | 60.8% |
| あまり理解できなかった | 2 | 0.5% |
| 全く理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 合計 | 444 | 100.0% |



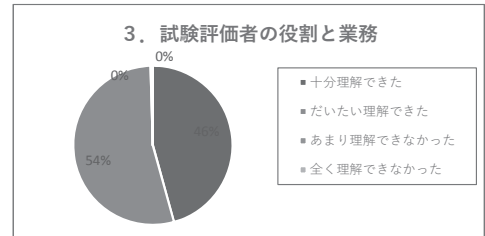
(2) 「2. 介護技能実習評価試験の仕組み」の、内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

| 項目 | 人数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| 十分理解できた | 175 | 39.4% |
| だいたい理解できた | 268 | 60.4% |
| あまり理解できなかった | 1 | 0.2% |
| 全く理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 合計 | 444 | 100.0% |



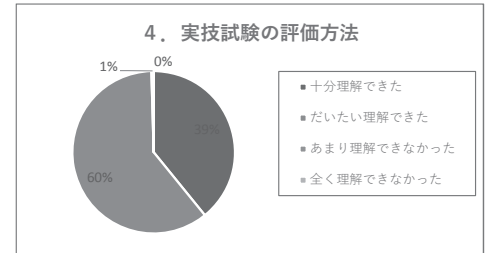
(3) 「3. 試験評価者の役割と業務」の、内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

| 項目 | 人数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| 十分理解できた | 203 | 45.7% |
| だいたい理解できた | 239 | 53.8% |
| あまり理解できなかった | 2 | 0.5% |
| 全く理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 合計 | 444 | 100.0% |



(4) 「4. 実技試験の評価方法」の、内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

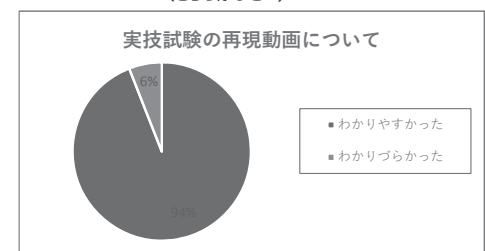
| 項目 | 人数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| 十分理解できた | 173 | 39.1% |
| だいたい理解できた | 267 | 60.4% |
| あまり理解できなかった | 2 | 0.5% |
| 全く理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 未記入 | 2 | - |
| 合計 | 444 | 100.0% |



(5) 「4. 実技試験の評価方法」にて、2つの実技試験課題について、試験評価者の視点で再現動画を使用しましたが、いかがでしたか。

(どちらかひとつ)

| 項目 | 人数 | 割合 |
|----------|-----|--------|
| わかりやすかった | 411 | 92.6% |
| わかりづらかった | 26 | 5.9% |
| 未記入 | 7 | - |
| 合計 | 444 | 100.0% |

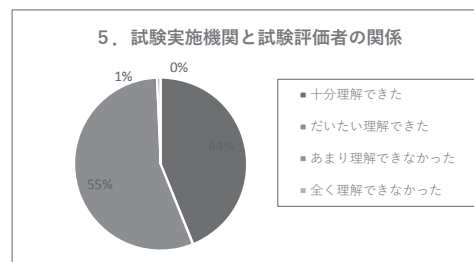


※「わかりづらかった」と回答した人の意見（複数意見）

| 意見 | 人数 |
|----------------------------|----|
| 音が小さい | 6 |
| スクリーンが見えづらい | 5 |
| 時間の表示が見えなかった | 4 |
| 音声が終わったようで評価しづらい（車いす） | 3 |
| 動作が鮮明でない、わかりづらい | 1 |
| 部分的にできていたりできていなかったり | 2 |
| 都度の声かけの判断基準が不明瞭 | 3 |
| 安定した姿勢の判断基準が不明瞭 | 1 |
| 報告の仕方の判断基準が不明瞭 | 1 |
| 評価の答え合わせをしてほしい | 1 |
| 初級のレベル感が低く、どのような時に不合格になるのか | 1 |
| 利用者票の確認時間がほしい | 1 |
| 質問の時間がほしい | 1 |
| 早く進んで追いつかない | 1 |

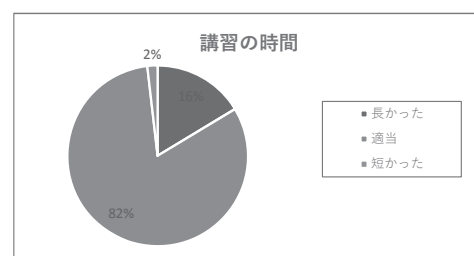
(6) 「5. 試験実施機関と試験評価者の関係」の内容の理解はできましたか。(どれかひとつ)

| 項目 | 人数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| 十分理解できた | 194 | 43.9% |
| だいたい理解できた | 245 | 55.4% |
| あまり理解できなかった | 3 | 0.7% |
| 全く理解できなかった | 0 | 0.0% |
| 未記入 | 2 | - |
| 合計 | 444 | 100.0% |



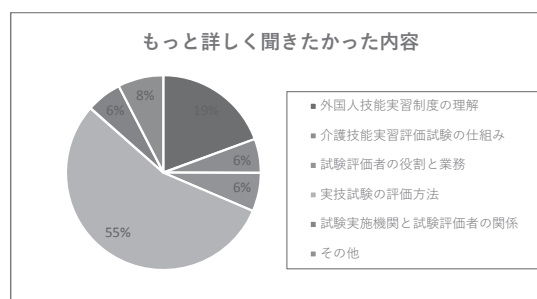
(7) 講習の時間は適当でしたか。(どれかひとつ)

| 項目 | 人数 | 割合 |
|------|-----|--------|
| 長かった | 72 | 16.3% |
| 適当 | 361 | 81.9% |
| 短かった | 8 | 1.8% |
| 未記入 | 3 | - |
| 合計 | 444 | 100.0% |



(8) 講習内容で、もっと詳しく聞きたかった内容はどれですか。(どれかひとつ)

| 項目 | 人数 | 割合 |
|-----------------|-----|--------|
| 外国人技能実習制度の理解 | 82 | 19.4% |
| 介護技能実習評価試験の仕組み | 24 | 5.7% |
| 試験評価者の役割と業務 | 27 | 6.4% |
| 実技試験の評価方法 | 233 | 55.1% |
| 試験実施機関と試験評価者の関係 | 25 | 5.9% |
| その他 | 32 | 7.6% |
| 未記入 | 21 | - |
| 合計 | 444 | 100.0% |



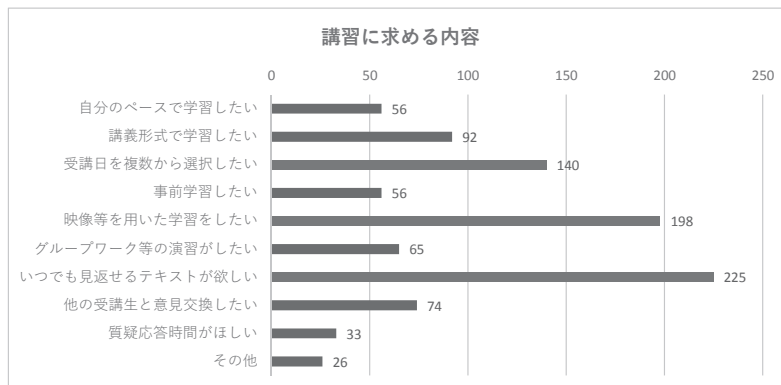
※「その他」と回答した人の意見（複数意見）

| 意見 | 人数 |
|----------------------|----|
| 専門級・上級の評価について | 2 |
| 受検者への指導内容 | 2 |
| 評価の留意内容 | 1 |
| 中止中断等のイレギュラー対応 | 1 |
| 技能実習指導員が間違えた場合の評価 | 1 |
| 演習 | 1 |
| 評価に迷った場合の対応（備考欄への記載） | 1 |
| 評価が難しい場面の想定 | 1 |
| 技能実習指導員の業務の理解 | 1 |
| 試験評価者の活動頻度 | 1 |
| 現在の入国状況 | 1 |
| 質疑応答 | 1 |
| 今後のQ&A | 1 |

II. 今後の試験評価者養成講習の開催の参考とさせていただくため、お聞きします。

(1) 講習に求める内容を選択してください。(複数選択)

| 項目 | 人数 |
|------------------|-----|
| 自分のペースで学習したい | 56 |
| 講義形式で学習したい | 92 |
| 受講日を複数から選択したい | 140 |
| 事前学習したい | 56 |
| 映像等を用いた学習をしたい | 198 |
| グループワーク等の演習をしたい | 65 |
| いつでも見返せるテキストが欲しい | 225 |
| 他の受講生と意見交換したい | 74 |
| 質疑応答時間がほしい | 33 |
| その他 | 26 |
| 合計 | 965 |



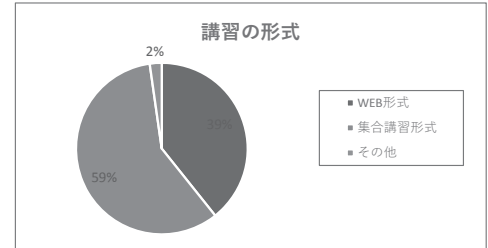
※「その他」と回答した人の意見

| 意見 | 人数 |
|--------------------|----|
| 修了要件に確認テスト等を設けるべき | 4 |
| 開催場所を増やしてほしい | 2 |
| ネットで確認、テキストデータがほしい | 2 |
| 会場にゆとりがほしい | 1 |
| スクリーンが見えづらい | 1 |
| 参加確定の連絡が早くほしい | 1 |
| 説明者が変わると内容の重複がある | 1 |
| 演習時間を長くしてほしい | 1 |
| 演習がないとイメージがつかない | 1 |
| 趣味レションで実際に評価を学びたい | 1 |
| 質疑応答 | 1 |
| 今後のQ&A | 1 |

| 意見 | 人数 |
|-----------------------------------|----|
| 中止事例等を映像で学習したい | 1 |
| 演習の答えあわせをしてほしい | 1 |
| 評価を統一させるため、判断するうえでのポイントをさらに教えてほしい | 1 |
| 同一県の試験評価者と情報交換したい | 1 |
| 映像を用いたイーラーニング学習にしてほしい | 1 |
| 簡略化したテキストがほしい | 1 |
| 評価のQ&Aがほしい | 1 |
| フォローアップの講習がほしい | 1 |
| 技能実習指導員講習と連動してほしい | 1 |

(2) 講習はどのような形式で開催されることを望みますか。(どれかひとつ)

| 項目 | 人数 | 割合 |
|--------|-----|--------|
| WEB形式 | 174 | 39.3% |
| 集合講習形式 | 259 | 58.5% |
| その他 | 10 | 2.3% |
| 未記入 | 1 | - |
| 合計 | 444 | 100.0% |

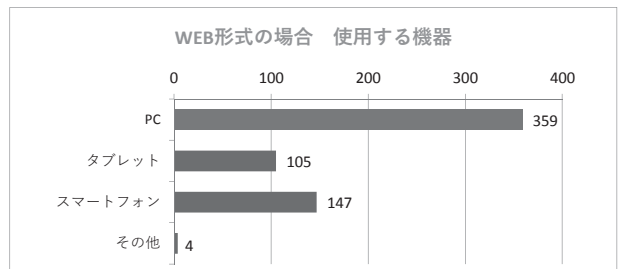


※「その他」と回答した人の意見

| 意見 | 人数 |
|----------------------|----|
| 両方必要 | 4 |
| どちらでも構わない | 3 |
| 講義の内容はWEB、評価の練習は集合講習 | 1 |
| 意見交換会があるなら集合講習 | 1 |
| 質の高い研修方式 | 1 |

(3) WEB形式で受講する場合、どのような機器で受講すると思いますか。(複数回答)

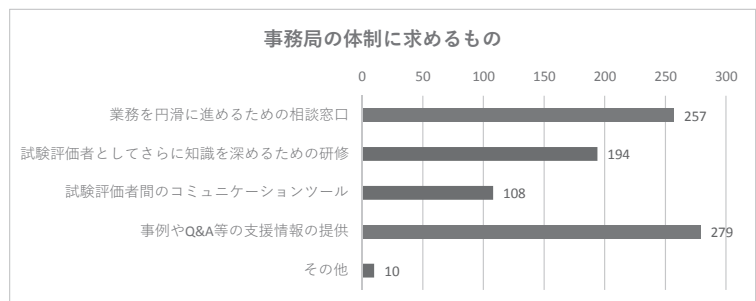
| 項目 | 人数 |
|---------|-----|
| PC | 359 |
| タブレット | 105 |
| スマートフォン | 147 |
| その他 | 4 |
| 合計 | 615 |



※その他の意見 「通信制限があるのでWEBは推奨しない」

(4) 実際に試験評価を行うにあたって、事務局の体制として求めるものはありますか。(複数回答)

| 項目 | 人数 |
|------------------------|-----|
| 業務を円滑に進めるための相談窓口 | 257 |
| 試験評価者としてさらに知識を深めるための研修 | 194 |
| 試験評価者間のコミュニケーションツール | 108 |
| 事例やQ&A等の支援情報の提供 | 279 |
| その他 | 10 |
| 合計 | 848 |



※「その他」と回答した人の意見

| 意見 |
|-----------------------|
| 何か起きた時の連絡先 |
| メール等での相談対応 |
| WEB質問ページの設置 |
| 試験評価者養成講習の質の向上 |
| 愛知県開催してほしい |
| 介護現場における外国語研修 |
| 評価者として滞りなく業務が出来るかの評価 |
| 一人で評価するのに十分な資料と説明がほしい |
| 当日のタイムスケジュールを知りたい |

調査 2 : 他職種の技能実習評価試験実施機関に対する依頼状、アンケート用紙

振 発 第 73 号

平成 30 年 11 月 21 日

各技能実習評価試験実施機関 御中

一般社団法人シルバーサービス振興会

理事長 水田 ・ 雄

外国人技能実習評価試験における試験監督者養成に関する アンケート調査の実施について（依頼）

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当会は外国人技能実習制度における「介護職種」の技能実習評価試験実施機関であり、平成 29 年 11 月 1 日に職種追加され、年明け以降実施される試験に向け、体制を整えているところでございます。「介護」は、利用者の自立支援を実現するための思考過程に基づく行為であり、介護職となる技能実習生は個々に異なる利用者の状態像に応じた介護を提供することとなるため、試験の実施にあたっては、試験監督者（介護においては、試験評価者という。）は技能実習生が勤務する事業所・施設等（実習実施者）に訪問し、試験を実施することとしています。このため、介護技能実習評価試験では、業界総意のもと、試験評価者を全国に配置し、随時試験を実施できる体制作りを進めているところでございます。

今後、試験を公平・公正に実施していくにあたり、全国に配置する試験評価者の質の維持・向上のために試験実施機関として行うべき対応について、すでに技能実習評価試験実施機関としてご実績のある皆様に、試験監督者養成についてアンケート調査をさせていただきたく、ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力くださるようお願い申し上げます。

なお、本アンケートは、厚生労働省 社会福祉推進事業「介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業」の一環として実施しております。結果につきましては、機関を特定できないよう全体の結果とし、本調査研究の報告書をもって、後日送付させて頂くこととしております。

つきましては、別紙アンケート票にご記入のうえ、平成 30 年 12 月 14 日（金）までに、下記までご返信賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

【アンケート調査票の返送先及び問い合わせ先】

一般社団法人シルバーサービス振興会 担当：企画部

住所：東京都港区西新橋 3 丁目 25 番 33 号 NP 御成門ビル 6 階

電話 03-6402-3865 FAX 03-5402-4884

アンケート調査票

平成 30 年度社会福祉推進事業「介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上の
ための総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業」

外国人技能実習評価試験における試験監督者養成に関するアンケート調査票

【ご記入のご注意】

1. 質問は、該当する選択肢に☑をつけるもの、数値を記入するもの、具体的に記載いただくものがあります。
2. ☑をつけていただく質問は、原則、選択肢からひとつ選んでいただきますが、複数選択可と記載がある設問については複数の該当する回答を選んでいただきます。

3. 回答期限

2018年12月14日（金）

※ FAX、メールによる送信可

※ 様式は下記よりダウンロードできます。

http://www.espa.or.jp/internship_recruitment/questionnaire20181120.docx

4. 提出先

一般社団法人シルバーサービス振興会 企画部

FAX : 03-5402-4884

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

ご回答いただく方についてお答えください。

| | | |
|-------|------|--|
| 貴機関名 | | |
| 貴部署名 | | |
| ご担当者名 | | |
| ご連絡先 | 電話 | |
| | FAX | |
| | Mail | |

※ご回答いただいた内容について、不明な点や詳細をお聞きしたい点があった場合はご質問させていただきたく、ご回答者自身について、上記の項目のご記入をお願い申し上げます。

※なお、本調査で回答していただいた内容は、調査の目的以外に使用することはありません。

1. 基本情報

| | | |
|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①. 取扱職種 | () | |
| ②. 職種追加年 | () | |
| ③. 受検者数(1号) | ()名 ※2017年度実績 | |
| ④. 試験実施方法 | <input type="checkbox"/> 試験実施機関が定めた会場に受検者を集めて実施(集合方式) <input type="checkbox"/> 実習実施者で実施(訪問方式) <input type="checkbox"/> 集合方式と訪問方式の併用 <input type="checkbox"/> その他() | |
| ⑤. 試験問題の作問 頻度 (※学科・実技それぞれ 回答をお願いします。) | 学科 試験 | <input type="checkbox"/> 認定時に作問し、その中から毎年選んで出題している <input type="checkbox"/> 定期的に作問し、入替を行っている(具体的な頻度:) <input type="checkbox"/> 不定期に見直し・作問し、入替を行っている (入替のタイミング) |
| | 実技 試験 | <input type="checkbox"/> 認定時に作問し、その中から毎年選んで出題している <input type="checkbox"/> 定期的に作問し、入替を行っている(具体的な頻度:) <input type="checkbox"/> 不定期に見直し・作問し、入替を行っている (入替のタイミング) |
| ⑥. 試験実施方法に関する説明等の講習を行っていますか。 | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑦. ⑥で「はい」を選択された場合、その講習の対象者を教えてください。(※複数選択可) | <input type="checkbox"/> 監理団体 <input type="checkbox"/> 実習実施者 <input type="checkbox"/> 受検者 <input type="checkbox"/> その他() | |
| ⑧. ⑥で「はい」を選択された場合、その講習の参加費用を教えてください。 | <input type="checkbox"/> 有料 (参加費:) | 円) |
| | <input type="checkbox"/> 無料 | |

⑥「はい」の場合

2. 試験監督者について

| | |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①. 試験監督者数 | ()名 ※2018年10月末時点 |
| ②. 試験監督者の雇用 形態 (※複数選択可) | <input type="checkbox"/> 直接雇用(定年以外の雇用期間の定めなし) <input type="checkbox"/> 直接雇用(雇用期間の定めなし) <input type="checkbox"/> 派遣社員 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> その他() |
| ③. 試験監督者の配置 状況 | <input type="checkbox"/> 全都道府県に配置 <input type="checkbox"/> 地方単位(北海道、東北、関東、中部、中国、四国、九州等)で、全ての地方に配置 <input type="checkbox"/> 地方単位(北海道、東北、関東、中部、中国、四国、九州等)で、一部の地方に配置 <input type="checkbox"/> 試験実施機関に配置(試験実施機関所在地に配置されている) <input type="checkbox"/> その他() |

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ④. 試験監督者の採用 (募集)頻度 | <input type="checkbox"/> 定期的に採用(募集) (具体的な頻度:) <input type="checkbox"/> 不定期に採用(募集) (具体的な頻度:) <input type="checkbox"/> その他() |
| ⑤. 試験監督者の任期 (※複数選択可) | <input type="checkbox"/> 任期は設けていない <input type="checkbox"/> 任期を設けている (具体的な期間:) ⇒ 更新(<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無) <input type="checkbox"/> 定年を設けている |
| ⑥. 試験監督者になるための要件 (※複数選択可) | <input type="checkbox"/> 試験実施機関が指定する資格を有すること <input type="checkbox"/> 試験監督者になるための講習・研修を修了すること <input type="checkbox"/> 試験監督者になるための試験に合格すること <input type="checkbox"/> その他() |
| ⑦. ⑥で「試験監督者になるための講習・研修を修了すること」、「試験監督者になるための試験に合格すること」を選択された場合、講習(研修)や試験の開催頻度はどれくらいですか。 | <input type="checkbox"/> 定期的に開催(具体的な頻度:) <input type="checkbox"/> 不定期に開催(具体的な頻度:) <input type="checkbox"/> その他() |
| ⑧. ⑥で「試験監督者になるための講習・研修を修了すること」、「試験監督者になるための試験に合格すること」を選択された場合、どのような方式で実施していますか。 | <input type="checkbox"/> 集合方式 <input type="checkbox"/> eラーニング等のWEB方式 <input type="checkbox"/> その他() |
| ⑨. 試験監督業務に一定期間従事していない試験監督者に対して、研修等の要件は定めていますか。 | <input type="checkbox"/> はい(要件を定めている) <input type="checkbox"/> いいえ(要件を定めていない) |
| ⑩. ⑨で「はい」を選択された場合、具体的にどのような要件を定めていますか。(※自由記述) | 例:養成講習の再受講、試験監督者になるための試験の再試験等 <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> |
| ⑪. 試験監督者に支払う報酬は、試験1回につきですか。1日あたりですか。 | <input type="checkbox"/> 1回の試験につき ()円 <input type="checkbox"/> 1日あたり ()円 <input type="checkbox"/> その他() |

3. 試験監督者の評価の質の維持について

| | |
|--------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①. 試験監督者が行う評価の質を維持するために、何か取組みを行っていますか。 | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| ②. ①で「はい」を選択された場合、どのような取組みを行っていますか。(※複数選択可) | <input type="checkbox"/> 定期的な会議や研修等の実施 <input type="checkbox"/> eラーニング等の自己学習のツールを用意 <input type="checkbox"/> 定期的に事務局スタッフが試験時に立ち会い、指導を実施 <input type="checkbox"/> その他() |
| ③. 実技試験では採点基準の他に、試験監督者ごとの評価のプレを生じさせないために、評価するうえでの留意点やさらに詳細な基準等を作成していますか。 | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| ④. ③で「はい」を選択された場合、その詳細な基準等は、試験監督者の意見を反映させ、定期的に更新していますか。 | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |

4. その他

| | |
|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①. 試験監督者の専用ホームページはありますか。 | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| ②. ①で「はい」を選択された場合、その専用ホームページにはどのような内容が含まれますか。(※複数選択可) | <input type="checkbox"/> 試験監督者の登録情報の確認 <input type="checkbox"/> 試験監督者の登録情報の変更手続 <input type="checkbox"/> これまでの自身の試験監督実績 <input type="checkbox"/> 試験監督者が試験日の業務が可能か等の日程調整を行う機能 <input type="checkbox"/> 試験監督者が担当する試験の情報(場所、受検者の人等) <input type="checkbox"/> 試験監督者が試験実施後に、報告を行える機能 <input type="checkbox"/> 試験実施機関からのお知らせ等連絡事項 <input type="checkbox"/> 試験実施機関への問い合わせ <input type="checkbox"/> 試験監督者同士が意見交換できる機能 <input type="checkbox"/> その他() |
| ③. 試験監督者同士の交流の機会を設けていますか。 | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| ④. ③で「はい」を選択された場合、具体的にどのような内容ですか。(※自由記述) | () |

アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

調査3：第1弾検証調査の依頼状

介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための 総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業 (実施及びアンケート) ご協力のお願い

2019年1月15日

一般社団法人 シルバーサービス振興会

平素より、介護技能実習評価試験の運営にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

弊会では、今年度厚生労働省より受託している事業「介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業」の一環で、試験評価者の資質向上のためのWEB支援ツールの開発に着手しておりますが、開発段階での検証を実施することとしております。

既にご承知の通り、介護技能実習評価試験は介護現場での技能実習生・技能実習指導員の負担を軽減するため、技能実習生が勤務している事業所・施設等（試験実施場所）に試験評価者が出張して試験を実施する「出張方式」を採用しています。つきましては、同一都道府県内で適正かつ円滑に試験が実施できるよう、全国に試験評価者を配置する必要があります。今年度は、全国7都市（札幌、仙台、東京、大阪、広島、松山、福岡）で試験評価者養成講習を実施し（※松山は2月に実施予定）、現在までに約450名の試験評価者を養成していますが、今後も全国で均一かつ継続的に試験評価者を養成していくための仕組みを検討しております。

また、試験は随時行われることから、試験評価者によって試験を経験する回数には差が生じます。試験の公平・公正な実施の観点から、試験評価者間に違いがでないよう、業務の流れや評価方法等を振り返ることができるフォローアップの仕組みも必要と考えております。

本検証では、集合講習と比較した際のWEB支援ツールの有効性、さらに試験評価者のフォローアップとしてのWEB支援ツールを検討するため、実施させていただくものです。そのため、試験評価者として既に登録している皆様を対象とし、ご協力に関して快諾いただいた方々にご協力をお願い申し上げます。

皆様におかれましては、大変ご多用の最中とは存じますが、検証の趣旨をご理解頂き、本検証調査にご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

- ※ 本検証は、平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業「介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業」の一環として実施するものです。
- ※ ご協力いただきました内容は本検証調査にのみ用いますが、結果は今後のWEB支援ツール制作の参考にさせていただきます。

WEB 支援ツールの開発に関する検証調査 実施概要

【ご協力対象】

介護技能実習評価試験の試験評価者

第1弾：20名 第2弾：100名

【実施期間】

第1弾：2019年1月15日（火）～2019年1月25日（金）

第2弾：2019年2月4日（月）～2019年2月22日（金）

【実施方法】

- ・別紙でご案内する「WEB ツール」にログインし、動画を視聴してください。
- ・期間内に、全ての動画視聴後、アンケートの回答をお願いいたします。
- ・電話でヒアリングさせていただく場合もございます。

【実施内容】

第1弾：初級実技試験 模擬評価、評価基準の考え方の確認

第2弾：・試験評価者養成講習のカリキュラム全体の確認（技能実習制度の理解、試験の仕組み、試験評価者の役割と業務、学科・実技試験の実施方法、初級 実技試験 模擬評価 等）
・模擬評価や例外事項への対応等、養成講習にはなかった部分の確認

【アンケートのご提出について】

WEB ツール内にあるアンケートフォームにご入力の上、送信してください。

【問い合わせ先】

WEB ツールに使い方について

ClipLine 株式会社 CS 部（10:00～18:00、土日祝休）

TEL 050-5578-9888 E-mail: help@clipline.jp

本検証調査に関して

一般社団法人シルバーサービス振興会 企画部（9:30～18:00、土日祝休）

TEL 03-6402-3865 E-mail: kaigointernship@espa.or.jp

(別紙)

第1弾検証の動画に関して

第1弾の検証では、実技試験（初級）の評価方法に関してより理解を深めていただくために、大きく分けて2種類の動画を確認していただきます。STEP1では「初級実技試験の模擬評価」、STEP2では「試験評価者によって評価結果に差異がでた評価基準の考え方」についてです。

皆様からのご意見は出来る限り第2弾の検証に反映し、今後のWEB支援ツール開発の参考にさせていただきます。

<動画の構成>

◆STEP1

- 01_STEP1 を始める前に
- 02_評価票の使用方法
- 03_座位での上衣の着脱の介助
- 04_車いすでの移動の介助
- 05_事故時の対応 ※判断等試験
- 06_車いすの点検
- 07_適切な手洗い

◆STEP2

- 01_STEP2 を始める前に
- 02_評価基準 1-1（評価基準：介助の中で行われる動作について、都度利用者に伝えている。）
- 03_評価基準 1-2（評価基準：介助の中で行われる動作について、都度利用者に伝えている。）
- 04_評価基準 1-3（評価基準：介助の中で行われる動作について、都度利用者に伝えている。）
- 05_評価基準 2-1（評価基準：介助中、利用者に体調の変化と痛みの有無を確認し、変化や痛みがあった場合には技能実習指導員に報告している。）
- 06_評価基準 2-2（評価基準：介助中、利用者に体調の変化と痛みの有無を確認し、変化や痛みがあった場合には技能実習指導員に報告している。）
- 07_判断に迷った時の対応方法

<準備いただくもの>

- ・STEP1 → 「業務実施マニュアル（別冊）」の評価票をコピーして使用してください。
※原紙に直接書き込まないように注意してください。
- ・STEP2 → 特になし

調査3：第2弾検証調査の依頼状

介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための 総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業 (実施及びアンケート) ご協力をお願い

2019年1月15日

一般社団法人 シルバーサービス振興会

平素より、介護技能実習評価試験の運営にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

弊会では、今年度厚生労働省より受託している事業「介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業」の一環で、試験評価者の資質向上のためのWEB支援ツールの開発に着手しておりますが、開発段階での検証を実施することとしています。

既にご承知の通り、介護技能実習評価試験は介護現場での技能実習生・技能実習指導員の負担を軽減するため、技能実習生が勤務している事業所・施設等（試験実施場所）に試験評価者が出張して試験を実施する「出張方式」を採用しています。つきましては、同一都道府県内で適正かつ円滑に試験が実施できるよう、全国に試験評価者を配置する必要があります。今年度は、全国7都市（札幌、仙台、東京、大阪、広島、松山、福岡）で試験評価者養成講習を実施し（※松山は2月に実施予定）、現在までに約450名の試験評価者を養成していますが、今後も全国で均一かつ継続的に試験評価者を養成していくための仕組みを検討しております。

また、試験は随時行われることから、試験評価者によって試験を経験する回数には差が生じます。試験の公平・公正な実施の観点から、試験評価者間に違いがでないよう、業務の流れや評価方法等を振り返ることができるフォローアップの仕組みも必要と考えております。

本検証では、集合講習と比較した際のWEB支援ツールの有効性、さらに試験評価者のフォローアップとしてのWEB支援ツールを検討するため、実施させていただくものです。そのため、試験評価者として既に登録している皆様を対象とし、ご協力に関して快諾いただいた方々にご協力をお願い申し上げます。

皆様におかれましては、大変ご多用の最中とは存じますが、検証の趣旨をご理解頂き、本検証調査にご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

- ※ 本検証は、平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業「介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業」の一環として実施するものです。
- ※ ご協力いただきました内容は本検証調査にのみ用いますが、結果は今後のWEB支援ツール制作の参考にさせていただきます。

WEB 支援ツールの開発に関する検証調査 実施概要

【ご協力対象】

介護技能実習評価試験の試験評価者 100 名

【実施期間】

2019 年 2 月 4 日（月）～2019 年 2 月 22 日（金）

【実施方法】

- ・別紙でご案内する「WEB ツール」にログインし、動画を視聴してください。
- ・期間内に、全ての動画視聴後、アンケートの回答をお願いいたします。
- ・電話でヒアリングさせていただく場合もございます。

【実施内容】

- ・試験評価者養成講習のカリキュラム全体の確認（技能実習制度の理解、試験の仕組み、試験評価者の役割と業務、学科・実技試験の実施方法、初級 実技試験 模擬評価 等）
- ・模擬評価や例外事項への対応等、養成講習にはなかった部分の確認

【アンケートのご提出について】

WEB ツール内にあるアンケートフォームにご入力の上、送信してください。

【問い合わせ先】

WEB ツールに使い方について

ClipLine 株式会社 CS 部（10:00～18:00、土日祝休）

TEL 050-5578-9888 E-mail : help@clipline.jp

本検証調査に関して

一般社団法人シルバーサービス振興会 企画部（9:30～18:00、土日祝休）

TEL 03-6402-3865 E-mail : kaigointernship@espa.or.jp

調査3：第2弾検証調査の説明資料

厚生労働省 平成30年度社会福祉推進事業

介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業

「試験評価者の資質向上のためのWEB支援ツールの開発に関する検証」

検証目的

本検証では、今年度、試験評価者として登録された皆様を対象に、標記事業で検討しているWEB支援ツールを利用していただき、「試験評価者養成講習（以下、集合講習）と比較した際の有効性の検証」、「フォローアップとしてのWEB支援ツールの検討」を行うことを目的としております。

そのため、本WEB支援ツール（以下、本WEBツール）は、試験評価者養成講習のカリキュラムをもとにより理解が深められるよう、順番通りに学習していただくことや、各カリキュラム細分化し自由な時間に自分のペースで復習しながら受講できるようにしております。

学習終了後には、アンケートに回答いただきます。今後の試験評価者の養成のあり方、またフォローアップのあり方を検討させていただくために、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

検証時期

2019年2月4日（月）～2月22日（金）

※全てを連続して学習した場合約3時間かかります。カテゴリごとの学習も可能ですので、ご自身のご都合の良い時間やペースにあわせて時間を区切って学習できます。（次頁参照）

検証の進め方

・「試験評価者の資質向上のためWEB支援ツール（仮）」にログインします。

→ID、パスワードは「WEBツール操作のご案内」を確認。

・順番に学習いただくことで理解が深まる構成としているため、最初のカテゴリ（A→H、さらに各々1→）から視聴します。

・また、全ての動画を視聴してください。

・学習の途中【「G」初級 実技試験 模擬評価】「STEP2」では、お手元にある「業務実施マニュアル（別冊）」を準備し、動画の指示通り、評価票をコピーしてください。

・動画を見ながら評価票に記入し、「STEP2」の最後に、2つの模擬評価の評価結果をアンケートフォームから提出します。

・全ての動画を視聴後、アンケートフォームからアンケートに回答します。

構成

- ・本 WEB ツールは、8の大項目（カテゴリ）と19の中項目（サブカテゴリ）から構成されています。中項目の中には、さらに小項目として複数の動画（クリップ）が用意されています。
- ・動画は全部で72（内5つはPDF資料）あります。
- ・1つの動画は1～5分程度です。
- ・動画の中には、資料がPDFとして掲載されているだけのものもあります。
- ・アンケートフォームからの回答は、「【G】初級 実技試験 模擬評価」と最後の計2回あります。

<WEB 支援ツールの構成> ※小項目（クリップ）については、別紙を参照ください。

| カテゴリ | サブカテゴリ | 動画数 | 学習時間 (目安) |
|--------------------|-------------------------|------|--------------|
| 【A】はじめに | はじめに | — | — |
| 【B】外国人技能実習制度の理解 | 我が国と世界の高齢化の状況 | 3 | 10分 |
| | 外国人技能実習制度の目的と概要 | 4 | 10分 |
| | 外国人技能実習制度に介護職種が追加になった背景 | 4 | 10分 |
| | 介護職種における固有要件 | 4 | 10分 |
| 【C】介護技能実習評価試験の仕組み | 介護技能実習評価試験の仕組み | 3 | 10分 |
| | 学科試験 | 3 | 10分 |
| | 実技試験 | 4 | 10分 |
| 【D】試験評価者の役割と業務 | 試験評価者に求められる役割と倫理観 | 3 | 10分 |
| | 試験前の業務について（調整窓口担当者） | 3 | 10分 |
| | 試験当日の業務について（試験評価者） | 9 | 15分 |
| 【E】学科試験の実施方法 | 学科試験の実施方法 | 3 | 10分 |
| 【F】実技試験の実施方法 | 実技試験の実施方法 | 4 | 10分 |
| | 評価の方法 | 4 | 10分 |
| | 例外事項への対処方法 | 5 | 5分 |
| 【G】初級 実技試験 模擬評価 | STEP 1 | 7 | 15分 |
| | STEP 2（模擬評価） | 6 | 20分 |
| | アンケート ※評価票の提出 | — | |
| 【H】試験実施機関と試験評価者の関係 | 試験評価者の登録と任命 | 3 | 10分 |
| アンケート | アンケート | — | 5分 |
| | | 計 67 | 約 3 時間 |

※矢印の順番で進めてください。

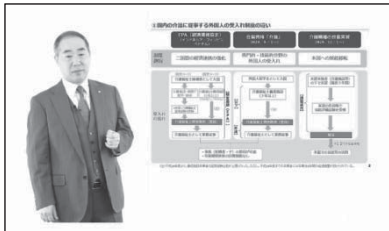


動画の種類

- ・本 WEB ツールでは、学習の理解を深めるために動画を複数のパターンで制作しています。

講師映像

講師が登場し、資料を解説する
動画



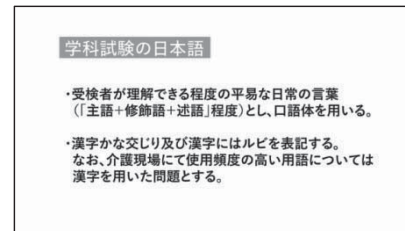
再現映像

試験評価者の動き等を再現した
動画



資料映像

資料をテロップやナレーションで説
明する動画



アンケート内容

- ・本 WEB ツールでは、学習の最後に下記の内容についてアンケートに回答していただきます。
- ・アンケートは、必ず全ての動画を視聴し、学習を終えてから回答してください。

<主なアンケート内容>

- ◇ WEB ツールの学習期間について
- ◇ 集合講習と比較した際の内容の理解度について
- ◇ 映像の見やすさ、わかりやすさについて
- ◇ 反復学習として活用が可能かについて
- ◇ 集合講習、WEB 講習それぞれの良さについて
- ◇ 操作案内、説明資料のわかりやすさについて

問い合わせ先

- ・検証や動画の内容に関するお問い合わせ
一般社団法人シルバーサービス振興会 企画部 (9:30~18:00 ※土日祝日除く)
TEL : 03-6402-3865 MAIL : kaigointernship@espa.or.jp
- ・WEB の操作方法、アンケートへの回答方法等に関するお問い合わせ
ClipLine (クリップライン) 株式会社 CS 部 (10:00~18:00 ※土日祝日除く)
TEL : 050-5578-9888 MAIL : help@clipline.jp

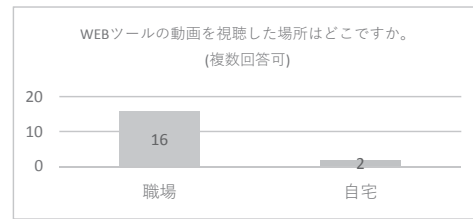
※お問い合わせの際には、「介護技能実習評価試験 試験評価者の〇〇(氏名)です」とお伝えください。

調査3：第1弾検証調査アンケート結果

【1】動画視聴環境についてお聞きします。

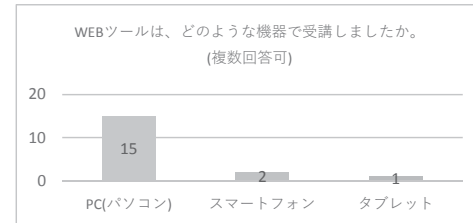
①WEBツールの動画を視聴した場所はどこですか。(複数回答可)

| 項目 | 個数 |
|----|----|
| 職場 | 16 |
| 自宅 | 2 |
| 総計 | 18 |



②WEBツールは、どのような機器で受講しましたか。(複数回答可)

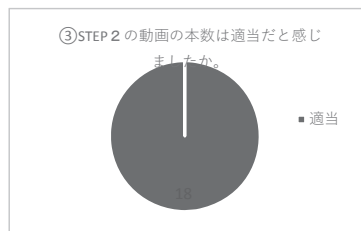
| 項目 | 個数 |
|----------|----|
| PC(パソコン) | 15 |
| スマートフォン | 2 |
| タブレット | 1 |
| 総計 | 18 |



【2】WEBツールの内容についてお聞きします。

①STEP1の動画の本数は適当だと感じましたか。

| 項目 | 個数 |
|-----|----|
| 適当 | 17 |
| 少ない | 1 |
| 総計 | 18 |



②①で「少ない」と答えた方は、他にどのような動画があるとよいと感じましたか。

・食事の介助

③STEP2の動画の本数は適当だと感じましたか。

| 項目 | 個数 |
|----|----|
| 適当 | 18 |
| 総計 | 18 |

④③で「少ない」と答えた方は、他にどのような動画があるとよいと感じましたか。

無回答

⑤STEP1の動画で分かりにくい内容がありましたか。

評価票の使用方法

リスク管理(事故時の対応)

STEP1をはじめる前に、車いすでの移動の介助

介助をする際、声掛けするたびに直接利用者に触れているのが気になった。信頼関係が築けていればその接触であって、むやみやたらに接触するのはどうかと思う。また、衣類の着脱の際のスクリーンを開める前の利用者の同意や、着脱の際の「都度」の声掛けができていないと思う。ここは評価としてはXを付けさせてもらいました。

⑥STEP2の動画で分かりにくい内容がありましたか。

例：座位での上衣の着脱の介助2

STEP2をはじめる前に

評価がxの場合、正解の動画があるとわかりやすいと感じた

STEP1と同様に、利用者の体調や痛みの有無について、声掛けするタイミングが技能実習指導員の采配による点が大きくなってくのではないかなと思う。

⑦今回の動画を視聴して、試験評価者養成講習時と比較して、試験実施への不安は解消されましたか。

試験評価者が試験実施場所へ行き、どのような動きをするのか、試験キットはどのタイミングで受け取り、中には実際に何が入っているのかなど、映像で見れるとよいろいろなパターンの事例を体験したいと思います。

一度視聴しただけでは解消されたとは言えないが、繰り返し見ることで軽減されると思われる

慣れも必要かと思われるため、何度か見直しを行いたい。

大きな法人さんへ出向いての評価は気がひける。もし自分が技能指導員としての立場で、落第させられたら・・・と思うと、評価が公平に行えなくなってしまうように思える。いくら「基準」はあっても、評価者の目線で評価すると、今回の動画では、落第点を押さざるを得ないような気がする。

【3】WEBツールの操作についてお聞きします。

①WEBツール操作案内(メールでご案内した資料)でわかりづらい点がありますか。

できるだけできないかで判断するさいの詳細な「基準」をはっきりしてほしい。

操作案内の図と実際のWEB表記にズレがあり、わかりづらかった。

三本線から再生しないと完了しないというのがわかりにくいです。真ん中の再生ボタンが振り返り学習用であることを、もっとわかりやすく表記できないものでしょうか。

ログインのアドレスが間違っていて時間がかかった。

とても分かりやすかったです

わかりやすく説明していただいていたので、スムーズにできました。

②実際にWEBツールを使ってみて困ったことはありませんでしたか。

step1を始める前に、の動画で「評価表にはハイライト箇所を記入します。」とありましたが、どこを指しているのかわかりませんでした。

このアンケート画面にたどり着くに、少し迷った

当初は、スマートフォンで視聴しましたが、映像の細かな点、音声の明瞭さにおいてパソコンがベストでした。

新着の案内が(現時点では)不要かなと思いました。内容ではないのですが04車いすでの以上介助の音声为重複(反響?)しているようで、聞き取りづらいつ感じました。アンケート⑥の例の中で2箇所、乗乗(以上)の変換ミスがあります。

資料とPC画面が違う事があったので操作に不安だった

最後まで、親た動画が観ていないと処理され、2度観ることになった。

利用者は片麻痺な割に自分で腕を曲げたり伸ばしたり、実際に要する時間より短時間で介助できておりますが、実際の現場では、決められた時間内で成否をつけているものかどうか、良心の呵責に苛まれるような気がする

調査3：第2弾検証調査アンケート結果

【1】WEBツールの利用環境についてお聞きします。

| ①本WEBツールの動画を視聴した場所はどこですか(複数回答可) | |
|---------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 職場 | 51 |
| 自宅 | 29 |
| 移動中 | 5 |
| 喫茶店 | 1 |
| 総計 | 86 |

| ②本WEBツールは、どの機器で視聴しましたか(複数回答可) | |
|-------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| PC(パソコン) | 65 |
| スマートフォン | 12 |
| タブレット | 4 |
| 総計 | 81 |

| ③本WEBツールの動画で学習した期間を教えてください(繰り返し視聴した場合も含) | |
|------------------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 1日間 | 12 |
| 2～3日間 | 28 |
| 4～5日間 | 11 |
| 約1週間 | 6 |
| 約2週間 | 9 |
| 約3週間 | 4 |
| 総計 | 70 |

【2】WEBツールの内容についてお聞きします

| ①-1「[B]外国人技能実習制度の理解」について内容は理解できましたか | |
|-------------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 十分理解できた | 29 |
| だいたい理解できた | 41 |
| 総計 | 70 |

| ①-2「[C]介護技能実習評価試験の仕組み」について内容は理解できましたか | |
|---------------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 十分理解できた | 24 |
| だいたい理解できた | 46 |
| 総計 | 70 |

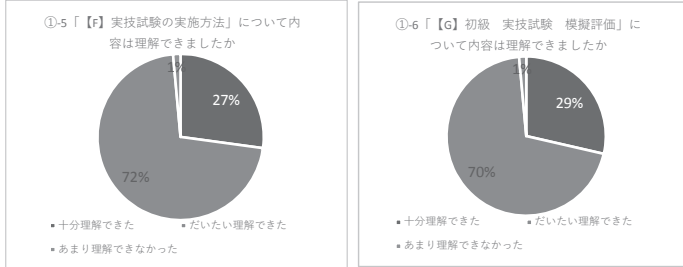
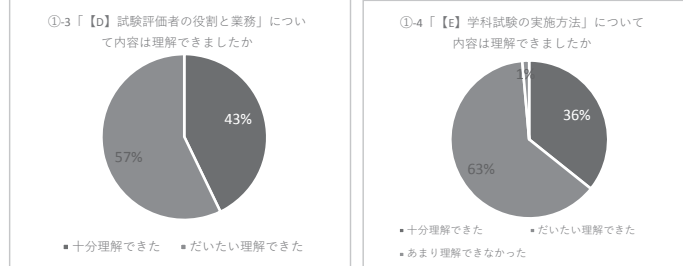
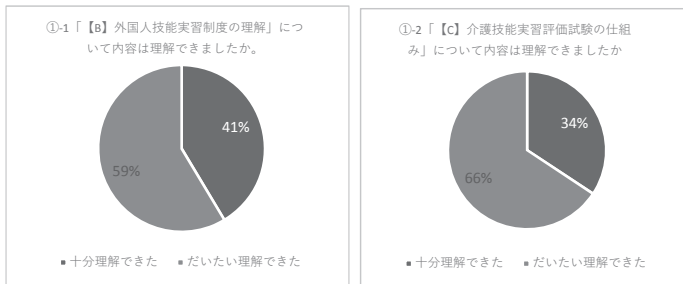
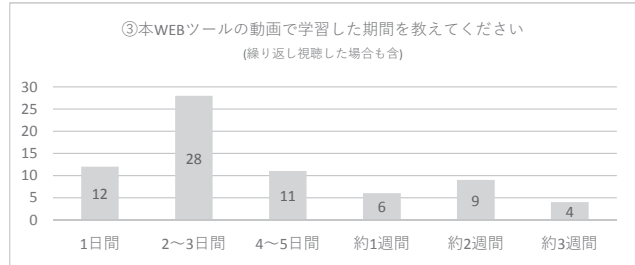
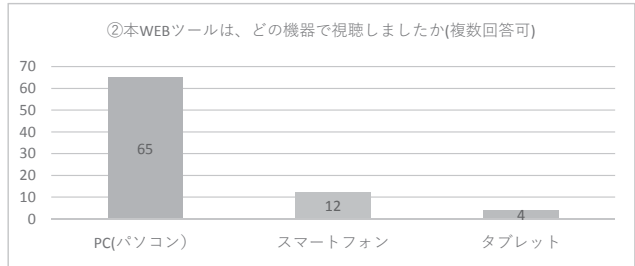
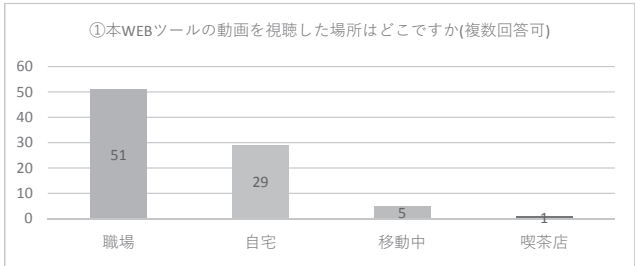
| ①-3「[D]試験評価者の役割と業務」について内容は理解できましたか | |
|------------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 十分理解できた | 30 |
| だいたい理解できた | 40 |
| 総計 | 70 |

| ①-4「[E]学科試験の実施方法」について内容は理解できましたか | |
|----------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 十分理解できた | 25 |
| だいたい理解できた | 44 |
| あまり理解できなかった | 1 |
| 総計 | 70 |

| ①-5「[F]実技試験の実施方法」について内容は理解できましたか | |
|----------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 十分理解できた | 19 |
| だいたい理解できた | 50 |
| あまり理解できなかった | 1 |
| 総計 | 70 |

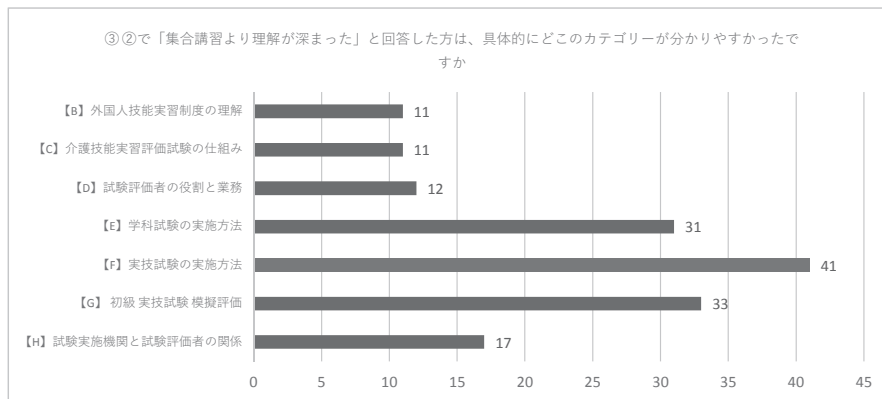
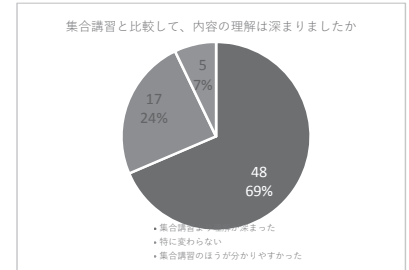
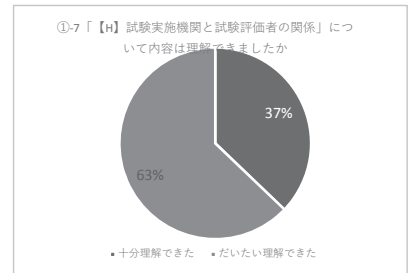
| ①-6「[G]初級 実技試験 模擬評価」について内容は理解できましたか | |
|-------------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 十分理解できた | 20 |
| だいたい理解できた | 49 |
| あまり理解できなかった | 1 |
| 総計 | 70 |

| ①-7「[H]試験実施機関と試験評価者の関係」について内容は理解できましたか | |
|----------------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 十分理解できた | 26 |
| だいたい理解できた | 44 |
| 総計 | 70 |



| ②集合講習と比較して、内容の理解は深まりましたか | |
|--------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| 集合講習より理解が深まった | 48 |
| 特に変わらない | 17 |
| 集合講習のほうが分かりやすかった | 5 |
| 総計 | 70 |

| ③②で「集合講習より理解が深まった」と回答した方は、具体的にどのこのカテゴリーが分かりやすかったですか。その理由も教えてください。(※理由は「その他」にご記載ください。) | |
|---------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 項目 | 個数 |
| [H]試験実施機関と試験評価者の関係 | 17 |
| [G]初級実技試験 模擬評価 | 33 |
| [F]実技試験の実施方法 | 41 |
| [E]学科試験の実施方法 | 31 |
| [D]試験評価者の役割と業務 | 12 |
| [C]介護技能実習評価試験の仕組み | 11 |
| [B]外国人技能実習制度の理解 | 11 |
| 総計 | 156 |



具体的に動画を視聴する事により、試験時の様子や受験者の対応イメージを持つことが出来ました。また、利用者役のADLによる違い等、より平等性を保つ事の重要性を感じました。

試験評価者は実際にどのような役割を担うのかが、具体的に理解できた。

集中講義で漠然としていたものが、繰り返し視聴することで実際のイメージに繋がったと思います。

できる、できないの理由がはっきりした。また、キャリア段位制度のレベル認定をそのまま活用すればよいことが認識できたから。

自分のペースで視聴することができた。繰り返し戻って見直すことも可能なため。

評価表を用いて実際に評価することができ、具体的にイメージすることができた。

全ての項目において曖昧な記憶であったが、復習することで理解を深めることが出来た。

反復により理解が深まった。

自分のペースで理解できるまで、何回も見れるので良かった。

落ち着いて集中して自分のペースで学べるから。

動画が会場より見やすかった

ビデオがわかりやすかった

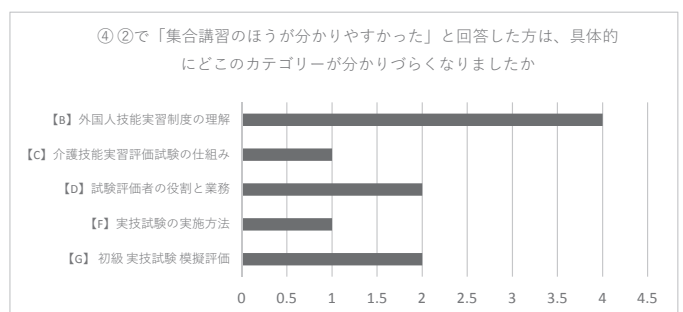
質疑応答ができたから

具体的な試験のイメージが理解できた。

動画で何度も振り返ることができ、実施方法の十分なマスターに繋がった。

集合講習も必要と思うが、理解を深めたいところを複数回見れる事が出来た

| ④②で「集合講習のほうが分かりやすかった」と回答した方は、具体的にどのこのカテゴリーが分かりづらくなりましたか。その理由も教えてください。(※理由は「その他」にご記載ください。) | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| [G]初級実技試験 模擬評価 | 2 |
| [F]実技試験の実施方法 | 1 |
| [D]試験評価者の役割と業務 | 2 |
| [C]介護技能実習評価試験の仕組み | 1 |
| [B]外国人技能実習制度の理解 | 4 |
| 総計 | 10 |



画像が不鮮明で分かりづらいスライドがある。テキストの併用が必要

グラフ等の資料画像が鮮明ではなく見にくい。音声も少し単調に感じた。刺激が少ないため内容が頭に入りにくい感じがする。テロップが流れてくる際、文字が流れてくる場面が多かったが、目が疲れた。

動画(資料)が見にくい。全体的に1コマ数分で負担は少ないと思いますが、内容が中途半端で終わるので、逆に分かりづらかったです。

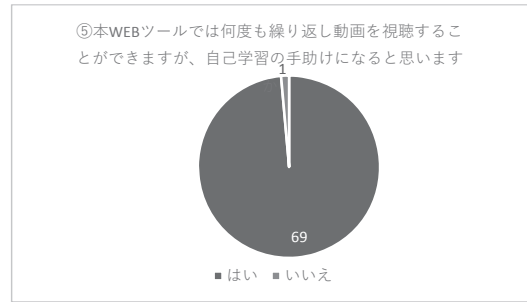
すぐに質問できること。また、講師は映像では不要、かつ今回の場合は女性ナレーターの方が聞き取りやすい。画面いっぱいボードを見せてほしい。

しっかり着座し、テキストで読むのも大切に感じました。

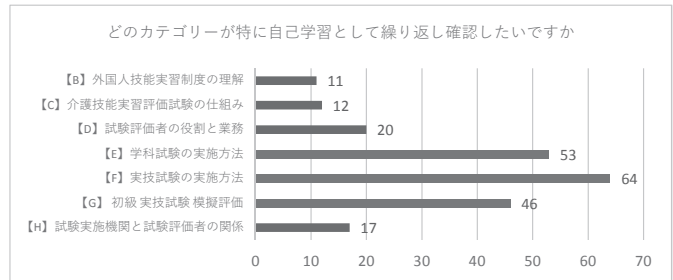
自身の評価が正しいのかどうか分からないから

映像がふんだんに活用され、イメージがしやすかった

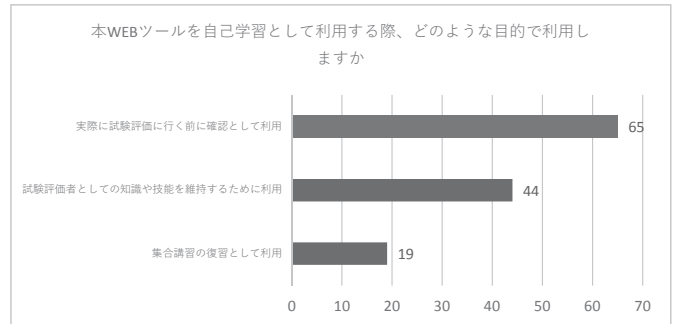
| ⑤本WEBツールでは何度も繰り返し動画を視聴することができますが、自己学習の手助けになると感じますか | |
|----------------------------------------------------|-----------|
| 項目 | 個数 |
| はい | 69 |
| いいえ | 1 |
| 総計 | 70 |



| ⑥⑤で「はい」と回答した方は、どのカテゴリーが特に自己学習として繰り返し確認したいですか | |
|----------------------------------------------|------------|
| 項目 | 個数 |
| [H]試験実施機関と試験評価者の関係 | 17 |
| [G]初級実技試験模擬評価 | 46 |
| [F]実技試験の実施方法 | 64 |
| [E]学科試験の実施方法 | 53 |
| [D]試験評価者の役割と業務 | 20 |
| [C]介護技能実習評価試験の仕組み | 12 |
| [B]外国人技能実習制度の理解 | 11 |
| 総計 | 223 |



| ⑦⑤で「はい」と回答した方は、本WEBツールを自己学習として利用する際、どのような目的で利用しますか | |
|----------------------------------------------------|------------|
| 項目 | 個数 |
| 集合講習の復習として利用 | 19 |
| 試験評価者としての知識や技能を維持するために利用 | 44 |
| 実際に試験評価に行く前に確認として利用 | 65 |
| 総計 | 128 |



⑧⑤で「いいえ」と回答した方は、理由を教えてください。
 いただいている資料で確認できます。WEBツールは、確認したいところのみ見られるようにしていただけるなら便利です。

| |
|---------------------------------------------------------------------------|
| ⑨集合講習と本WEBツール両方を経験してみて、集合講習のほうが優れていると思う点があれば教えてください |
| 1日で終わるため、負担は結果的には少なく、忘れにくい。 |
| このために時間を確保した事により講習場所で受講出来たことにより集中して学習できたから。 |
| その場、時間、空間の限りがあるからその意識が集中しやすく、他社の介入が生にあることでモチベーションが高まる。 |
| 試験評価者としての意識が強く持てる、意見交換ができる |
| 時間を費やし、個人学習（WEBツール）では理解を深めることが困難なことが多いと思う。やはり、講習を受けることで、意識的变化が伴うことが多いと思う。 |
| 実際の緊張感や練習問題などがありよかった |
| 受講者全員で学習するので集中ができるように感じました。 |
| 集合講習の方が緊張感を保つことができる |
| 集合講習の方が理解しやすい聞きやすい文字も見やすい |
| 定められた時間のなかでしっかり学習するので集中して覚えることができる。 |
| 適度な緊張感があり、集中して講習に臨むことができる。リアルタイムに疑問を解決することができる。 |
| その場でわからない所が直ぐに聞ける |
| その場で質問できる |
| その場で質問できる 他受講生と情報の確認ができる |
| 研修場所に行って直接話を聞けるのですぐに質問が可能。緊張感も持てる。 |
| 質問ができる |
| 質問が出来る |
| 質問が直ぐに返ってくる。モチベーションが上がる |
| 質問にすぐに応えてもらえること。初めは疑問点だけだと思うので。 |
| 実際に聞いて理解できるとし、質問もでき簡単に解決できると思う。 |
| 分かりにくいところはその場で質問するなどできる |
| シルバーサービス振興会の方の直接的な話は、評価者の熱意というか思いが通じると思う。 |
| 講師にプレゼン力があるので、わかりやすい。 |
| 試験評価者の仕組みや役割などの理解は講師からの直接の講義の方が印象に残る。試験評価者としての意識づけを行う点では優れていると感じる。 |
| 試験評価者同士の意見交換 |
| 席の周りの方と話ができ |
| 他事業所との競争心がめばえるところ。又技能実習生にみんなで取り組んでいくんだという連帯感。 |
| 他評価者との交流や実施内容の確認ができる点 |
| いただいた資料を自分の見たいところを何度も見ることができるところ |
| 集合講習とともに、フォローアップとして必要に思います。 |

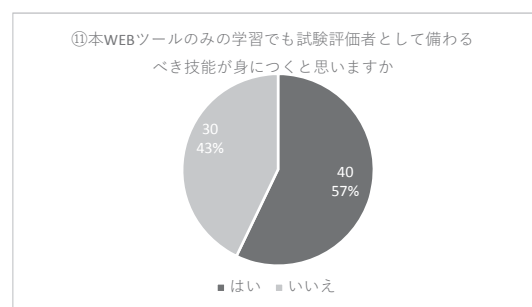
⑩集合講習と本WEBツール両方を経験してみても、本WEBツールのほうが優れていると思う点があれば教えてください

・ 反復により理解が深まること ・ 場所と時間を選ばないこと。
いつでもどこでも繰り返し勉強できる、隙間時間を活用できる。

何度も繰り返し確認できるところがよい
何度も繰り返し見れる
何度も繰り返し必要な場面、項目が学習できること
何度も動画などを見て知りたいことを確認できる。
確認で何度も見返すことができた。
苦手な部分を繰り返し確認できるところ
苦手な部分を繰り返し見ることが出来、不安な部分も書くんが出来る。
繰り返し、あるいは、疑問に思った時の確認等の振り返りにはとてもいいです
繰り返し何度も学習ができ自身としてはよかった。
繰り返し確認したいところが学習できる
繰り返し学習することができる
繰り返し学習できること 模擬試験が学習できること
繰り返し見る事が出来る
繰り返し見れる。
繰り返し見れるところはよいと思う。試験の流れなどは実際派遣が決まってから復習したい。
繰り返し視聴でき、確認できる点（特に実施試験関連の動画は、×評価の例を含め確認したい）
細かい点を再確認するのによい、実際のやり方を確認できる。
実技試験の具体的な内容や、試験者としての対応を繰り返し確認することが出来る点では優れていると感じる。一度の講習では時間の経過とともに記憶が薄れてしまうがツールがあれば試験直前の確認に大変役立つと思う。
受講者のペースで業務にあわせて学習できる。繰り返し学習できる。集合するための時間、旅費等の負担がおさえられる
集合講習で聞いたはずで忘れていたことを繰り返し確認できる...
十分な理解に至っていない箇所の復習がいつでも自己学習ができる。
復習ができ、忘れた所や確認したいと思った事等、何度も繰り返し確認できる事。
復習が可能なこと。
復習のツールとして。
分からないところは、繰り返しして学習できる。
理解が不十分な点を何度も聞ける。
いつでも確認ができる
いつでも視聴できる。
たいへん申し訳ないが、滑舌や声が聞き取りにくいかつボードも小さく見づらい男性講師のカテゴリーや項目は女性ナレーターに変えてボードを大きくしてください。であれば、全
てにおいて、確認しやすい。疑問点は、電話やメールでも可。
移動時間や休憩時間等を使っている場所で見たいものが観れる
時間の都合が付きやすい
自身のペースで、やりたいとき見たいときにできること。
自宅でできるのは、やはりよいところですし、何度も見ることが出来ることは良い。
自分のペースでくり返し学習できる
自分の好きな時間に所定の項目を繰り返しかえし視聴でき、理解が深まる。
自分の都合で確認できる
場所と時間にとらわれないこと
理解が不足している部分について、自分のペースで繰り返し学習できること。
実際のセリフや、評価している場面は参考になる。
動画が多く、イメージが付きやすい。
評価方法を動画で確認できた
文章だけでは読み取れない動作を学ぶ事ができ、指導員や試験環境等、一定の条件を明確に指示が可能になると感じました。
どの地域に居ても共通した内容で受講できる
共通の動画を視聴することで、手順の確認などが統一でき、また評価者の技量のばらつきを少なくすることができる。
詳細・丁寧な内容 PCで見ましたが、文字の画面になると画面が荒く解析度が落ちていたと思いました

⑪集合講習と本WEBツール両方を経験してみても、本WEBツールのみの学習でも試験評価者として備わるべき技能が身につくと思いますか

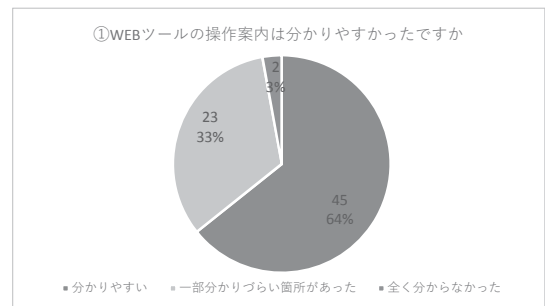
| 項目 | 個数 |
|-----------|-----------|
| はい | 40 |
| いいえ | 30 |
| 総計 | 70 |



| |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ⑫ ⑪で「いいえ」と回答した方は、理由を教えてください |
| 「はい」に近い「いいえ」です。WEBツールのみで何度も見直しすれば十分技能は身につくと思いますが、集合講習でベースとなる部分があつてのWEBのほうが格段に理解度が違います。やはり、集合研修→WEBという流れの学習が良いのではと思います。 |
| その場で質問できる集合講習も大切 集合研修ののちWEBでの自己学習でより深まる |
| まずは、集団講習会で全体の概要をつかみ、その後の学習としてはよいとおもう。 |
| 一度は集合させるべきと考える。自宅学習はその本人の社会性によって信用性が薄いと思う。 |
| 集合講習で学習し、ある程度理解をしたうえで更にWEBツールにおいて学習を深める必要性を感じたため。 |
| 集中講習で学んだものを、再度動画で確認することで更なる理解に繋がると思います。試験実施までに期間があくので、復習にもなり、きちんと責任が果たせると思います。 |
| 予習あるいは復習としては有効に使えると思うが、例えば役割や倫理観といった項目については講習での資質確認とか必要な気がする。 |
| 意識を高めるために、集合講習も年に1-2回は必要かと思ひます |
| 具体的な技術や対応に関してはツールにより理解を深めることが出来ると思う。しかしながら試験の仕組みや試験評価者の役割について知識の基盤がなければ試験評価者としての責務を果たすことは難しいのではないかと感じる。その理解はツールを視聴するだけでは、十分とは言えないのではないかと。視聴後に理解度ミニテストなどがあつてもよいと思う。この制度を安定して実施していくためには、試験評価者としての適正を見極めることも今後は必要になってくるかと思う。その判断には、実際集合講習に参加をすることも重要なポイントになるのでは？つまり定められた時間、場所に向かうことが出来るかどうか。この判断はWEBツールのみでは出来ないのではないかと。今後の講習ではロールプレイなども取り入れられればより実践に結びついた学習が出来るのではないかと。 |
| 言葉は適切でないかもしれないが、単にWEBツールだけ聞いていれば評価者に「なれてしまう」ような気がする。実際にお金を払い、その時間をかけてでも評価者になりたいと思う熱意が重要だと、このアンケートの問いを読みながら感じた。 |
| 試験評価者の学習意欲や努力によって技能が身につく |
| 集合講習という対面式の講義を受けることで意識の向上が期待できるため |
| 集合講習に参加することによって、試験官としての自覚や他者の姿勢を見る事により、意識向上や品位の維持ができる。また試験官になる為の資格があるだけで試験官になれるのではなく、素質を含め課されている適正を判断すべきと考えます。その理由は、日本での介護分野の外国人技能実習制度における送り出し国による評価を受け、今後の受け入れ国として他国に選定され続けられるかの大きなポイントになる取り組みだと、試験官の人数確保も最重要課題ですが、素質を考慮しなければならないと感じます。 |
| 責任が伴い、とても重要な役割であると考え。それなりの心構えが出来るような取り組みが必要だと考える。将来的に試験評価者の増員を考え、拡大を視野に入れているのであれば、それ相当の時間と労力は掛けるべきだと考える。 |
| 直接の説明の方が、伝わり方が違うと思うので...(古い考え方ですかね) |
| 倫理意識を強く持たねばならないと思うので、集合研修という公の場で自分の姿をさらすことが必要だし、同じ業務に就く集団の中に短時間であれ身を置くことも必要。 |
| ツール学習を終えた後、集合で演習等の再学習の場があると自信につながる。 |
| 概要はわかるが、具体的な行動レベルまで到達することを目標とするならば、評価体験を全項目でやる。また、想定され範囲内の中止となる場面や、止めなければならない場面、がわからない。一連の流れもみれないと、限られた時間内で業務遂行できるか不安が強い。 |
| 実際に現場の動きを見学し、補助としてつき自身を持ってから動きたい |
| ある程度集中して時間を確保して学習した方が覚えやすく効率も良いと思う。WEBだと短時間で好きな場所は学習できるが前後抜けがちになるし間違つた判断につながりやすいかと思う |
| 理解度に差がでると思われる(集中しきれない) |
| 講師の方の説明のほうが、細かい所まで説明があり、質疑応答もしてもらっていたから |
| 分からない内容を直接その場で確認することができるため |
| 視聴者がしっかりと理解できる(ちゃんと再生してきているか)かは不明なため |
| 受ける人次第になってしまう部分はあります。 |
| 他のWEBツール同様、実際は視聴しない人が出てくる |
| WEBの教材では、文字化けしていたので画面上ではわかりずらかった。 |
| 私は集合講習の方がわかりやすかったです。 |
| 実際に技能実習制度などや他事業間の話し合いができてよかった。 |
| 集合講習では、もっと詳しい説明があった。 |
| 様々な実習生がいるため、試験実施者のスキル構築が必要 |
| ⑬ 小項目(各動画)を作成するにあたり、内容によって映像の種類を変えていますが、視聴いただいた映像について「〇〇は再現映像で確認したい」等、ご意見があれば教えてください。 |
| 「講師映像」のバックの資料をもっとクリアにしてほしい。「資料映像」の音声は、聞きやすかった。 |
| 「講師映像」の資料やテロップを大きくしてほしい |
| 「講師映像」講師が登場し、資料を解説する動画については資料の字が見えなかったです。パソコンの画素数にもよるものでしょうか。 |
| ・講師説明時に映像の文字がにじんで読めないテロップまたは、スーパーなど 活用して読みやすくしてほしい。・講師、ナレーション同じ人がいいのでは |
| 映像中の資料が、ものによっては解像度が低く文字がぼやけて読みづらい。 |
| 講師映像での説明テロップが見えなかった |
| 講師映像の資料が小さく、映像がはっきりしないので分かりにくい。 |
| 講師映像の文章の文字がはっきり読めず、分かりずらかった。 |
| 資料映像で、テロップ文字が横から流れて来る場面が多かった。流れてくる文字を追うのは、正直つらい。目が疲れるし文字を追うことに気がとられ内容が入ってこないと感じる。 |
| 講師映像は文字だけの画面よりインパクトはあるものの、動きが少なく単調に思えた。 |
| 資料映像は文字が読みにくいので分割して読みやすくするなどの工夫が必要 |
| 出来ましたらどの画像も、音量・音質を一定にして欲しいです。画像を変える度、音量を変えるのは煩わしいです。また「講師画像」の際の音声が小さく、響き感じがしてうまく聞こえにくい。他の画像のナレーションの声のように明瞭であると、聞きやすいです。 |
| 評価の動画で動作が見づらいところがあった |
| 再現映像でもう少し違う角度からみたい。 |
| 試験の場面は、各問題ごとに再現映像があり、もう少しこの部分にポイントを当ててほしい、というようなナレーションとか、場面を止めて丸を付けるなどの工夫があるとよい |
| 試験評価時の動画は事例を増やし、Q&Aのように疑問部分が選択できると嘉わりやすくなるのではないかと |
| 試験評価者の動きを再現した動画 |
| 実技試験項目は全て動画で再現。トラブルシューティングも動画で再現。筆記試験も、ダメな状態や状況を再現してほしい |
| 技能実習指導者の指導マニュアルなどが欲しい。細かい個所まで確認ができてよかったが、実際に現場で詳細に指導を行っているかが不明である。 |
| 講師映像は資料映像で確認したいです。再現映像はわかりやすかったです。 |
| 講師映像は、講師の姿は不要。 |
| 講師映像は、資料映像に変更し、資料を大きく表示したほうがわかりやすい。 |

再現現場が専門学校で行ったのかと思います。最初の画面に学校名がありました。混乱するので隠したほうがいいのではないですか。
 再現動画は自分をかぶせることが出来るので、疑似体験のようで分かりやすかった。
 実技評価動画は大変参考になりました。
 女性の声は聞きやすかったです。
 全ての内容を把握できないのでどの場面でも何度も視聴したい

| ③WEBツールの操作についてお聞きします | |
|---------------------------------------|-----------|
| ①WEBツールの操作案内(メールでご案内した資料)は分かりやすかったですか | |
| 項目 | 個数 |
| 分かりやすい | 45 |
| 一部分かりづらい箇所があった | 23 |
| 全く分からなかった | 2 |
| 総計 | 70 |



②①で「一部分かりづらい箇所があった」「全く分からなかった」と回答された方は、具体的にどの部分が分かりづらかったのか教えてください
 3. 学習の進め方【ステップ1】のところまで3本線のマークが2か所あるので間違えてしまいました。マークを変えるか色を変えよとの工夫が必要と感じました。
 todoとクリップについてわかりにくかった
 どの順番で進めていけばよいかわかりづらかった。また、三(メニューボタン)をクリックすればよいと推測されるまでに時間がかかり、かつ、果たしてそれでよいのかどうか最後までわからなかった。実際、最後まで修了したのか、いまだ不安。操作の手順書があれば助かった。
 プログラムの進め方、学習済みの部分と、未学習の部分が非常にわかりにくく、同じ操作を繰り返し行うことになった。
 学習の進め方の部分 3本線のマークとの違いが最初はわからず、何度も行ったりきたりしてしまいました。
 視聴終了すると、消えることがはじめわかりにくい
 進める順番と終わりがよくわからなかった。
 pc操作方法が苦手の人であれば、少し混乱した部分がありました。
 パソコン画面に次へが出てこなかったり、図どおりではなかった
 よくメールの説明を読めばよかったのですが、クリア済みの対象とならない方の動画をみてしまった。画面に説明があると分かり易い。
 最初、画面下の次へ前へに気がつかなかった。
 最初に評価してみましょう の部分で評価したが次に進めない。何度も評価を入れてしまった。評価した内容に問題があるのかと思ってしまった(○をxとチェックしたのかもしれない) 3度ほど入力しては戻りをくりかえしてしまっ。よく見ると、次のキャプチャーをクリックしていないので入れなかった。ここは、もう少し説明があるほうがよい
 操作がわかりやすく、印刷などをして確認をしたくてもできなかった。
 操作しているうちに理解が出来たが、はじめのうちは資料の操作手順がわかりづらかった。基本的な操作の説明、学習の進め方の説明がもう少し丁寧にはじめる前にほしかった。
 ①専用サイトに行くまでに時間が掛かった(PCが古いこともあると思います)
 メールパスワードは最後にmに見えログインできなかった
 一番最初の、「https://goo.gl/WL6CPJ」は、次回から、どこかのホームページにでもメニューボタンを用意してもらえませんか?アドレスを開始のたびに資料を見直して打たなければならないのが手間でした。
 最初のログインで手間取った。これはツールの問題ではなく、ツールに不慣れであったことによるものだった。操作自体はわかりやすかった。
 資料について知識がなく最初に読んで理解しがたい
 資料全体がもう少し大きくはっきりとした内容にしてほしい。
 最初、操作案内だけでは分かり難かったが、実際に使用しはじめると、スムーズだった。
 進み方が分からないまま、何とか終了したと思う。
 総論があり、各論に進むようにしてください。
 大きな流れが最初にあればよかった
 模擬評価
 模擬評価の画像が、映っていない部分があった

③実際にWEBツールを使ってみて困ったことはありましたか
 どこまで終わっているのかまだ終わっていないのか不安であった。
 どこまで進んだのかわからない。
 画面の開き方から進め方が分かりづらかった
 最後まで抜けなく出来たのか不安
 自分では終わったと思っていたが、終わっていないかったこと。
 自分の進捗状況を把握するのに戸惑いました。
 操作の手順についての説明が少なかった。PCに慣れないため、操作をきちんと理解するまで時間が掛かった。操作はいろいろクリックしながらやってみてわかってきた。学習にきちんと取りかかるまで少々無駄な時間がかかった気がする。画面表示の順番がわからなかったのと、自分の進捗状況がわかりづらかった。どれくらいの進捗状況かわかれば学習を進める上で助かったと思う。先が見えず途方にくれるような感じがした。カテゴリごとに見出しを色分けしてもよいのではないか?
 早送りをしていないのに、早送りするとクリアになりません。というのがいくつもあった。
 動画再生中に操作していないのに「早送りは・・・」の表示あり、何度も再生を繰り返した。
 特にないですが、間違えてバーを触ってしまうと、早送りするとクリア済になりません、と何度も出て面倒でした。一度クリア済が付いたものは、それが出来ないとなると、試験の実際のところを何度も確認したい時に便利だと思います。
 ①システムに慣れるのに頭の整理が必要でした(私の頭が固い...)
 慣れない環境で行ったので時間を要した。
 作業の途中で終了、ログアウトしていいのかわかりませんでした。その説明があれば、良かったと思います。
 資料として操作方法が送られているが使いこなすまでに時間がかかり上手く順次すすまないため同じ事を何度も繰り返すなど時間を費やし、遂行できたのかも不安が残る
 操作方法が慣れるまで、少し苦勞した

この事業は平成30年度厚生労働省生活困窮者就業準備支援事業費等補助金(社会福祉推進事業分)の一環として行われたものです。

**介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための
総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業
報告書**

平成31年3月発行

内容照会先 一般社団法人シルバーサービス振興会
〒105-0003
東京都港区西新橋3-25-33 NP 御成門ビル6階
TEL 03-5402-4880 FAX 03-5402-4884

この事業は平成30年度厚生労働省生活困窮者就
労準備支援事業費等補助金(社会福祉推進事業
分)の一環として行われたものです。

**介護技能実習評価試験における試験評価者の資質向上のための
総合的な支援ツールの開発に関する調査研究事業
報告書**

平成31年3月発行

内容照会先 一般社団法人シルバーサービス振興会
〒105-0003
東京都港区西新橋3-25-33 NP 御成門ビル6階
TEL 03-5402-4880 FAX 03-5402-4884